

池 50

昭和九年二月一日

江
市

翼
展
寄
贈

獨逸ニ於ケル社會政策

果



XVI
C
25

XVIII
C
28

EF4
8



上 申 書

小官在外中本務ノ餘暇ヲ以テ我國ト歐洲各國トノ財政經濟狀態ヲ比較シテ財
政狀態ニ於テハ我ノ彼ニ優ル所少カラサルヲ見ルト同時ニ經濟狀態ニ於テハ
之ニ反シテ慚汗自ヲ堪フル能ハサルモノアルヲ知レリ
經濟狀態ニ於テ我ノ彼ニ及ハサルモノアリトハ經濟力ノ分量ニ就テ之ヲ言フ
ニアラス新進ノ國ヲ以テ老熟ノ國ト比較シテ經濟力ノ分量ニ差異アルハ寧ロ
當然ト云フヘキノミ小官カ雙方ノ現狀ヲ比較シテ深ク自ヲ遺憾トシタルハ經
濟機關竝ニ金融機關ノ運用ニ於テ彼我ノ間著シキ相違アルノ外、經濟力ヲ涵
養スル所以ノ注意ト方法トニ於テ我ノ遙ニ彼ニ及ハサル所アルヲ以テナリ
生活ノ難易便否、國民ノ勤怠、國民性格ノ堅實ト否、勤勉ノ力ヲ發現伸張スルヲ
得ルニ必要ナル組織及方便ヲ整備スルト否、凡ソ此等ノ事國民經濟力ノ張弛

792733

ノ主因タルコトハ何人モ論述スル所ナリト雖モ其ノ實行ニ就テ之ヲ觀レハ時
ニ依リ國ニ依リテ非常ノ差ヲ見ルコトアリ歐洲大都會ト東京トノ間必要生活
費ニ於テ殆ト大差ナキカ如キハ其ノ結果ノ一トシテ視ルノ外ナカルヘシ我カ
工業上ノ能力未タ充分ニ發達セサルモ原料品ト勞銀トノ低廉ヲ以テ僅ニ彼ト
對抗スルノ状態ニ在ルノ時ニ於テ生活費ノ比較既ニ果シテ斯ノ如クシハ彼我
經濟上ノ競争亦甚タ危カラントス

此ニ於テ小官ハ書記官森賢吾參事官小野義一ニ託スルニ所謂社會經濟策ノ實
行上ノ事例ノ調査ヲ以テシ社會經濟即民政中ニ包含スル諸事項ヲ生活上ノ組
織及小資本ノ蓄積利用トノ二項ニ纏メ之ヲ以テ調査要項トナセリ而シテ主要
諸國ニ於テ行ハル、現在ノ事例ト其ノ基ク所ノ事情ヲ明ニシ以テ我ノ今後實
行問題ノ參考ニ供スルヲ以テ本調査ノ主旨トナシ社會經濟ニ關スル學問上ノ

議論竝ニ社會經濟策實行上ニ於テ案出セラレタル各主義ノ利害得失ノ研究ハ
全ク本調査ノ範圍外ニ置ケリ

前記ノ趣旨ト要項トニ依リ森書記官ハ英國、小野參事官ハ獨國ニ於テ各調査
ニ著手セリ

英國ニ於テハ材料既ニ略々集マリタルモ未タ之ヲ纏ムルノ暇ナシ獨國ニ於テ
ハ一部分ハ既ニ纏マリタルヲ以テ此頃小野參事官ヨリ之ヲ送付セリ

小官之ヲ熟讀シ調査頗ル其要ヲ得タルヲ認ム依テ不取敢之ヲ閣下ノ左右ニ進
達ス其ノ足ヲサル所ハ小官再ヒ渡歐ノ上更ニ調査ヲ進メテ之ヲ完成スヘシ
抑社會經濟ノ問題タル庶民日常ノ生活状態ト一體ヲ爲スヲ以テ其ノ解決ハ立
法上ノ一般的命令ニ求メ難ク又之ヲ政治上ノ決定ニ求メ難シ此ノ問題ハ唯熱
誠深切ナル大悲心ト利害連帶ノ友愛トヲ基トシテ初メテ解決スルヲ得ヘシ國

家ノ行爲ハ此ノ大悲心ト友愛トノ發動ヲ助長シ其ノ妨害ヲ除クニ於テノミ其ノ效果ヲ收ムルヲ得ルモノナリ英國ニ於テ現存スル廣大無邊ノ厚生の各組合ハ國民自助ノ氣風ト「ロックデール」小市ノ職工二十七名ノ發心トヲ基礎トシテ成立シ、伊國北部ノ模範的民政上ノ施設ハ人民勤勉ノ氣風ト「リュザッチ」ノ在野中獻身的盡力トニ依リテ完成シ、獨國今日ノ富強ノ基ヲ爲セル各種社會的施設ハ獨人ノ地方團結心ト「ライプアイゼン」「シユルツエ、デリツツ」ノ深切ナル施設トニ依リテ成レルカ如ク主要諸國ノ事例皆ナ然ラサルハナシ夫レ本問題ノ性質此ノ如シ其ノ解決ハ特ニ深切ナル注意ト恆久ノ忍耐トヲ要スル所以此ニ在リ其ノ解決ノ如何ニ依リテ富強ノ分ルヘキ重大問題ナルニ拘ハラス往々忘レテレタル如キ形ヲ遺スコトアル所以亦實ニ此ニ在リ夫レ幾千年ノ歴史ヲ有スル國民ハ必ス略々一定ノ特別ナル慣習ト之ニ適應ス

ル施設物トヲ有スルモノナリ之ヲ助長シ之ヲ改善スルハ爲政者及先覺者ノ任務ノ最大ナルモノ、一ニシテ國ノ強弱實ニ此ニ繫ルモノナリ徳川氏時代治平三百年ノ餘澤社會的施設ニ及ヘル所頗ル深ク其地方ニ存在セシ施設ハ取テ以テ歐洲現在ノ施設ト對抗セシムルヲ得ヘキモノ少カラサリシカ維新以降國家政策問題ノ急アリ舊新志想ノ調合未タ熟セサル所アリカヲ社會的施設ニ及ホスノ餘裕ニ乏シク爲メニ従前ノ善良ナル施設往々荒廢ニ歸シタルモノアリト雖亦前賢ノ遺績ノ尋ヌヘキモノモ少カラス且當局者竝ニ篤行ノ人ノ新施設ニシテ良好ナル效果ヲ生セントスルモノ亦多シ今ニ於テ政府當局者率先シ民間篤志家ト提携シテ民政ノ進歩ヲ謀ラハ數年ヲ出スシテ其效果意外ニ大ナルモノアルヘシ内務大臣閣下ノ深意必ス此ニ在ルヲ信シテ疑ハス本調査ハ此趣旨ノ實行ニ關シ萬一ノ參考資料ヲ供セント希フニ外ナラス固ヨリ彼我民情風俗

ノ異ナルアリ取捨選擇ハ識見ト注意トヲ要スルコト大ナリト雖亦採テ以テ利用スルヲ得ヘキモノ少カラサルヘシ又主務省ニ於テハ從來調査研究シタル所少カラス從テ本調査ト重複スル所多カルヘキモ調査ノ趣旨ニ應シテ擧クル所ノ要領自ラ異ナル所アルヘキヲ以テ兩ナカラ併セ用ユルヲ得ヘシ
小官本調査ニ著手スルニ當テハ單ニ外國ニ於ケル現狀ヲ明ニスルニ止メス尙ホ進テ之ヲ本邦ニ於テ實行スル所以ノ道ヲ考究シ其ノ方法ヲ具シテ閣下ノ尊覽ニ供ヘンコトヲ期セリ然ルニ本年前半季間ハ本務多事ニシテ殆ト其ノ餘暇ヲ有セス且外國ニ於テハ實行上ノ方法ヲ考案スルニ必要ナル本邦ノ材料ヲ得難シ故ニ茲ニハ單ニ調査ノ結果ヲ報告スルニ止メ實行方法ノ提案ハ之ヲ他日ニ譲リタリ

然レトモ民政事項中貯蓄機關ノ設備ハ我邦ノ現狀ト彼ノ現狀トヲ對比シ一日

モ忽ニシ難キ急アリト考ヘタルヲ以テ歸朝以來多少ノ餘暇ヲ以テ諸般ノ事情ヲ考究シ幸ニシテ略々實行方案ヲ立ツルヲ得タリ不日之ヲ閣下ノ左右ニ奉呈スルヲ得ヘシ

右小野參事官調査報告書ノ一部ヲ進達スルニ際シ本調査ニ著手シタル所以ノ趣旨ヲ開陳ス願クハ閣下特ニ尊覽ノ榮ヲ賜ハ小官等ノ本懷之ニ過キス謹言

明治四十二年九月

帝國特派財政委員

大藏次官法學博士 水町 袈 綏 六

內閣總理大臣兼大藏大臣侯爵桂 太郎閣下

獨逸ニ於ケル社會政策調査報告書目次

獨逸ニ於ケル社會政策

緒論 社會政策ノ意義

第一款 國家ノ側ヨリスル社會政策

第一章 獨逸國建設即千八百七十一年前後ニ於ケル社會政策

第一節 立法

第二節 社會的運動

第一項 勞働者運動ノ濫陽

第二項 論壇社會主義者及クリスト社會主義ノ先驅

第三項 千八百七十八年迄ノ社會民主黨

第四項 勞働組合

第五項 クリスト社會主義的勞働黨

第二章 非社會主義法律ト勞働保險

第一節 比公ノ社會政策的見地

一頁
二
二
二
二
九
〇
〇
二
二
一〇
一六
一八
一九
二〇

第二節	非社會主義法律	二一
第三節	勞働保險法ノ初步	二四
第四節	勅宣	二五
第五節	勞働保險ノ議會討論史	二六
第六節	勞働保險ノ組織	二九
第七節	疾病保險法	三〇
第八節	災害保險	三〇
第九節	養老保險	三四
第十節	帝國保險局(Reichsversicherungsamt)	三八
第十一節	勞働保險ノ統計	三九
第十二節	勞働保險ノ缺點及改良策	三九
第三章	勞働者保護法	四二
第一節	比公ノ勞働者保護法ニ對スル態度	四二
第二節	新帝ト比公トノ衝突	四四
第三節	非社會主義法ノ滅亡	四七

第四節	二月勅宣	四八
第五節	Staatsrat及列國會議	四九
第六節	新時代ニ於ケル社會政策	五一
第一項	社會的運動ノ再燃	五一
第二項	非社會主義法滅落後ノ社會民主黨	五二
第七節	非社會主義法ノ滅亡後ニ於ケル勞働組合ノ活動	五四
第八節	新社會政策時代ニ於ケル立法	五六
第一項	千八百九十一年ノGewerbeordnung工場法	五六
第二項	工業裁判所(Gewerbegericht)	六三
第四章	社會政策ノ進歩ト退歩	六四
第一節	新時代ニ於ケル非社會政策派	六四
第二節	Umsturzvorlage及Zuchtansvorlage	六五
第三節	千八百九十一年乃至千九百年間ノ社會政策的立法	六六
第五章	近時ノ社會政策及其將來	六七
第一節	社會政策ニ對スルPasadowskyノ態度	六七

第二節	社會政策的立法及行政	六七
第三節	未決問題	六九
第四節	社會的運動	七一
第五節	社會政策ノ現在及將來	七二
第二款	地方團體特ニ市ノ側ヨリスル社會政策	七三
第一章	概說	七三
第二章	各論	八四
第一節	土地差増稅(Wertzuwachsteuer)	八四
第一項	概說	八四
第二項	立法例及財政的成績	八八
第三項	差増稅施行上ノ注意	一一一
第二節	失業狀態ノ救濟	一一四
第三節	市立市場	一一七
第四節	貯蓄金庫(Sparkasse)	一一八

附錄

第五節	市立銀行	一二四
第六節	市立店舖	一三一
第三款	私人ノ側ヨリスル社會政策	一五一
第一章	產業組合	一五一
第一節	概說	一五一
第一項	觀念	一五一
第二項	獨逸國家ノ產業組合ニ對スル態度	一五二
第三項	種類	一五六
第四項	生產組合ノ機關組織及財政	一五七
第二節	各論	一五八
第一項	信用組合	一五八
第二項	消費組合	一六五
第三項	生產組合	一七二

第四項	建築組合	一七六
第五項	原料購買組合	一七九
第六項	販賣倉庫組合	一八一
第七項	機械類購入組合	一八三
第八項	商人ノ購買組合	一八四
第九項	獨逸ニ於ケル產業組合ノ經濟的統計	一八四
第二章	勞働者殖民 (Arbeiterkolonien)	一八五
第三章	失業保險 (Arbeitslosigkeitsversicherung)	一八七
第四章	國民飲食店 (Volkskitchen)	一八九
第五章	勞働口入	一九〇

附 錄

一、各國歲出入、公課、國債額、國債費比較表	一九七
二、國富比較表	一九八
三、伯林商業會議所ノ組織及活動	二〇〇

四、普國ニ於ケル勸業銀行其ノ他不動産抵當信用機關ノ制度運用	二〇九
五、獨逸國債證券ノ紛失ニ關スル法規及處分(帝國及普國)	二四〇

獨逸ニ於ケル社會政策調査報告書

獨逸ニ於ケル社會政策

緒論 社會政策ノ意義

社會政策トハ社會問題解決ノ政策ヲ意味ス社會問題トハ如何ニセハ經濟的生活條件生活上ノ習慣乃至生活現象ノ相隔離セル社會的階級間ノ利害關係ヲ調和シ社會ノ圓滿ナル發達ヲ期シ得ルヤヲ指シ政策トハ如上ノ社會問題ヲ解決スル手段方法ヲ云フ政策ト云フト雖モ必スシモ公權力ノ發動ニ由ルモノ、ミヲ意味セス私ノ方面ヨリ出ル手段方法亦固ヨリ政策ノ義ニ含マル

故ニ社會政策ハ主體ヨリ觀察スレハ公ノ社會政策ト私ノ社會政策トニ分ツコトヲ得公ノ社會政策ハ更ニ分レテ國家ノ側ヨリスルモノト地方團體特ニ都市ノ側ヨリスルモノトニ分ル

獨逸ニ於ケル國家ノ側ヨリスル社會政策ハ必スシモ弘ク如上ノ意義ニ於ケル社會問題ノ解決方法ナリト云フヲ得ス歴史的沿革的ノ理由ニヨリテ寧ロ社會問題ノ一部分但主要部分タル勞働者問題ノ解決ニ限局セラル、ノ傾アリ從テ以下獨逸ニ於ケル國家ノ側ヨリスル社會政策ヲ説クニ當リテモ此立脚地ヲ離ル、能ハス

第一款 國家ノ側ヨリスル社會政策

第一章 獨逸國建設即千八百七十一年前後ニ於ケル社會政策

第一節 立法

國家ノ側ヨリスル社會政策ハ帝國建設時代即千八百七十一年ヨリ初マル蓋シ此時ヲ以テ初メテ中央政府ノ確立アリ全帝國ニ互レル社會政策的立法ノ見ルヘキモノアルニ由ル然レトモ是等立法ノ前驅ハ帝國建設以前既ニ獨逸各國ニ於テ存シタルヲ以テ千八百七十一年以降ノ立法ヲ研メントセハ必ズヤ多少千八百七十一年以前ニ遡ルノ必要ヲ感セスンハ非ス實ニ獨逸ニ於ケル社會政策ノ萌芽ハ十八世紀ニ胚胎ス即チ所謂 *Zunftsystem* (手工業者ノ團結)ノ存在シタル當時既ニ後世ノ社會政策ノ基礎在リタリト云フヲ至當トス

手工業小工業カ工業界ヲ支配シタル當時ニ於テ勞働者ト使用主又ハ企業家トノ關係ハ極メテ親密ニシテ所謂倫理的要素ハ兩者ヲ連絡スル元素タリシニ拘ハラス政府ノ側ヨリスル社會政策的干涉ハ亦決シテ絶無ニ非リキ即チ企業家ト徒弟間ノ關係ニ付國家カ立法ニヨリテ企業家ノ行動ヲ支配セシ如キ即チ之レナリ只現今ノ意味ニ於ケル勞働者保護法ハ千八百四十年關稅同盟成立ノ當時ニ於テ初メテ萌芽ヲ見ハセリ即チ所謂產業革命ハ手工業小工業ヲハ生産界ヨリ驅逐シ大工業機械工業之レニ代リタル以來

初メテ現時ノ意味ニ於ケル勞働者保護法ニ濫陽セリ

Zunft 時代ニ於テモ國家ノ社會政策的立法ツノ必要アリタリトセハ産業革命以降資本キ位主義 *Capitalism* カ經濟生産界ヲ支配シ企業家ト勞働者間ノ關係ハ倫理的要素漸ク跡ヲ絶チ兩者ヲ緩ク連絡スル元素ハ單ニ利害關係ニ過キサルコト、ナリ勞働者企業家ノ關係ハ一片ノ契約ニヨリテ形成セラル、ニ過キサルニ至リテヤ國家ノ干涉カ一層ツノ必要ヲ見ルニ至リタルハ當然ノ事ナリ何トナレハ兩階級間ノ利害關係ノ衝突乃至資本キ位主義ノ跋扈ハ漸ク極端ナル社會主義ヲ產出シ延テ國家ノ團結ヲ動搖セシメツノ存在ヲ危殆ナラシムルニ至リタレハナリ故ニ國家カ立法ニヨリテ勞働關係ニ干涉スルハ單ニ社會ノ弱者タル勞働ヲ哀ムノ倫理的觀念ニ基ケルノミナラス實ニ國家自衛ノ必要ニ出テタルモノト云ハサルヘカラス他ノ文明國ニ於ケルト同シク獨殊ニ普ニ於テモ幼者ニシテ製造場ニ使用セラレツノ結果幼者ノ健康上乃至倫理的關係ノ腐敗ヲ來スニ至リテヤ國家ノ社會政策的立法ト茲ニツノ活動ヲ見スレテ已ムヘキニ非ス即チ千八百十年代ニ於テ「ライン」地方ノ工場ニテ數千人ノ幼者ハ工場ニ使役セラレ中ニハ實ニ滿四歳ニ過キサルモノアラリニ「グロシエン」(我六錢)ノ日給ヲ得テ一日十時間乃至十四時間ノ勞働ニ從事セルノミナラス夜業ニ就キタルコトモ亦少カラス之レカ爲メ勞働者ハ著シクツノ健康ヲ損シ腺病肺症喘息皮膚疹等ノ疾病ニ罹レルモノ日ヲ追フテ多キヲ告ク是ニ於テ千八百二十八年同地方ニ駐屯シタル陸軍中將 *Von Horn* ハ時ノ普國キ王フリードリッヒウイールヘルム一世ニ一書ヲ呈シ同地方ノ不健康

ナル到底軍隊ヲ駐在セシムルニ適セサルコトヲ切言セリ此結果千八百三十九年國王ハ勅令ヲ發布シ九歳以下ノ幼者ハ絶對ニ工場ニ使用スヘカラサルコト九歳乃至十六歳以下ノモノハ夜業ニ從事セシムヘカラス且ツ一日十時間以上ノ労働ヲ與フヘカラサルコトヲ規定セリ之レ實ニ獨ニ於ケル社會政策的立法ノ萌芽ナリトス次テ千八百四十五年工場法ノ發布トナリ地方警察官署ハ工場労働者ノ健康状態乃至倫理的狀況ヲ嚴シク監視シ普通教育ノ不完全ナル幼者ハ斷テ労働ニ服セシメサルコトヲ勵行セリ更ニ千八百四十九年二月九日ノ條例ニ依リ何人モ日曜及祭日ノ労働ヲ強制セラル、義務ナキ旨ヲ規定シ同時ニ Generalbesten 官吏ヲ使命シ一日労働時間ノ最長度ヲ確定センコトヲ期シ所謂 Trucksystem 即チ金錢以外ノ物品ヲ以テ勞銀ノ支拂ヲ爲スコトヲ嚴禁シ千八百五十三年五月十六日ノ法律ハ更ニ千八百三十九年ノ勅令ニ改正ヲ加ヘ爾今十二歳以下ノモノハ斷テ労働ニ使用スヘカラス十四歳以下ノモノハ一日最長六時間ノ労働ニ服シ且毎日三時間ノ普通教育ニ從事スヘキ旨ヲ規定シ Arbertshuch (假リニ労働帖ト譯ス労働者ハ兼テ警察官署ヨリ無償交付ヲ受ケ労働契約期間中企業家ニ託シ置キ解雇ノ時ニ返戻ヲ受ケ更ニ新ナル使用主ヲ見出し之ニ託シ置ケモノニシテ警察官署ハ労働者ノ身分ヲ記入シ使用主ハ労働ニ就キタル始期及終期労働ノ種類ヲ記入ス)ニ關シ嚴重ナル規定ヲ設ケ且ツ必要アル場合ニハ工場検査官ヲシテ工場ノ検査ヲ行フノ制ヲ設ケタリ

以上ハ北獨逸聯邦成立前ニ於ケル普國ノ社會政策的立法ノ概略ナリ

次ニ「バイエルン」ニ於テハ千八百四十年初メテ工場ニテ學齡兒童ヲ使用スルコトニ關シ規定ヲ設ケ製造場、鑛山業、溶鑛所等ニ於ケル労働ヲ嚴禁シ九歳以上ノ幼者ハ體格強健ニシテ普通教育ヲ了ヘタルモノニ限リ工場ノ労働ニ從事スルコトヲ得十二歳以下ノモノハ一日十時間以上ノ労働ニ從事セシムヘカラス且夜業ニ就カシムヘカラスト定メ水銀砒素ヲノ他有毒ナル色素ヲ製造スル工場ニ於ケル労働者ノ健康ヲ保存スル爲メニ特別ナル保護規定ヲ設ケタリ

「エルデンベルヒ」ニ於テモ千八百六十一年工場法ヲ發布シ二十人以上ノ労働者ヲ使役スル工場ニ對シテハ健康ニ有害ナル労働ニ關シ特別ノ保護規程ヲ設ケ「トルックシステム」ヲ嚴禁シ十八歳以下ノ労働者ハ教會及學校ニ通勤スルコトヲ妨ケラル、コトナク且ツ健康ヲ害セラレサル程度ニ於テ工場労働ニ従事シ得ヘキ旨ヲ規定セリ

「ザクセン」王國ニ於テハ千八百六十一年工場法ニヨリテ十歳以下ノモノ、工場使用ヲ禁シ千八百六十五年同法ハ十二歳以下ノモノニ關シ同様ノ規定ヲ置キタリ而シテ茲ニ工場トハ二十人以上ノ労働者ヲ使用スル工場ヲ指スモノナルコトヲ規定セリ且ツ十四歳以下ノ幼者ノ晝間労働ハ十時間ヲ限度トシ夜間労働ハ嚴禁セラレタリツノ他「トルックシステム」ノ禁止労働者ノ健康保護ニ關スル規定ハ既ニ早クヨリ制定セラレアリキ

「バーテン」大公國ニ於テハ千八百四十年以來學齡兒童ノ労働者ニ付保護ノ規定ヲ設ケタリ即チ十一歳

以上ノモノニ限リ初メテ學校通勤ヲ爲スノ義務ヲ免シテノ代リ工場ニ於テ相當ノ教育ヲ受クヘキ旨ヲ定メ工場ニ於ケル學業勞動ノ時間ハ合シテ十二時間ヲ超ユヘカラサル旨ヲ定メ夜業並ニ日曜祭日ノ勞動ヲ嚴禁シ千八百六十二年工場法ハ二十人以上ノ勞動者ヲ使用スル工場ニ於ケル勞動規程ニ關シ特別ノ補則ヲ設ケ機械ノ使用ツノ他健康上有害ナル材料ノ使用ニ關連スル勞動者ノ健康保全ヲ得セシメンコトヲ期セリ

ツノ他大ナル聯邦ニアリテハ千八百六十九年以前已ニ何レモ勞動者保護法ノ制定アリ唯小國ニ於テハ稍モスレハ燐寸製造ノ如キ特別ノ危險アル工場ニ對スルモノ、外ハ一般ニ保護法ヲ缺如セルモノナキニ非リキ

千八百六十九年北獨聯邦ノ設立アリタル後北獨聯邦全部ニ互リテ一般工場法ノ制定アリ内容ハ前掲普國ノ工場法ヲ襲用シ之レニ多少重要ナル進歩的規程ヲ加ヘタルモノニシテ之レニ由レハ企業家ハ勞動者ノ生命健康ヲ保護スル爲メニ自己ノ費用ヲ以テ特別ノ設備ヲ爲サ、ルヘカラス且工場法ハ普通ノ製造場ニ限ラス鑛山業鑛所ニモ適用ヲ弘ムルコト、ナレリ

右北獨聯邦工場法ハ帝國建設ノ後之レヲ帝國ニ襲用スルコト、ナレリ即チ從來北獨聯邦ニ加ハラザリシ聯邦ニシテ帝國ニ合體セルモノニモ凡テ適用セラル詳言スレハ南「ヘッセン」ニハ千八百七十一年一月「ユルテンベルヒ」「バーデン」ニハ千八百七十二一年一月「バイエルン」ニハ千八百七十三年一月「エルサス、ロートリンゲン」ニハ千八百八十九年一月以來施行セラル、コト、ナレリ

右述フル如ク獨ノ工場法ハツノ施行區域ニ關シテハ急速ナル進歩ヲ見タリト雖モ之カ内容ニ至リテハ未タ社會政策家ノ満足ヲ買フニ足ラサル點ナキニ非ルノミナラス他方ニ於テ大企業家大工業家ノ如キハ自己ノ受クヘキ禍絆ニ對シテ著シキ不平ヲ唱ヘ政府ノ干涉ハ工業ノ進歩ヲ阻害セシムルモノト絶叫セリ

社會政策ノ見地ヨリシテ不充分ナリト思惟スヘキ工場法ノ缺點ハ工場勞動ニ従事スル女工ノ保護規定ノ欠缺工場検査及日曜休業ノ勵行ヲ目的トスル規定ノ欠缺之レナリ

獨帝國建設者タル大宰相比斯麥公ハツノ當初ニ於テハ當時ノ工場法ノ内容ヲ以テ既ニ充分ナリトシ之レ以上ニ社會政策的立法ヲ畫スルコトハ政府カ漫リニ企業家ノ私事ニ干涉スルモノニシテ不當ナリトシ企業家勞動者間ノ經濟的競争ハ全然彼等ノ自由ニ放任スヘキモノナリトノ見解ヲ有セルコトハ獨逸近時ノ社會政策的立法史ニ於テ注目スヘキ現象ナリトス

企業家ノミニ保險料ヲ拂込マシメス進シテ労働者ニモ同様ノ義務ヲ課セシムルコト、セリ
千八百七十八年ニハ工場法ノ改正アリテ労働帖「アルバイツブック」ノ規定ヲ變更シ且ツ労働契約破棄ニ
對スル制裁ヲ加ヘタリ即チ他ノ企業家ニ使フル労働者ヲ使嗾シテ労働契約ヲ破棄セシメタル企業家ハ
之ニヨリテ生スヘキ損害ニ付先キノ企業家ニ相當ノ賠償ヲ爲スヘキ旨ヲ定メタリ加之幼工ノ外ニ猶女
工ニ對シ保護規定ヲ擴張セリ之レ實ニ労働保護法ノ發達史ニ於テ注意スヘキ現象ナリトス即チ分娩後
三週間内ハ工場労働ニ從事スヘカラス健康及風俗ヲ紊亂スル虞アル労働ニハ從事スヘカラス又ハ一定
ノ企業ニ就テハ女工ノ夜業從事ヲ禁止セシカ如キ工場検査ヲ勵行セシカ如キ之レナリ而シテ工場検査
ヲ實行スルカ爲メニ約三十人ノ工場検査官ヲ使命セリ（千八百九十一年比公退職後ハ百七十八人ニ増加
セリ）

以上ハ直接ノ社會政策の立法ト見ルヘキモノナルカ此外間接ノ社會政策の立法ト見ルヘキモノアリ即
チ千八百八十年利息制限法ノ如キ千八百八十二年以來發行セラル、職業統計ノ如キ千八百七十四年新
聞紙條例及從來ノ北獨聯邦ニ適用セラレタル普通選舉法ヲ帝國ニ襲用セシ如キ即チ之レナリ若シ新聞
紙條例ノ發布ナカリセハ社會的病態ノ存在ヲ詳ニシ朝野ノ人士ヲシテ社會改良ノ必要ヲ認識セシムル
コトヲ得サリレナルヘク普通選舉法無カラシカ労働者ハ自己ノ代表者ヲ議會ニ選出シ以テ社會政策の
立法ノ進捗ヲ促スノ手段ニ窮シタルヘキヲ以テ此ニ法律ノ社會政策ニ資スル所ハ頗ル大ナルヲ疑ハス

故ニ獨ニ於ケル社會政策ノ發達ヲ以テ單ニウイヘルム一世及二世ノ政府ノ功績トノミ見ルハ非ニレ
テ同時ニ帝國議會ノ右ニ法律ニ關スル社會政策の立法ヲ稱揚スヘキナリ
以上ヲ以テ帝國建設前後ニ於ケル社會政策の立法ノ大要ヲ述ヘタリ之レト同時ニ看過スヘカラサルハ
如何ナル社會的動機アリテ此立法ヲ引起シタルヤヲ研ムルコト之レナリ次節ニ述フル社會的運動ハ即
チ之レナリ

第二節 社會的運動

人若シ獨逸帝國ノ社會政策の立法ノ發達ヲ以テ單ニ政府ノ人道的觀念ノ發動ニノミ歸スルモノアラハ
誤レリ固ヨリ政府ノ人道的觀念カ立法ノ發達ニ資スル所アルハ否定スヘカラスト雖モ之レヨリモ一層
強力ナル動機ト目スヘキモノハ即チ國民ノ理性的觀念ナルコトヲ記セサルヘカラス見スヤ千八百三十
九年工場法ノ發布ハソノ本ク所實ニホルン中將ノ建白ニアルニ非スヤ謂ハ、國民ノ理性的觀念ノ發現
ニ外ナラサルナリ理性的觀念ノ發現トハ何ソ茲ニ題スル社會的運動即チ之レナリ實ニ十九世紀ニ於ケ
ル社會政策ハ社會運動ノ結果ナリト云フコトヲ得

以下敘述セントスル社會的運動トハ労働者ノ地位ヲ改良セントスル労働者並ニ一般公衆ノ運動ニシテ或
ハ宗教的及人道的動機ヨリ或ハ國民經濟的見地ヨリ労働者ノ地位ヲ高メントスルノ運動ヲ意味ス

第一項 労働者運動ノ濫觴

労働者ノ社會的運動ノ第一先驅ト見ルヘキハ千八百四十八年「シユレ、シエン」ニ於ケル織物職工ノ「ストライキ」ニアリ此ノ社會的運動ハ爾後起リタル社會民主黨ノ運動トハ異リ何等政治上ノ目的ヲ有スルニ非スレテ只自己ノ境遇ノ不如意ヲ嘆スルノ餘リ工場ニ對シ機械ニ對シ又ハツノ所有者ニ對シテ暴行ヲ企テタルニ過キス然ルニツノ後間モ無ク起リタル社會的運動ニシテ注目ノ値アルハ千八百四十八年柏林市ニ開カレタル労働者大會ノ決議ナリ此ノ決議ハ十時間労働ノ設定幼年者労働ノ禁止ノ如キ社會政策的綱領ノ外ニ社會民主黨ノ特色ト見ルヘキ政治上ノ權利自由ノ主張ヲ標榜シタリツノ他千八百四十八年「ライン」地方ニ於テカール、マイクス及ヒツノ與黨ハ共產社會主義煽動ヲ企テ千八百六十二年ラツサルノ創設セル「一般獨逸労働組合」(Allgemeiner Deutsche Arbeiterverein)ハ亦社會的運動トシテ特筆スヘキモノニシテ實ニ獨逸ニ於ケル社會民主黨ノ先驅タリ余ハ是等社會民主黨ノ運動ヲ敘述スルニ先チ暫ク此時期ニ於ケル一般公衆ノ運動ニシテ労働者保護ノ主旨ニ出ルモノヲ説カントス

第二項 講壇社會主義及クリスト社會主義ノ先驅

理論的ニ學問的ニ社會主義ヲ唱道セル者ノ先驅トシテ擧グヘキハカール、ロードベルグス(Karl Rodbertus)千八百五年—七十五年)ニシテツノ主張スル議論ハ經濟學者間ニ至大ノ影響ヲ與ヘタリ氏ハ貧困及商業恐慌ノ社會ニ現ハル、所以ノ原因ヲ労働者カ労働ノ不充分ナル價格ヲ收得スルヲ以テ甘ンセサルヘカラスナル社會状態ニ歸シ此社會的病源ヲ除去センニハ労働ノ價格ハ専ラ國家ノ手ニテ決定セサルヘカラス且ツ各營業ニ付一日中ノ労働時限ヲ定ムルノ必要アルコトヲ唱ヘ此ノ如クニシテ初メテ労働者ハ資本家ト同等ノ地位ニ立チテ労働ノ價格ヲ享有スルコトヲ得從來ノ困厄ナル境界ヨリ脱シ得ヘント信セリ學問ノ方面ヨリモ寧ロ實際家トシテ労働者ノ地位ノ改良ニ盡力シタルハVictor Aime Huber(千八百一年—八十九年)及ヒJohann Heinrich Wiehern(千八百八年—八十一年)ノ二人ニシテ共ニクリスト社會主義ノ先驅ト目セラレタル人ナリフーバーハ職ヲ大學教授ヲ奉シ兼テ普國ニ於ケル極端保守黨ノ首領タリ身ヲ労働者ノ境遇ノ研鑽ニ委ネ労働者ノ不幸ハ即チ社會ノ病態ナリ之レヲ除去スルコトハ實ニ國家竝ニ基督教徒ノ任務ナリトセリ然ルニ氏ノ主張ハ宗教界ニ容レラレタルニ反シ不幸ニシテ氏ノ黨與ノ歡迎スル所トナラサルヲ慨シ自ラ黨籍ヨリ脱シ専ラ宗教的勢力ニヨリテ自家ノ主張ヲ貫カント務メ且ツ公益上ノ主旨ニ出テタル建築會社ノ指揮者トシテ社會政策ノ實行ニ務メタリ是ニ於テカ初メテウイッヘルンノ理想ト合致スルニ至レリ

ウイッヘルンハ當初ヨリ宗教界ニ於ケル社會政策家ノ態度ヲ維持シ曾テ政治界ニ活動ヲ試ミタルコトナシ千八百四十八年「ウイッテンベルヒ」ニ開カレタル宗教大會ニ於テ試ミタル演説ハ實ニ宗教界ヲ震

據シ社會政策ハ宗教ノ力ニ依リテ初メテ實效ヲ收ムヘキモノナルコトヲ鼓吹シ勞働者ノ宗教的團結ヲ以テ社會政策實行ノ手段トシタリ彼ノ後年クリスト社會主義ノ統領ト仰カレタル Adolf Stöcker ノ如キ Weber ノ如キ何レモ氏ノ流ヲ汲マサルモノナシ殊ニ後年勞働者保護法ノ制定ヲ豫想セル Kaiserliche Botschaft (勅宣)ノ如キモ實ニ氏ノ理想ノ表現ト見ルヘキモノニシテ將又勞働者ノ爲メニ日曜休暇ヲ主張シ幼者竝ニ囚徒ノ保護ヲ唱道セル如キハ社會政策史上忘ルヘカラサル事實ナリトス
 ウイツヘルンハ新教界ニ於テ社會政策ノ遂行ニ務メタルニ對シマインツ僧正 Bieder 男爵(千八百十一年—七十七年)ハ舊教界ニ於テ社會政策ノ實行ニ盡セリ彼ノ舊教勞働組合ノ如キクリスト勞働組合ノ如キ實ニ氏ノ創立ニ係ルモノニシテウイツヘルント竝ヒテ穩健著實ナル宗教的勞働組合ノ發達ニ務メ之ニ屬スル勞働者ヲシテ極端ナル社會民主黨ノ煽動的行動ニ加ハラシメサルノ功アリキ

第三項 千八百七十八年迄ノ社會民主黨

カールマールツス黨ノ共產主義的行動ハ千八百四十八年「ライン」地方ニ於ケルモノヲ以テ跡ヲ收メタリト雖モツノ主義主張ニ至リテハ後世ニ影響ヲ及ボシラツサルノ如キ亦實ニマールクスノ理想ノ支配ヲ脱スルコト能ハサリキラツサルノ主張トシテ社會政策史上看過スヘカラサルハ勞働者ノ爲メニ國家ノ補助ニ本ク生産組合ノ設立及之レヲ遂行センタメニ抱持シタル煽動的行動之レナリラツサルノ設立セル

勞働組合ハ設立後一箇年半ノ後即チ千八百六十四年八月氏ノ死去當時ニ於テ僅ニ四千六百十八ノ組合員ヲ數フルニ過キサリシト雖モ氏ノ後世ニ及ボセル勢力ハ牢固トシテ拔クヘカラサルモノアリ殊ニ從來自己ノ境遇ヲ悲觀シ向上ノ望ヲ絶チテ自暴自棄シタル勞働者ヲシテ勞働ノ神聖ナルコト自己ノ地位ノ改進シ得ヘキコトヲ自覺セシメタルカ如キ社會公衆ヲシテ勞働者問題ノ忽ニスヘカラサルヲ覺知セシメ官吏社會ヲシテ勞働者問題ノ研究ニ意ヲ注カシメタルカ如キ皆氏ノ力ナリ當時猶壯年ナリシ普國宰相比斯麥公ノ如キ亦氏ノ影響ヲ蒙レルモノ多カリキ殊ニ社會政策史上特筆スヘキラツサルノ功績ハ勞働者ヲシテ普通選舉法ノ必要ヲ認識セシメ勞働者ハ自己ノ代表者ヲ議會ニ提出スルコトニヨリテ初メテ社會政策的立法ヲ實現シ得ヘキコトヲ覺ラシメ勞働者ノ輕舉暴動ハ却テ彼等ノ地位ヲ上進セシムル所以ノ道ニ非ス實ニ普通選舉コソ社會政策ヲ進歩セシムル平和的且ツ確實ナル手段ナル所以ヲ了解セシメタルコトニアリ千八百六十七年以來北獨聯邦カ普通選舉法ヲ採用シ千八百七十一年以來帝國カ亦之レヲ襲用セルノ事實ハ實ニラツサルノ先見ノ明ヲ表ハスモノニシテ社會政策家ノ多クカ氏ヲ以テ社會政策上ノ豫言者ト呼フ所以茲ニ存ス

氏ノ創立セル勞働組合ハ前述ノ如ク死去當時ニ於テハ僅ニ四千六百十八ノ組合員ヲ數フルニ足ラサリシノミナラス氏ノ死去ニヨリテ組合間ニ分裂ヲ來シタル事實ハ一時勞働者ヲシテ自己ノ勢力ヲ政治界ニ伸フルコトノ不可能ナルヤヲ想像セシメタリ然ルニ氏ノ死去後三年即チ千八百六十七年北獨聯邦議

會ノ選舉ノ結果ハ如上ノ豫想ニ反シタル事實ヲ結果セリ即チ勞動組合ノ選舉數ハ五萬五千ニ達シ議會ニ二人ノ代議士ヲ選出セリ

社會民主黨ノ勢力ハツノ後漸次ニ加ハリ殊ニ首領 Liebknecht 及 Bebel ノ力ニ依リテ團結愈強固トナリ千八百六十八年「アイゼンナツハ」ニ於ケル社會主義勞動黨(Sozialistische Arbeiterpartei)ノ成立千八百七十五年「ゴータ」ニ於ケル數個ノ勞動黨ノ大會ヲ見ルニ至レリ而シテ一時ラツサル黨ノ爲メニ勢力ヲ失ヒタルマークス黨ハ漸次勞動黨ノ中心トナリ大會ノ綱領宣言ハマークスノ理想ヲ表ハセリ

勞動者ノ政治的運動ノ經過ヲ知ラントセハ須ラク彼等ノ大會ニ於テ爲セル綱領宣言ニ目ヲ注カサルヘカラス

ラツサルノ設立セル勞動組合カ千八百六十七年北獨聯邦議會ノ選舉ニ當リテ發表シタル宣言ハ無記名普通選舉ノ制定ラツサルノ主義ニ從ヘル國家ノ補助ニ本ク勞動者ノ自由結合ヲ以テ主張ノ骨子トセリ

「アイゼンナツハ」ニ於ケル綱領ハラツサル黨ノ綱領カ一國內ニ於ケル勞動者ノ自由又ハ權利ノ伸張ヲ主張スルニ反シ國際的ニ此目的ノ達セラルヘキヲ理想トシ社會政策ノ一端トシテ國家ハ生産組合ニ營業資本ヲ供給スヘシト主張レ一切ノ間接稅ヲ廢シ累進稅主義ノ直接所得稅及相續稅ヲ以テ之レニ代フヘシト說キ年齡二十歳以上ノ男子ニハ凡テ國家其他地方團體ノ議員ヲ選舉スル資格ヲ與フヘシト唱道セリ

「ゴータ」ニ於ケル大會ノ綱領ハ社會民主黨ノ持論タル生産手段ノ共有、生産物ノ平等分配ノ外ニ特ニ一定シタル社會政策的主張ヲ含ム何ツヤ曰ク團結ノ無限ナル自由ヲ獲得スルコト之ゾリツノ他一日中勞動時間ノ制定、日曜勞動ノ禁止、幼者ノ勞動禁止及健康風俗ニ害アル勞動ニ女子ノ從事スルコトノ禁止、勞動者ノ生命健康ニ害アル勞動ニ關スル保護規定ノ制定、勞動者住居ノ衛生方面ニ關スル監督鑛山業及家庭工業ヲハ勞動者ヨリ選出セル検査員ヲシテ監督セシムルコト有效ナル企業者賠償責任法、囚徒勞動ノ規定其他疾病救助金庫ノ完全ナル自治等何レモ社會政策的主張トシテ擧グヘキモノナリ

是等ノ綱領宣言ハ勞動者ヲシテ自己ノ地位ニ對スル自覺心ヲ增長セシメ各自ノ團結ヲ強固ニシ議會ニ可成多クノ代表者ヲ選出シ以テ社會政策的立法ノ編成ニ務ムルノ必要ヲ確認セシムル動機トナレリ即チ千八百七十一年ニ於ケル社會民主黨ノ投票數ハ十萬千九百二十七ニ増加シ一人ノ代議士ヲ出シ「ゴータ」大會前ニ行ハレタル選舉ニハ三十五萬千六百七十ノ投票數九人ノ代議士ヲ出シ千八百七十七年ノ選舉ニハ四十九萬三千四百四十七ノ投票數十二人ノ代議士ヲ出スニ至レリ

社會民主黨綱領ノ要旨ハ右ニ述ヘタルカ如シ然ルニ彼等ノ實際ノ行動ハ自家勢力ノ増進ニ伴ヒ漸ク過激トナリ加之無政府黨ノ連合アルカ爲メ益々常軌ヲ失スルノ暴動ヲ企テ綱領ノ精神以外ニ逸セル行動ヲ敢テスルニ至レリ之レ獨帝國政府カ一方ニハ社會政策的立法ノ進歩ニ務ムルト同時ニ他方ニハ Sozialistengesetz (假リニ社會主義法律ト譯ス)ノ發布ニヨリテ彼等ノ行動ヲ緊束スル必要ヲ感スルニ

至リタル所以ナリ

第四項 労働組合

從來述ヘタル社會民主黨ハ政治的運動ニヨリテ労働者ノ利益ヲ保護増進センコトヲ務ムルニ對シ以下述ヘントスル労働組合ハ労働者カ労働者トシテ自助的手段ニヨリテ自己ノ權利利益特ニ労働契約ノ條件ヲ保護増進セント期スル所ノ團結ニシテ元來獨逸ノ特産物ニハ非ス既ニ十八世紀ノ終リニ存在シタル英國ノ Trade union ノ輸入ニ外ナラス即チ英國ニテハ千八百二十四年ニ結社ノ解禁アリタル以來労働組合ハ全國ニ瀰漫シ遂ニ他ノ諸國又ハ英ノ殖民地ニモ播布セラル、ニ至レリ

元來英國ノ労働組合ノ成立セル本來ノ目的タルヤ法律上労働者ノ有スル労働契約ノ自由ヲ事實上企業家ニ對シテ完全ニ確保センコトヲ期スルニアリ從テ勞力ニ相當スル勞銀ヲ獲得スルヲ得ルコト適當ナル労働時間ノ制定、生命健康ニ害アル労働ニ關シテ適切ナル保護的設備ヲ爲スコト企業家ノ労働者ニ對スル優待等ハ實ニ労働組合ノ眼目タリ而シテ労働組合カ是等ノ目的ヲ達センカ爲メニ正々堂々企業家ニ對シテ自己ノ權利ヲ主張シ出來得ル限りノ調和策ヲ講シ而モ到底希望ノ容レラレサル場合ニ於ケル最後ノ武器トシテ「ストライキ」ヲ行フノミナリ故ニ從來屢起リタル「ストライキ」ハ労働組合ノ發達ト反比例ニ漸ク減少セシ、アルハ一般文明國ノ常體ニシテ獨逸亦此選ニ洩レス加之千八百六十年以來

労働者ト企業家トノ爭議ヲ調停スル Einigungsamt 又ハ判決スル Schiedsamt ノ設置ハ著シク「ストライキ」ノ數ヲ減スルニ至レリ而シテ多クノ組合ニアリテハ組合員カ疾病、死亡、無職業ツノ他ノ困難ニ陥ルニ當リテハ組合ノ金庫ヨリ救助ヲ與ヘ且ツ組合ハ労働ノ媒介ヲモ爲スモノアリ加之労働組合ハ組合員トシテハ専ラ労働ニ堪能ニシテ一定ノ修業ヲ了ヘタルモノ、ミヨ收容スル結果トシテ労働組合ハ同時ニ労働者ヲ教育スルノ機能ヲ有スルモノナリ

労働組合ヲ英國ヨリ獨逸ニ紹介シタルハ獨逸ノ學者ニシテ社會政策ノ實際家タル Max Hirsch ナリ氏ハ英國ニ赴キ産業組合ノ研究ニ志セシカ中途ニシテ労働組合ノ研究カ一層重要ノ急務ナルヲ認メ之レカ研究ニ自ラ委ネ歸國ノ後ニ柏林國民新聞ニ調査ノ結果ヲ報告セリ而シテ氏ハ獨逸ニ労働組合ヲ創設スルニハ宜シク政黨政派ノ關係ヲ離レシムヘキヲ理想トセリ然ルニ獨逸ノ労働者ハ當時已ニソノ大半ハ社會民主黨ノ旗下ニ屬セシヲ以テ氏ノ理想ヲ完全ニ現實スルコトハ頗ル困難ナリキ即チラッサルノ理想ニ陶冶セラレタル社會黨ノ首領 Frischa 氏ハ既ニ千八百六十五年煙草労働組合ヲ組織シラッサルノ死後ラッサル黨ノ牛耳ヲ執リツ、アン Schriener ト連合シテ千八百六十八年九月二十六日柏林市ニ労働者大會ヲ開キ種々ノ労働種類ニ屬スル凡テノ労働者ヲ打ツテ一團トセル労働組合ヲ組織センコトニ務メタリヒルシニモ亦此大會ニ一旦參加セリト雖モ自己ノ理想ノ衆ニ容レラレサルヲ慨キ中途ニシテ大會ヲ退キ自己ノ率ニル機械製造金屬類工業労働者ヲ中心トセル労働組合ヲ同年九月二十八日ニ組織

シタリ是レニ於テ獨ノ労働組合ハ分裂ノ不幸ヲ見ルニ至リ今日ニ於テモ融和ヲ見サルノミナラス後ニ至リテハクリスト労働組合、自由職業組合ト稱スル如キ別個ノ労働組合新ニ發生スルニ至レリ
 獨逸ニ於ケル労働組合ハツノ系統種々ニ岐ル、コト右ノ如シト雖モ要スルニ組合員ヲシテ階級的自覺心ヲ發揮セシメ労働ノ神聖ヲ自覺セシメ自治自助ノ精神ヲ鼓吹スルノ教化的功績アルニ至リテハ皆則チ一ナリ彼ノ後世起リタル疾病保險金庫ノ吏員ハ一部分労働者間ヨリ選出サル、カ如キハ實ニ組合員ノ自治心ノ發達セル左券ナリト云フヲ憚ラス加之政治的興味ヲ帶フル不秩序ナル社會民主黨ノ外ニ更ニ組織的ノ穩健ナル労働組合アリテ獨ニ於ケル労働問題ノ解決ヲ容易ナラシムルノ事實ハ社會政策家ノ喜ヒトスル所ナリ

第五項 クリスト社會主義的労働黨

前ニ千八百四十年代ニ於ケルクリスト社會主義ノ學者トシテフリーバー及ウィツヘルンノ活動ヲ説キメリツノ後同主義ヲ抱持セル者トシテハ牧師 Fott 及 Stöcher ノ二氏ヲ舉ケサルヘカラス伯林ニ於ケル社會民主黨ハ教會カ社會政策ニ關係スルヲ非難シ労働者ハ宜シク教會ヨリ分離スヘキ旨ヲ公ニ論議スルモノアリ社會民主黨 Most ノ如キ之レナリ之レニ對シテツケルハ教會カ社會政策ニ關係スルハ教會ノ立場トシテ相當ノ行動ナルコトヲ説キ宗教ヲ無視シ國家ヲ敵トシ革命ヲ理想トスル社會民主黨

ノ主義ニ烈シキ打撃ヲ加ヘタリ氏ハ千八百七十八年一月二十八日公然クリスト社會主義的労働黨ヲ組織シ從來全ク政治ニ關係ナカリシクリスト社會主義ヲシテ政治的及社會政策的ノ黨派ニ一轉セシメタリ氏ノ主張ハ空想的社會主義ヲ排斥シ労働者ニ對スル國家、教會乃至富民ノ保護及労働者ノ自治的救濟手段ヲツノ綱領トセリ、ツノ國家ニ依頼シ國家ノ力ニ依リテ企業家ト労働者間ノ軋轢ヲ和ラケ社會ノ圓滿ナル發達ヲ企圖スルノ點ハ實ニ社會民主黨ト大ニ區別セラルヘキ要點ナリ故ニクリスト社會主義ハ實ハ國家社會主義ノ一派ト目スルコトヲ得ヘシテ労働保護ノ方面ニ關シテハ日曜労働幼工労働及製造場ニ於ケル既婚女子ノ從業ヲ禁止スルコト労働時間ノ限定、國際的労働保護法ノ制定、労働者ノ住居及労働場ニ於ケル健康保存ノ設備、勞銀ノ増加ヲ主張セリ更ニ進シテ國家又ハ地方團體ノ可成企業家トシテ労働ヲ需要スルノ地位ニ立タンコトヲ希望シ租税制度ニ關シテハ社會政策的見地ヨリシテ累進所得税及相續税ノ採用スヘキコト取引所税及奢侈的消費税ノ増徴スヘキヲ唱ヘタリ氏ノ政治的功績ハ氏ノ活動時代タル千八百七十年代ニハ左程著シキモノナカリシト雖モ而モツノ主張カ朝野ノ讀者ヲ動カシ延テ千八百八十一年勅宣ヲ致シタルノ力ハ特筆ノ價値アリ

第二章 非社會主義法律ト労働保險

眞個ノ憲法ニ於ケル獨逸ノ社會政策ハ労働保險法ノ制定ヲ以テ始マル、労働保險法ノ制定ハ實ニ非社會

主義法律ト密接ノ關係ヲ有ス然ルニ勞働保險法ノ成立及非社會主義法律ノ沿革ヲ敘セントスルニ當リ先ツ説カサルヘカラサルハ當時ノ帝國政府ハ社會政策ニ對シテ如何ナル見解ヲ有セシヤ換言セハ大宰相比斯麥公ノ社會政策ニ對シテ有セシ見解如何ノ問題ナリ

第一節 比公ノ社會政策的見地

比公ハ公生涯ノ初期タル千八百四十年代ニハ社會政策ニ對シテハ何等ノ定見ヲ有セサリシニ似タリ是レ彼レノ出處ノ然ラシムル所タリ即チ公ノ生レタル「フステルビエン」村落ニ於テハ當時未タ何等ノ勞働者問題發生セサリキ從テ公ハ從來存シタル企業家勞働者間ノ主從的關係ヲ以テ理想的狀態トシ偶々勞働者ヲ煽動シテ企業家ニ對抗セシメント計ルモノアラシカ公ハ之レニ對シテ甚シキ反對ノ態度ヲ把リタリト云フツノ後「フランク、フルト、アムマイン」地方ニ到リタル時公ハ初メテ勞働者問題ノ研究ニ手ヲ染ムルニ至リ千八百六十年代ノ初メニ普國宰相ノ印綬ヲ帶フルヤラツサルノ主義ニ趣味ヲ感シ生産組合ノ設立ヲ獎勵シタルノミナラス普通選舉法ヲ北獨聯邦ニ施行シ帝國ニモ之ヲ襲用スルニ至リテヤ人或ハ公ヲ以テ社會黨ナリト疑フモノスタアルニ至レリ加之公ハ千八百六十五年ニ明言セルコトアリ曰ク普國代々ノ王ハ決シテ富者ノ王ニ非リキフリードリッヒ大王ノ如キハ既ニ皇太子ノ時ヨリレテ後日王トナラハ乞丐ノ王トラント云ヘルカ如キツノ例證ニ非ズヤ蓋シ將來ノ普國王ヲ將ニ貧民ノ王

ヲ以テ任スルナルハシト加之公ハ實際ノ方面ニ於テモ社會政策ノ進歩ニ務メタリ例ハ團結ノ自由幼工勞働者問題、勞働問題ニ付キ政府干涉ノ必要アルヲ認メ之レヲ實現セシコトヲ計畫セリ然ルニ茲ニ俄然公ノ態度見解ヲ一變セシメタル動機現出セリ曰ク財政租稅及經濟上ノ改良問題、社會民主黨ノ非國家的ノ國際的及革命的運動之レナリ彼ノ非社會主義法律案ノ提出ハ實ニ社會民主黨ノ跋扈ヲ抑スルノ必要ニ出テタルモノニレテ比公ハ社會民主黨ノ跋扈ヲ憤リツノ言論行動カ國家ノ治安ニ害アルコトヲ認メ非社會主義法ノ制定ハ目下ノ急務ナルコトヲ公言セリ（千八百七十八年九月十七日及同年十月九日帝國議會ニ於ケル演説）之レ實ニ比公ノ社會政策的見解ノ一變セシヲ表明セルモノナリ

第二節 非社會主義法律

非社會主義法ノ制定ハ比公ノ社會政策的見地ノ變轉ノ結果ナルコト以上述ツルカ如シ此外、非社會主義法ノ制定ヲ急速且容易ナラシムルノ事情突如トシテ起レリ即チ千八百七十五年五月十一日葉鐵匠Hödelカウインヘルム一世皇帝ニ加ヘタル暴行之レナリ比公ハ之レヲ奇貨トシ暴行アリシ後六日ヲ經テ早クモ非社會主義法ヲ聯邦議會ニ提出セリツノ要旨ハ社會民主主義ヲ鼓吹スル印刷物及結社ハ聯邦議會之レヲ禁止スルコトヲ得此ノ如キ印刷物ヲ公ニシ若クハ此ノ如キ結社ニ加入シタル者ハ禁錮ニ處スト云フニアリ而シテ該法ノ有効期間ハ尙フニ兩年トセリ

該法案ハ聯邦議會ニ於テ甚キ反對ヲ受ケ帝國議會ニ於テモ亦然リ千八百七十八年五月二十三日及廿四日ニ於ケル討論ニ於テ該案ニ贊成セルモノハ只ニモルトケ伯ノ率ヒタル保守黨ノミニシテ自由黨ハ全然之レヲ否認シ中央黨亦該案ヲ喜ハス社會民主黨ハ勿論之レニ反對セリソノ結果五十七ニ對スル二百五十一ノ大多數ヲ以テ否決ノ運命ニ遭ヘリ

比公ハ該案ノ否決ニ對シテ隱忍ノ態度ヲ執リ敢テ議會ヲ解散スルノ非常手段ニ出テス議會ハ依然議事ヲ進行セリ然ルニ該案ノ否決後九日ヲ經タル時即チ千八百七十八年六月二日 *Donnerstag* ナル一ノ凶徒恰モ皇帝カ皇女ルイゼト共ニ伯林市「ウンターデンリンデン」街ヲ驅リタル際霰彈ヲ放チテ皇帝ニ重傷ヲ加ヘタリ皇帝時ニ八十一歳ノ頽齡ニ達セラレレカハ國民ノ暴行者ヲ惡ムノ情ハ名狀スヘカラス政府ノ機關新聞ハ此暴行ハ社會民主黨ノ煽動ニ出テタルモノナルコトヲ盛ニ論シタル爲メ人心ノ社會民主黨ニ對スル惡感其極ニ達セリ當時比公ハ伯林ニアラサリレカ報ヲ得テ直ニ伯林ニ還リ再ヒ非社會主義法案ノ提出ヲ準備セリ老帝ニ代リ今帝位ニ即キ給フヤ比公ハ七月十一日議會ヲ解散シ七月三十日總選舉アリテ新議會成立シ九月九日比公ハ再ヒ非社會主義法ヲ提出セリ而シテ今回ノ法案ニ依レハ社會民主主義若クハ共產主義ヲ抱持スル結社又ハ印刷物ハ舊案ニ異リ地方警察官署直ニ之レヲ禁止スルコトヲ得只此禁止ニ對シテ不服アルモノハ聯邦議會ノ裁定ヲ請フコトヲ得トセリ加之此ノ如キ結社又ハ印刷物ニ關係セルモノ又ハ社會民主黨ノ爲メニ運動費ヲ提供スルモノハ禁錮ノ外ニ罰金ヲ課スヘキ官ヲ規

定レ此法律ニ從ヒ處罰ヲ受ケル者ハ一定ノ地域ニ停マルコトヲ禁レソノ他公安ヲ害スル虞アルモノノ住居區域ヲ制限シ法ノ存續期限ニ付テモ舊案ト異リ何等ノ制限ヲ設ケサリキ當時議會ノ形勢如何ト云フニ保守黨ハ依然原案ニ贊成セシカトモ中央黨及自由黨ノ一派ハ之レニ反對シタリレカ事ノ大勢ハ自由黨中ノ他派ノ向背ニヨリテ決セラルヘキコト、ナレリ此ノ派ハ初メハ該案ヲ以テ徒ラニ政府ノ權カヲ増加スルモノナリトシテ非難セシカ比公ハ後日勞働保險法案ヲ提出スヘントノ交換問題ヲ以テ交渉セシ結果、原案ニ幾分ノ修正ヲ加ヘ該案ハ遂ニ千八百七十八年十月十九日百四十九ニ對スル二百一十一ヲ以テ帝國議會ヲ通過セリ修正箇條ノ重ナルモノハ法ノ有効期限ヲ二箇年半トシ地方警察官ノ處分ノ代リニ裁判所ノ決定ヲ必要トセシニアリ

非社會主義法ノ結果ハ當初頗ル著シキモノアリ施行後一年ヲ出テスレテ二百十七ノ結社四百五ノ新聞紙ハ禁止ノ運命ニ逢ヒ千八百八十一年議員總選舉ノ結果ハ社會民主黨ニ取リ不利ナル形勢ヲ示セリ然レトモ非社會主義法ノ勢力ハ漸次薄弱トナリ社會民主主義ヲ鼓吹セル新聞雜誌類ハ外國ヨリ密輸入セラレ社會黨ニシテ都市ヨリ放逐セラレタルモノハ地方ニ於テ新ニ根據地ヲ開拓シ勞働者ノ大部分ハ社會民主黨ニ屬スル結果トシテ非社會主義法ノ適用ヲ受ケタル爲メニ之ニ對スル資本家ノ跋扈ハ甚クシキヲ加フルニ至リタルノミナラス當局者ハ餘リニ嚴密ニ該法ヲ勵行シタル結果政治又ハ社會主義ニ何等ノ關係ナキ勞働組合スラモ無差別ニ解散ノ不幸ヲ見ルコトアリテ該法ニ對スル一般公衆ノ憎惡漸ク

加ハリタリ茲ニ於テカ局面一變セサルヲ得ス即チ千八百八十四年及千八百八十七年ノ議員總選舉ニ社會民主黨ノ勢力ハ次第二増加スルニ至リ非社會主義法ノ效用漸ク薄弱トナリシノミナラス比公ノ没落ト共ニ該法ハ終リヲ告グルニ至レリ

一方ニ於テ非社會主義ヲ制定スルト同時ニ他方ニハ社會主義ノ由テ起ル所ノ社會的病原ヲ除去スルノ必要ヲ認メ比公ハ老帝ノ旨ヲ奉シ社會政策的立法ノ計畫ニ著手スルニ至レリ然ルニ前ニモ述ヘタル如ク比公ハ自己ノ出所ノ關係ヨリ且ツ恐ラクハ政治上ノ理由又ハ英國自由貿易學派ノ流ヲ汲ミタルノ結果トシテ勞働者保護法ノ制定ハ國家カ安リニ企業家ト勞働者ノ内事ニ干渉スルモノニシテ政策トシテ不適當ナリトシ只勞働保護ノ國家的強制ノミカ國家ノ採用スヘキ社會政策ノ極度ナリト確信シ之レカ實行ニ著手セリ

第三節 勞働保險法ノ初歩

比公ハ先ツ鑛山製造場ツノ他ニ從職スル勞働者ノ災害ヲ保險スル所ノ災害保險法案ヲ議會ニ提出セリ時ニ千八百八十一年一月十五日ニレテ當時議會ニ於テ試ミタル公ノ演說ニ徴スレハ該法案ノ主旨ハ社會ノ弱者タル勞働者ヲ憐ムノ人道的觀念ニ基ケルコトヲ知ルニ足ルハシ該法案ノ要旨ヲ述フレハ鑛山製造工場ツノ他危險ノ勞働ニ服スル勞働者ニレテ一年ノ勞銀二千「マルク」ヲ超過セサルモノハ帝國保

險所ニ於テ災害ノ結果ニ對シ保險セラルヘク與ヘラルヘキ救助ハ治療及勞働不能ノ事實繼續スル期間内ニ年金ヲ給スルニアリ年金ノ額ハ勞働能力ノ全ク欠缺セルモノニ對シテハ一年平均勞銀ノ六割六分七厘五毛、一部分欠缺セルモノニ對シテハ二割五分乃至五割ヲ給スヘク災害ノ結果死亡セル場合ニハ遺族ハ埋葬費ノ賠償ヲ受クル外ニ寡婦ハ平均勞銀ノ二割孤兒ハ十五歳ニ達スル迄各自ニ一割ヲ與ヘラルヘレ但遺族ニ給スル年金總額ハ勞銀ノ五割ヲ超ヘサルヲ極度トス、保險料ハ勞銀七百五十「マルク」以下ノ勞働者ハ拂込ノ義務ナク企業者カ三分二ヲ支出シ残り三分一ハ「Landarnerverband」(縣又ハ郡)テウ第二次ノ救貧團體(第一次救貧團體ハ一市町村又ハ數市町村ノ聯合)之レヲ負擔シ七百五十「マルク」ヲ超ユルモノニアリテハ保險料ノ二分一ハ企業者残り二分一ハ當該勞働者自ラ負擔スヘキ定メナリ議會ニ於テハ四月ニ至リ第一讀會開カレタリ自由黨ハ該法案ハ國家社會主義ノ階梯ナリトシテ反對セリ委員會ニ於テハ比公ノ帝國保險所設立案ハ削除セラレ各聯邦ニ國立保險所設立セラルヘキコトニ變更セラレタリ

第四節 勅宣

千八百八十一年秋ニ議會ノ成立アリ比公ハ形勢ノ轉變ヲ期待セルニ反シ成立ノ結果ハ依然政府ニ取リ不利益ナリ即チ政府ニ味方セルモノハ單ニ保守黨ニ止マリ自由黨ハ勿論中央黨亦國家社會政策ニ反對

セリ是ニ於テ公ハ皇帝ノカヲ借リ議會ノ大勢ヲ左右スルノ外他ニ策ノ施スヘキナキヲ信シ皇帝ニ勸メテ議會開會ニ當リ千八百八十一年十月十七日ノ有名ナル勅宣ヲ發布セリ人呼ンテ社會政策上ノ大憲章 Magnacharta ト云フ勅宣ノ主旨ハ社會上ノ弊害ヲ矯正スルニハ非社會主義法ノ施行ヲ以テ足レリトセズ之レト竝ヒテ災害保險及養老保險法ノ制定實行ヲ爲スコトハ目下ノ急務ナリ之レ實ニ帝國將來ノ平和ト安寧トヲ確保スル手段タリ此政府案ニ對シテハ議會ハ政黨政派ノ別ヲ問ハス舉テ協贊アラソコトヲ望ムト云フニアリ年齡既ニ八十四歳ニ及ヘル老帝カ全國民ニ訴ヘタル此ノ勅宣ハ無限ノ感動ヲ全國民ニ惹起セシメタルヤ論ヲ俟タス蓋シ勞働保險法ノ制定ハ普國中興ノ名主ニシテ光輝アル普佛戰爭ニヨリテ獨帝國ノ統一ヲ致シ獨ヲシテ世界ノ第一等國ニ列セシメタル老帝ノ最後ノ活動ト云ハサルヘカラス

勅宣ノ指ス所ノ勞働保險法ハ從來ノ救貧制度カ單ニ國家ヨリスル一片ノ仁道的措置タルニ反レテ實ニ勞働者ヲシテ一定ノ條件ノ下ニ相當ノ要求ヲ爲シ得ルノ權利ツノモノヲ賦與スルモノニシテ確ニ社會政策上ノ一大進歩ト目セサルヘカラス非社會主義法發布當時ニ比公ヲ以テ甚シキ壓制者ナリト非難セシ社會民主黨ト雖モ勞働保險法ニ關スル比公ノ功勞ニ對シテハ賞讃ノ辭ヲ表ハスニ吝ナラザリキ

第五節 勞働保險ノ議會討議史

如上ノ勅宣ヲ以テ開カレタル帝國議會ニ提出セル勞働保險法ノ第一次ハ災害保險法案ニレテ之レニ次キタルハ疾病保險法案ナリ

災害保險法案ハ先ツ帝國災害保險所ノ設置保險金支出ノ義務重體トシテ危險ノ程度ニ應シテ作ラルヘキ (Berufsgenossenschaft) 職業團體ノ設置及帝國ヨリ相當ナル補助金支出ヲ規定シ且ツ一箇年七百五十「マルク」以下ノ勞働ヲ得ル勞働者ハ保險料支拂ノ義務ナキコトヲ定メタリ固ヨリ強制保險制ヲ執レルコトハ舊案ト異ルコトナシ該案ハ結局委員會付託トナリシカ極メテ不入望ニシテ委員會ハ寧ロ之レヲ握リ潰シニ爲サンス形勢ヲ示セシカハ政府ハ之ヲ撤回シ更ニ第三案ヲ千八百八十四年一月ニ提出セリ本案ニ於テハ強制保險制ヲ執レルコトハ前二案ト更ニ異ル所ナキモ帝國災害保險所、國庫ノ補助金支出及災害ノ程度ニ應シテ作ラルヘキ職業團體設立ノ三點ヲ削除シ法律ノ施行ヲ司ル官廳トシテ帝國保險局ヲ設置スルコト(災害別ニ非ス)職業別ニ從ヘル(職業團體)企業家ノ團體ヲシテ保險料支出ノ義務ヲ負ハシメ只該團體カ支拂不能ノ状態ニ陥リタルトキニ限り例外トシテ國庫ノ相當補助ヲ前提シ且ツ法律ノ圓滿ニ實施セラル、コトヲ期セン爲メニ Arbeiter-Anschüsse 勞働者代表委員ノ組織ヲ認メタリ然ルニ委員會ハ最後ノ代表委員組織ヲ否認シツノ他多少ノ變更ヲ加ヘタル後ニ千八百八十四年六月二十七日ニ於テ災害保險法案ハ帝國議會ヲ通過シ七月六日聯邦議會之ヲ承認シ同日ヨリ即時ニ實施セラル、コトハナレリ而シテ此法律ニ於テ保險料支拂ヘキ勞働者ハ單ニ工業ニ從事スルモノニ限りタリ

シカ千八百八十五年五月二十八日ノ法律及千九百年ノ法律ニヨリテ被保險義務者ノ範圍ヲ擴張シ交通機關ニ從職スルモノ其ノ他事務員使用人及兵士、農林業、建築、水夫及囚徒ヲモ保險スルコト、ナレリ。疾病保險法ハ災害保險法ニ先ツコト一年ニシテ既ニ議會ヲ通過セリ即チ千八百八十三年七月十五日ニ公布セラレ同日ヨリ實施セラル、コト、ナレリ蓋シ疾病保險法案カ災害保險法案ヨリモ遅ク提出セラレ而モ却テ早く通過シタル所以ハ保險ノ實行機關ハ實際何人ナルヘキヤト云フ保險制度ニ關シ起ルヘキ大問題カ疾病保險ニアリテハ以前ヨリシテ既ニ一定ノ營業ニ關シテハ事實上保險ハ實施セル疾病金庫ノ成立アリテ解決セラレ居タレハナリ例ハ既ニ二十餘年前ヨリ鑛山労働者ノ設立セル共濟組合金庫ノ如キ地方團體ノ設ケタリシ救助金庫ノ如キ若クハ企業家ノ團體タル *London* 疾病金庫ノ如キ即チ是レナリ最後ノ養老保險制ニ關シ問題トナリタルハ之レカ財源ヲ如何トシテ求ムヘキヤニアリタリ政府ハ之レカ財源トシテ煙草專賣案ヲ提出セシカトモ千八百八十二年六月十五日ノ議會ハ四十三ニ對スル二百七十六ノ大多數ヲ以テ專賣案ヲ否決セリ次テ千八百八十七年帝國内務大臣ニシテ常ニ比公ノ股肱ト頼ミタル *Boetticher* ハ養老保險法案ヲ再ニ議會ニ提出シタリシカ保守黨特ニ「ラステルビ」ノ地主ハ之レニ對シテ甚シク反對セリ蓋シ彼等ハ養老保險制ヨリ利益ヲ受クルハ主トシテ大工業ニ從事スル労働者ニシテ農林ニ從事スルモノハ此ノ恩典ナク從テ地主ハ保險料ノ負擔ヲ命セラル、ハ謂ハレナシト云フニアリキ比公ハ養老保險制ヲ以テ保險ノ重要ナル一元素ナリト信シ頻リニ該法案ノ通過ニ務メ第三

議會ニ於テ極力奮闘シタル結果千八百八十九年七月該法案ハ遂ニ議會ヲ通過シ千八百九十一年一月一日ヨリ實施セラルヘキコト、ナレリ且實際施行ノ時ニ及ヒテハ比公ハ新帝トノ衝突ノ結果最早其職ニ在ラサリキ

第六節 労働保險ノ組織

獨逸ノ労働保險制度カ三大目ニ分レ居ルコトハ確カニ制度上ノ缺點ニシテ比公モ舊案ノ當時已ニ之レヲ自覺セリト雖モ若シ凡テラ網羅スル統一的ノ保險案ヲ提出センカ一層議會ノ反對ヲ増加シ結局凡テカ否決ノ運命ニ遭ハシコトヲ慮リ斯クテ個々別々ノ保險制成立セル所以ナリ爾後今日ニ至ル迄政府改良案ハ年々殆ント議會ニ提出セラル、ト雖モ未ダ通過ノ運ニ至ラス本年モ既ニ三制度ノ統一ヲ目的トセル改良案提出セラレツノ運命ハ目下未定ノ境ニアリ保險制ハ此ノ如ク無統一ノ状態ニアリトハ云ヘ三者間ニ自ラ共有ノ適性ナキニ非ス即チ労働力ノ全部又ハ一部ノ缺點起リタル場合ニ労働者ハ權利トシテ相當ノ救助ヲ受クルコト、被保險者ノ種類トシテ被保險義務ヲ有スル者ト隨意加入セルモノトノ二階級アルコト、強制保險義務者ハ保險ノ強制ト同時ニ一定ノ保險金庫ニ自ラテ保險セラル、コト即チ金庫強制ノ制ヲ執ルコト竝ニ保險ノ實行ハ自治ノ觀念ニ基キ企業家及労働者ノ兩者カ一體トナリテ財政ヲ管理スルノ點是レナリ

三者ノ異ル點ハ被保險者ノ受クヘキ權利ノ内容、被保險義務者ノ範圍、保險金額ノ出處等ナリ例ハ災害保險ニアリテハ財源ハ専ラ企業家ノ負擔ニ屬シ養老保險ニアリテハ企業家労働者各自半額ヲ負擔シ疾病保險ニアリテハ企業家ハ三分ノ一労働者ハ三分ノ二ヲ負擔シ養老保險ニアリテハ國庫ノ補助アリ最後ニ保險ノ特色トシテ舉クヘキハ保險ノ種類如何ヲ問ハス保險ニ關スル爭議ハ保險官廳ニ於テ訴訟費用ヲ徴セサルコト是レナリ

以下各保險ニ付内容ヲ詳述セン

第七節 疾病保險法

疾病保險ニ加入ノ義務アル者ハ鑛山、鹽、鑛石ノ破碎溶解、諸種ノ工場、鐵道、河川航行、浚渫、建築、船渠業、商業、手工業ツノ他營業的ニ連續シテ營ム商工業ニ使用セラル、モノニシテ俸給又ハ勞賃ヲ受クル事務員、使用人、労働者並ニ辯護士、公證人、執達吏、疾病保險金庫、災害保險ノ職業團體及養老保險所ニ使用セラル、者、郵便、電信、兵器又ハ軍艦ノ製造ニ従事スル事務員、使用人、労働者等ナリ但一週内使役セラル、ニ止マルモノハ保險加入ノ義務無ク藥劑師ニ在ル補助員、徒弟、海上勤務ニ従事スル水夫並ニ一年間ノ收入二千マルクヲ超過スル事務員、工長亦然リ但帝國宰相カ必要アリト認ムルトキハ帝國及聯邦ノ公務ニ暇アルモノ並ニ家庭工業ニ使用セラル、モノニ對シテモ保險加入ヲ強制スルコトアルヘシ

疾病保險ノ實行機關ハ疾病金庫ニシテ疾病金庫ニハ種々アリ最モ普通ナルハ地方團體疾病金庫ニシテ被保險義務者ノ數カ百人ヲ超ユル市町村ハ各、一個ヲ設立シ百人以下ニ止マル所ノ市町村ハ聯合シテ一個ヲ設置スルコトヲ得ツ、他ノ疾病保險金庫トシテ數フヘキハ建築疾病金庫、*Insurance* 疾病金庫、鑛山共濟組合、組合金庫保險法ノ命スル義務ヲ充テ得ヘキ私立ノ救助金庫、企業疾病金庫ナリ企業疾病金庫トハ五萬以上ノ労働者ヲ使役スル企業家カ一定ノ條件ノ下ニ設立スル特別ノ疾病金庫ヲ云フ

金庫ノ收入ハ企業家労働者雙方ヨリノ保險料拂込ヨリ成ルツノ割合ハ前者ハ三分ノ一後者ハ三分ノ二ナリ但シ後者ノ負擔額ハ勞賃ノ三分ヲ最高度トス労働者ノ加入金、金庫ノ財産ノ利殖ヨリ生スル利子モ亦金庫ノ收入ノ淵源トナル

被保險者ノ受クヘキ權利ノ内容ハ左ノ如シ

疾病ノ時ヨリ起算シ二十六週間ハ醫師ノ治療ツノ他ノ療養ヲ享クルコトヲ得此期間ハ舊法ニテハ十三週間ニ止マリシカ千九百三年ノ法律ニヨリテ二十六週間ニ延長セラレタリツノ他疾病ノ時ヨリ起算シ第三箇月ヨリ疾病金 (*Krankengeld*) ヲ給與セラルツノ額ハ地方團體疾病金庫ニ於テハツノ地方ニ行ハル、普通ノ日給ノ全額ニ當ル、疾病金ヲ受クル代リニ病院ニ收容セラル、コトアリ千九百三年以來ハ從來除外セラレアリタル生殖器病者モ亦如上ノ權利ヲ享クルコト、ナレリ又産婦ハ從來

四週間内如上ノ給養ヲ享ケタルニ止マリシカ千九百三年ノ法律改正以來六週間ニ延長セラレ、疾病者カ死亡セルトキハ死亡賜金ヲ給セララルソノ額ハ當事者カ曾テ取得シ居リタル平均日給ノ二十倍乃至四十倍ニ當ルモノトス

第八節 災害保險

災害保險法ハ千八百八十四年六月六日發布千八百八十五年及千九百年ノ改正ニヨリテ災害保險ノ範圍著シク擴張シタリ

被保險義務者ハ建築、航海、鑛山、鑛石ノ破砕、溶解、諸種ノ工場、船渠業、郵便、電信、鐵道、(郵便電信鐵道ハ千八百八十五年ノ改正ニヨリ加ハル)兵器又ハ軍艦ノ製造ソノ他災害保險法第一節ニ掲クル諸種ノ工業ニ従事スル勞働者又ニ事務員、工長、技術員ニシテ收入年額三千「マルク」以下ニ過キササルモノトス千九百年ノ改正ニヨリテ農林業勞働者、兵士、水夫、囚徒ノ災害ヲモ保險スルコト、ナレリ尙職業團體(災害保險ノ實行機關)ハ定款ヲ以テ三千「マルク」以下ノ所得ニ過キササル工業家、家庭工業者ニモ保險義務ヲ擴充スルコトヲ得

被保險者ノ享クヘキ給與左ノ如シ

勞働者ハ災害ヲ受ケタルコトカ自己ノ故意ニ出テサル以上ハ凡テ法ノ認ムル給與ヲ享ク故ニ重大ナ

ル過失ニ因ル場合モ妨ケナレ只故意ニ非ルコトハ自ラ證明セサルヘカラサル條件アリ當事者ハ先ツ醫師ノ治療、藥品、ソノ他ノ療養手段並ニ拐杖、應當等災害ノ結果ヲ輕減シ得ヘキモノ、給與ヲ享ク、災害ノ結果勞働不能ニ陥リタルトキハ災害ノ發生後第十五週目ヨリ勞働不能ノ状態ノ繼續スル期間内ハ災害金(Untfallente)ヲ給セラルソノ額ハ勞働能力カ全部缺乏セル場合ニアリテハ勞銀ノ過去ニ於ケル平均年額ノ^{66%}プロチエントヲ受ケ一部分ノ欠缺ニ止マル場合ニハ程度ニ應シテ差等ヲ設ク、死亡セル場合ニハ死亡賜金ヲ給セラルソノ額ハ勞銀ノ過去ニ於ケル平均年額ノ十五分ノ一ヲ給ス但五十「マルク」ヲ最少限度トス尙寡婦ハ五分ノ一孤兒ハ十五歳ニ達スル迄同額ヲ給セラル但是等遺族ニ給スル額ハ合シテ勞銀ノ過去平均年額ノ60プロチエントヲ超過スルコトヲ得ス而シテ平均勞銀年額ヲ算定スルニ當リテハ千五百「マルク」以上ノモノニアリテハ單ニソノ三分ノ一ヲ算入スルノミナリ財源ハ比公ハ全部帝國國庫ノ負擔ニ歸セシムヘキ考案ヲ提出セシモ議會ハ全然之ヲ否決シタル結果企業家カ全部之レヲ負擔スルコトニ定マレリ此ノ目的ノ爲メニ職業別ニ從ヘル企業家ノ職業團體(Berufsgenossenschaften)アリテ財源ノ供給ヲ司ル、最近ノ調査ニヨレハ工業者ノ職業團體六十五、農業者ノモノ四十八アリ、一箇年間ニ支出シタル費用ハ一定ノ割合ニ應シテ各團體内ニ於テ各企業家ニ配當セラル

第九節 養老保險

千八百八十九年六月二十二日發布千八百九十一年一月一日ヨリ實施セラレタル同法ハ千九百年一月ニ改正セラレタリ先ツ被保險義務者ノ範圍ヲ述フレハ他ノ二種ノ保險ニ於ケルヨリモ範圍更ニ弘シ苟クモ十六歳ニ達シタル労働者ニシテ報酬ヲ受クルモノハ名義ノ如何ニ拘ラス加入ノ義務アリソノ他二千「マルク」以下ノ俸給ヲ受クル事務員、工長、技術員、商店ノ補助員徒弟(藥劑所ニアルモノハ除ク)竝ニ獨逸船舶乗組人、私ノ教師ハ凡テ保險義務者タリ千八百九十一年十二月以來ハ家庭ニテ煙草製造業ヲ營ムモノ千八百九十四年三月以來ハ家庭ニテ織物業ヲ營ムモノモ同シク此ノ義務ヲ負擔スルコト、ナレリ

以上被保險義務者ノ外ニ任意的ニ保險ニ加入スル者アリ年俸二千「マルク」乃至三千「マルク」ノ間ニ在ル事務員、工長、技術員、使用人、私ノ教師、私人及會社ノ書記ノ如キ之レニ屬シソノ他獨立工業者ニシテ二人以上ノ労働者ヲ中斷的ニ使用スルモノ、家庭工業者亦然リ只是等任意加入者ハ年齢四十歳ヲ超ヘサルコトノ消極的條件ヲ具有セサルヘカラス

養老保險ノ機關トシテハ州、縣又ハ一國全體ヲ管轄區域トセル三十一個ノ養老保險所(Versicherungsanstalt)ノ設ケアリ保險所ハ公法人組織ニシテ定款ヲ制定シ帝國保險局ノ認可ヲ受ケサルヘカラス而

シテ各保險所ニハ企業家労働者ノ兩者ヨリ少クトモ五名以上ヲ出シテ組織セル代表會(Ausschuss)アリ、保險所ノ下ニ屬スル年金取扱所(Rentenstellen)ハ公ノ官廳タル資格ヲ具ヘ養老年金ノ許否出納ニ關スル事務ヲ司ル又各保險所ニハ十二人ノ監督官吏(Kontrollbeamte)アリテ被保險者ノ監視ヲ行フ又各保險所ノ區域内ニハ保險裁判所(Schiedsgericht)ノ設ケアリテ養老年金ニ關スル爭議ヲ裁決ス裁判長ハ地方團體ノ公吏ヨリ任命シ陪審官ハ企業家労働者ノ兩者ヨリ同數ニ選出セラレ

養老年金ヲ細別スレハ廢疾年金ト狄義ノ養老年金トノ別アリ前者ハ年齢ノ多少ヲ問ハス労働不能ノ状態ノ繼續スル者ニ之レヲ給スソノ他二十六週間々斷ナク労働不能ナルモノ亦然リ只少クトモ二百週間保險料ノ支拂ヲ爲シタルコトヲ要件トス此期間ハ所謂停止期間(Karenzeit)ト稱シテ給養ヲ享クル能ハサル期間ヲ謂フ後者ハ年齢七十歳ニ達スルモノ之ヲ給セラル唯七十歳ニ達スル迄ニ少クトモ千二百週間保險料ノ支拂ヲ爲シタルコトヲ要件トス結婚ノ必要上労働ニ止マルコト能ハスシテ被保險義務ヲ免セラレタル婦人ハ少クトモ二百週間保險料ヲ拂込ミタルコトヲ證明スレハ拂込料ノ半額丈ハ還付ヲ受ク被保險者ノ寡婦十五歳以下ノ孤兒亦然リ

年金ノ額ハ保險料拂込ノ週數及勞銀ノ階級(五分ル)ニ從テ多少アリ廢疾年金ト狄義ノ養老年金トノ別ナク養老年金ノ根據トナルモノハ帝國ノ補助金五十「マルク」ナリ然シテ廢疾年金ニアリテハ此ノ五十「マルク」ノ外ニ左ノ金額ヲ附加ス

(A表)

第一級(三百五十「マルク」以下ノ勞銀ヲ得ルモノ)	年金六十「マルク」
第二級(三百五十「マルク」以上五百五十「マルク」)	同 七十「マルク」
第三級(五百五十「マルク」以上八百五十「マルク」)	同 八十「マルク」
第四級(八百五十「マルク」以上千百五十「マルク」)	同 九十「マルク」
第五級(千百五十「マルク」以上)	同 百「マルク」

此外更ニ左ノ附加金アリ

第一級	各週(保険料ノ拂込)	三「マルク」
第二級	同	六「マルク」
第三級	同	八「マルク」
第四級	同	十「マルク」
第五級	同	十二「マルク」

疾病ノ養老年金ニアリテハ帝國補助金五十「マルク」ノ外ニハ左ノ額ヲ支給セラルル廢疾年金ト異リ附加金ノ給與ナシ

(B表)

第一級	六十「マルク」
第二級	九十「マルク」
第三級	百二十「マルク」
第四級	百五十「マルク」
第五級	百八十「マルク」

若シ被保險者カ災害保険金又ハ恩給年金ヲ受クルモノニシテツノ額カA表又ハB表ノ七倍半ニ達セルトキハ養老年金ノ給與ハ停止セラル入獄セルトキ又ハ外國滞在ノ間モ亦然リ

年金ノ給與ノ代リニ當事者ハ治療ヲ受クルコトアリ病院ニ收容セラル、如キ之レナリ又農業ニ従事スルモノハ金銭ノ外ニ實物給與ヲ享クルコトヲ得

財源ノ供給ハ五十「マルク」ハ帝國之レヲ負擔シ殘額ハ被保險者ト企業家トニ於テ折半シテ之ヲ負擔シ毎週拂込ヲ爲スモノトス

拂込ムヘキ保険料ノ額ハ聯邦議會之レヲ定ム現行保険料額左ノ如シ

第一級	一週間分	十四「メンニヒ」
第二級	同	二十「メンニヒ」
第三級	同	二十四「メンニヒ」

第四級

同

二十七「メンニヒ」

第五級

同

三十六「メンニヒ」

保険料ノ拂込ハ領票(Quittungskarten)ニ保険切手ヲ貼付スルコトニヨリテ完了ス被保険者ハ従業ノ初メニ領票ニ署名シ企業家ニ交付シ企業家ハ郵便局ニ就キ保険切手ヲ買入レ領票ニ貼付シテ養老保険所ニ送付ス切手ノ代金ノ内ニ付被保険者ノ負擔スヘキ額ハ勞銀支拂ノ際ニ相殺セラレ任意加入者ハ勞銀ノ階級ヲ自由ニ選擇スルノ權利アリ

第十節 帝國保險局(Reichsversicherungsamt)

帝國保險局ハ勞働保險ノ最高官廳ニシテ千八百八十四年ノ創立ニ係ル一人ノ長官(Präsident)二人ノ理事(Direktoren)二十一人ノ(Senatsvorsitzenden)三十四人ノ常置局員(終身官ニシテ聯邦ノ奏薦ニ本キ皇帝之ヲ任命ス)八人ノ補助局員八十二人ノ裁判官及ツノ補助官聯邦議會ヨリ派遣スル六人ノ代表者企業家及勞働者ヨリ選出セル各百六名ノ代表者ヨリ組織セラル帝國保險局ノ任務ハ災害保險ノ機關タル職業團體ノ監視ツノ定款ツノ他ノ規定ノ認否災害保險ニ關スル爭議ヲ裁決シ災害保險ノ運用ニ關シ布告ヲ發布スルノ權限ヲ有ス只「バイエルン」「ザクセン」「バーデン」ツノ他二三ノ聯邦内ニアル國立災害保險所ノ爲メニ權限ノ制限ヲ受ク養老保險ニ關スル帝國保險局ノ權限モ亦災害保險ニ於ケルト同シ只疾病

保險ニアリテハ疾病金庫ノ監督ハ各聯邦内務省之レニ當リ帝國保險局ハ何等干渉スル所ナシ帝國保險局ノ一部局トシテ計算部(Rechnungsstelle)アリ保險ニ關スル計算及技術ニ關スル事ヲ司ル帝國保險局ノ凡テノ經費ハ原則トシテ帝國之レヲ負擔ス

第十一節 勞働保險ノ統計

千八百八十一年ニ於ケル第一勅宣ノ發布以來二十五年ヲ經過シタル千九百六年十一月ノ政府機關新聞(Nordd. Allg. Zeitung)ハ千八百八十六年ヨリ千九百三年迄ニ支拂ヒタル保險金額ハ四十億「マルク」ニシテ勞働者カ拂込タル保險料ニ比シツノ多キコト十億五千萬「マルク」ニ達セリト云フ而シテ現今獨逸ニ於テ勞働保險ノ爲メニ使用セラル、金額ハ日々百二十五萬「マルク」ニシテ保險所ノ基本財産ハ十億五千萬「マルク」ニ及ヒ此ノ基本財産ノ内ヨリ社會政策的設備ニ使用セルモノ例ハ勞働者ノ住居病院浴場等ノ施設ニ充テタルモノ實ニ四億「マルク」ヲ計上スト云フ

第十二節 勞働保險ノ缺點及改良策

社會政策家ノ多數カ現行勞働保險法ニ對シテ加フル第一ノ非難ハ疾病保險ニアリテハ農業ニ従事スル被使用者カ絕對ニ保險セラレサルコト之レナリ又疾病保險ノ實際ニ於ケル弊害ノ一ハ疾病金庫ト使用

スル醫師トノ調和ヲ缺キ常ニ紛議ノ絶ヘサルコトニシテ金庫ハ可成醫師ノ俸給ヲ少カラシメントシ醫師ハ之ニ對シテ優遇ヲ求メテ已マス千九百四年「ケルン」及「ライプチヒ」ニ於ケル醫師ノ「ストライキ」ノ如キ此例證ナリ

養老保險實行上ノ非難ハ保險切手ノ貼付ノ忘却シ易ク且ツ煩累ナルコト之レナリ加之貼付ヲ忘却スルトキハ所罰セラル將來ノ問題トシテ租税ノ徵收ト連絡シテ保險料ヲ徵收スルノ方便無キヤハ研究ノ値アリ

此外三種ノ保險ハ如何ニシテ統一セラルヘキヤ往々目撃スル所ノ保險料拂込額カ實際ノ必要以上ニ多ク徵收セラルノ弊害ハ如何ニシテ除去シ得ルヤ保險行政ヲ單純ニシテ費用ヲ節約スルノ餘地無キヤノ問題存ス實ニ保險ノ實行機關ノ自主權ヲ損傷スルコトナクシテ各種ノ保險ヲ統一シ被保險者ハ三種ノ保險ヲ通シテ同一人トナリ疾病保險ニ加入スレハ同時ニ凡テ他ノ保險ニモ加入セルノ結果ヲ生スル如キ制度ヲ見ルニ至ランコトハ社會政策家ノ理想トスル所ナリ

勞働組合及社會政策家ノ多數カ希望スル所ノ三大問題アリ一ハ保險金額ノ現今ヨリモ一層多カラシト(特ニ養老年金ニ於テ)竝ニ養老狀態ノ到達カ現在ノ定メタル七十歳ヨリモ早カラルヘキコト、二ハ勞働保險ヲ勞働者ノ寡婦及孤兒ニモ擴充スルコト、三ハ勞働者失策強制保險制ノ實行之レナリ

寡婦及孤兒ニモ保險制ヲ擴充スルコトニ對シテ起ルヘキ先決問題ハ財源ニアルカ此點ニ關シテハ千九

百三年以來已ニ決定セラレアリ即チ同年ニ稅率ヲ高メタル關稅主トシテ生活品ニ課スル關稅ノ増徴一ヨリテ財源ノ大部分ヲ充テサントノ法律既ニ確立シ唯將來保險法ノ改正セラル、ヲ豫想シアリ思フニ勞働保險ノ財源ヲ生活品ノ關稅ニ求ムルコトハ社會政策ノ見地ヨリシテ自家撞著ノ非難ヲ免レサルカ此點ハ暫ク措キテ問ハストスルモ此財源ハ果シテ永久ニ存在スヘキ確實ノモノタルヤ疑アリ蓋シ關稅收入ハ政府ノ方針ニシテ保護政策ヲ採ルコト依然タランニハ豫期ノ高ニ達スヘトスルモ自由貿易主義ニ傾カンカ確實ナルヲ期シ得ヘカラサレハナリ

勞働失策問題ニ關シテハ多數ノ社會政策家ハ勞働者ノ失策ニ付テハ國家カ強制保險制度ヲ設クヘシトノ理想ヲ抱クモノ多シ勿論災害保險ノ範圍ニ於テ既ニ一部分此意味ノ保險無キニ非ス即チ災害ノ結果勞働不能ナルトキハツノ期間内ハ一定ノ災害金ヲ給スルコト之レナリ然レトモ災害保險ニアリテハ失策ノ原因カ災害ニ存スル場合ニ限ルコトヲ前提トス茲ニ所謂失業保險ハツノ他ノ原因即チ「ストライキ」解雇等諸般ノ事情ニヨリテ生セル失業ノ凡テヲ意味ス從テ國家的失業強制ノ實行ハ現今猶空想タルヲ免レス殊ニ財源ノ供給ニ苦ムヲ如何セン唯一二ノ都市ニ於テハ失業保險ヲ實行シアルコトハ第二款ニ述フヘシ思フニ國家ノ失策保險制ハ今日ニ於テ實行シ難シトセハ今日都市ニ於テ存スル失業強制保險又ハ勞働媒介ノ制度ヲ定備スルコトヲ以テ満足セサルヘカラス勞働媒介ニ付テモ又第二款ニ於テ述フル例アルヘシ

最後ニ社會政策家ノ理想トシテ擧クヘキモノハ現在ノ被保險義務者ノ範圍ヲ擴張スルコトナリ即チ例ハ手工業者(今日ニ於テハ唯ニ任意的加入者タルニ止マル)ニ強制保險ヲ及ホスコト之レナリ此レニ對シテ起ルヘキ第一ノ非難ハ手工業者ハ獨立營業者ナリ從テ從屬的地位ニ在ル勞働者ヲ保護セントノ主旨ニ出ル勞働保險ノ性質ト相容レス第二ノ非難ハ手工業ヲ加フルトキハ他ノ小規模ナル獨立商工業者モ亦然セサルヘカラスシテ財源ノ充實困難ヲ感セスンハアラス

第三章 勞働者保護法

第一節 比公ノ勞働者保護法ニ對スル態度

比公ハ千八百七十年代ノ半頃ハ工場法ノ進歩改良ニ熱心ナリシモ同年代ノ終リ頃以來此方面ニ於ケル熱心漸ク衰ヘツノ結果トシテ社會政策ニ多大ノ熱心ト趣味ト有スル新帝ト意見ノ衝突ヲ來シ退職スルノ已ムヲ得サルニ至レリ然レトモ比公ヲ以テ工場法ニ關シ何等ノ貢獻スル所ナシト云フヘカラス例ハ千八百七十八年ノ工場法ニヨリテ勞働契約ノ侵害ニ對スル制裁徒第養成ノ關係、幼工ノ勞働ニ關スル保護「トルックシステム」ノ禁止ヲ規定シ健康倫理ノ方面ヨリ婦人ノ勞働ヲ制限シ工場検査官ヲ設ケタリ但レ積極的ノ保護規定ハ單ニ幼工ニノミ存レ他ノ勞働者ニ及ホサ、リシハ社會政策家ノ不満足ヲ買ヘル重ナル點ナルモノトス

帝國議會ハ前ニ述ヘシ如ク比公ノ提出セル勞働保險法案ニ對シテハ甚クシテ通款ノ態度ヲ執リシモ工場法ノ問題ニ付テハ比公ト却テ反對ノ態度ニ出タリ即チ比公カ工場法ノ必要ヲ爭ヒタル當時既ニ帝國議會ハ少クトモ日曜休業幼工女工ノ保護ニ關スル規定ノ必要ナルコトヲ議決セリ然ルニ聯邦議會ハ(千八百八十八年十一月十九日)比公ノ勢力ヲ受ケ帝一議會ノ議決ニ反對シ現今經濟界ノ狀態ハ未ダ工場法ノ進歩的規定ヲ必要トスル迄ニ進ミ居ラサルコトヲ主張セリ要スルニ比公カ一方ニハ勞働保險法ノ制定ニ熱中シ乍ラ他方ニハ工場法ニ冷淡ナリシハ自家撞著ノ甚キモノナリトハ社會政策家ノ非難ヲ招キタル點ナリ蓋シ比公カ此ノ矛盾的態度ニ出テタルハ公ノ政略ノ然ラシメタル所ナリ即チ公ハ關稅保護政策ヲ實行スルニ付テハ是非共大工業家及農業家ノ援助ヲ借ラサルヘカラス而シテ是等ノ徒ハ固ヨリ自家ノ利害關係ヨリシテ社會政策的立法ノ進歩ニ甚ク反對シタルナリ既ニ勞働保險ハ大工業家ニ多大ノ犠牲ヲ獻セシメタリ更ニ工場法ノ進歩的規定ヲ設クルコトハ大工業家ニ對シテ比公ノ政略上敢テ爲シ能ハサリシ所ナリ加之比公ハ元來普國ノ地主ノ貴公子ナリ政府カ餘リニ勞働契約ノ内容ニ干涉スルコトハ公ノ由緒ヨリシテモ公ノ喜ハサリシ所ナリ公ハ政府カ深ク大工業ノ内面ニ干涉スルトキハ獨ノ工業ハ到底外國工業トノ競争ニ堪ニ能ハサルヘシトノ經濟的畏怖ヲ抱キタルコトモ亦公カ工場法ニ熱心ナラサリシ一理由ナリ勿論大工業家ハ比公ト同シク今日ニ於テモ尙獨ノ工場法ノ有害ヲ主張シ獨ノ工業ハ工場法ノ規定餘リニ嚴密ニシテ勞働時間ノ制限ハ幼工女工等ノ保護ニ忠實ナル結果ト

シテ生産不十分ナリ外國工業ニ對テ競争ニ堪ユル能ハスト主張ス然ルニ社會政策家ハ固ヨリ之レト正反對ノ意見ヲ有シ工場法ノ進歩の規定ニヨリテ結局労働者ノ生産力ハ永久的ニ増加スルモノニシテ年々歳々獨ノ工業カ進歩シ優ニ英國ノ工業ヲ凌駕セントスルノ形勢ニ立チ至リタルハ實ニ工場法ノ力ナリト主張ス尙比公カ社會政策家ニ對テ保守的態度ヲ執リタル一例トシテ社會政策家ノ非難スル所ハ比公カ労働者ノ結合ノ自由ノ幾分ノ制限ヲ置クノ必要ヲ確認シタル點ニアリ社會政策家又ハ自由主義ノ人々ハ結合ノ自由ハ労働者カ自己ノ地位ヲ進歩スルニ缺クヘカラサル手段ナリト解ス此點ニ於テ比公ノ見解ト亦相反ス要スルニ比公ノ社會政策的態度ハ社會ノ弱者タル労働者ヲ保護スルノ必要ハ公モ充分之ヲ認メツノ結果労働保險法ノ制定ヲ遂行セントハ云ヘ大體ヨリ評スレハ公ハ保守的態度ヲ取リタリト云フヲ至當トス而シテ老帝一般政治上ノ意見ニ於ケルト同シク社會政策的見地ニ於テモ全ク比公ト同様ノ見解ヲ抱キタリ從テ老帝ノ在位中ハ比公ハツノ地位ノ強固ヲ自覺セント同時ニ亦如上ノ社會政策的見地ノ上ニ泰然不動ノ姿勢ヲ取リタリシカ老帝位ヲ退キ新帝ノ即位セラレタルト同時ニ比公ト新帝トノ政治的意見ノ衝突ハ茲ニ初レリ

第二節 新帝ト比公トノ衝突

千八百九十年春ニ於テ新帝ト比公トノ衝突ヨリ比公ノ退職ヲ來シタル原因ハ固ヨリ單ニ社會政策的見

解ノ差異ニノミ存セサルヘシ外國特ニ露國又ハ埃國トノ關係ニ付テモ之レアラシク陰謀モ行ハレシ如ク傳フルモノアリ功名ニ誇リ保守的ノ意見ヲ固執シタル比公ト新進氣鋭ナル新帝トノ本來ノ性質ノ差異モ之レアリシナラン而モ社會政策上ノ異見カ破裂ノ一大動機タリシハ爭フヘカラス既ニ新帝ハ即位式ノ詔勅ニ於テ宣ヘテク千八百八十一年十一月十七日勅宣ノ旨ニ遵ヒ將來社會政策的立法ノ進歩ニ務ムヘク殊ニ工場法ノ改良ハ目下ノ急務ナリト此ノ事既ニ比公ト新帝トノ到底立立スヘカラスラ表ハレテ餘リアリ況ンヤ新帝ハ千八百八十九年十二月三十日比公ニ書ヲ寄セ社會ノ弱者タル労働者ノ爲メニ計ルコトハ帝ノ素志ニシテ將來ノ目的タルコトヲ明言セサセ給ヘルニ於テヲヤ

千八百八十九年六月(即チ「ライオン」川ノ支流)地方ニ於テ鑛夫ノ「ストライキ」アリ約十万人ノ鑛夫ハ「ストライキ」ヲ爲シツノ餘波ハ「ザクセン」「シュレシエン」「ザール」之レモ亦「ライオン」川ノ支流(地方)ニ及ヒタリ鑛夫ノ主張ハ労働ノ増加一日労働時間ヲ八時間ニ制限スルコト、労働者代表委員(Arbeiterausschüsse)ノ設置ニアリキ(労働者代表委員ノ設置トハ之レニヨリテ労働條件ニ關シ企業家ト榊担折衝スルノ任務ヲ爲サシメン爲ナリ)國民ノ同情ハ鑛夫ノ要求ニ傾ケリ蓋シ國民ハ鑛夫ノ請求ノ正當ニシテ且鑛夫平常ノ勞役ハ頗ル同情ヲ值ヒスルコトヲ信シタルノミナラス「ストライキ」ノ結果ハ石炭ノ價格ヲ暴騰セシメントトヲ恐レタル利害心ニ驅ラレタリシナリ「ストライキ」ハ益増大シ警官軍隊ト鑛夫トノ闘争ヲモ惹起シタルニモ拘ハラス國民ノ鑛夫ニ對スル同情ハ依然タリキ五月十四日鑛夫ノ代表者トシテ

Schröder, Bunte 及 Siegel の二人ハ皇帝ニ謁見ヲ許サレ皇帝ハ内務大臣 Hertwich ヲ侍セシメテ労働者ノ要求ニ耳ヲ傾ケラレタリ皇帝ハ要求ヲ聞召シタル後ニ嚴シク「ストライキ」ヲ非難シ今後労働者カ此ノ如キ非行ヲ演センカ若クハ社會民主黨ト合同的ノ態度ヲ取ルニ於テハ皇帝ハ最早労働者ノ味方ニ非スシテ彼等ヲ以テ國賊トシテ遇スヘシ但シ彼等ノ要求ハ當該官吏ヲシテ具サニ調査セシメ調査ノ結果ヲ彼等ニ報告セシムヘシト宣ヘリ而シテ引續キ皇帝ハ又企業家(鑛山業者)ノ代表者ヲ謁セシメ爾後労働者ノ正當ナル要求ニ應スルノ覺悟アルヘキ旨ヲ嚴シク諭シ給ヘリト云フ

皇帝ノ諭示ノ結果ハ企業家労働者兩者間ニ感情ノ融和ヲ來シ兩者間ニ於ケル圓滿ナル協議ニヨリテ「ストライキ」ハツノ跡ヲ絶ツコトヲ得タリ之レヨリシテ社會政策家ハ皇帝ノ將來ノ社會政策的施政ニ付一層多大ノ希望ヲ抱クコト、ナレリ而シテ皇帝ハ社會政策ノ第一著手トシテ工場法ノ改善ニ意ヲ注クコト、ナリ茲ニ比公トノ衝突ヲ一層甚シカラシムルニ至レリ

比公ノ勢力ハ新帝ノ即位以後日々ニ衰ヘ公ハ快ヤトシテ樂マス五月末ニ伯林ヲ去リ千八百九十年ノ初メニ至ル迄主トシテ Varzin 及 Friedrichshuhe ノ田村ニ閑居セリ皇帝ハ比公ノ不在ヲ意ニ介セス専ラ内務大臣 Bötticher ト共ニ社會政策的立法ニ腐心シタリ而シテ B 氏ハ皇帝ト同様社會政策ニ付進歩的の見解ヲ有シタリシカハ大宰相ノ不在ニモ拘ラス社會政策的立法ノ計畫ハ益々成熟シ來リ而シテ先ツ皇帝ハ非社會主義法ノ破壊ニ指ヲ染ムルコト、ナレリ

第三節 非社會主義法ノ滅亡

非社會主義法ハ社會民主黨ノ行動ヲ一時頓挫セシメタリシモ之レニ對スル労働者ノ反感ハ日ヲ追フテ甚シク之レカ爲メ却テ社會民主黨ノ勢力ヲ添ユルノ武器ニ利用セラレ現ニ千八百八十七年ノ選舉ニ於テ社會民主黨ノ代議士ハ十一名ヲ算セリ

千八百七十八年ニ生レタル非社會主義法ハ有効期間ヲ再三延長セラレ最後ノ議會議決ニ於テ千八百九十年九月三十日ヲ以テ終期ト定メラレタルカ比公ハ千八百八十九年秋議會ニ新シキ案ヲ出シ非社會主義法ノ附帶期限ヲ除去シ該法ノ存續ヲ永遠無限ナラシメント期セリ時ノ委員會ハ無期存續ノ件ハ可決セシモ同時ニ該法ノ骨子タル追放權ヲ削除セリ時ニ皇帝及内閣諸大臣ハ比公ノ意見ニ反對シ非社會主義法ハ全然無用ナリトノ意見ヲ抱持セリ千八百九十年一月二十四日御前會議開カレ比公ハ大勢ノ自己ニ不利ナルヲ悟リ追放權ノ維持ヲ強テ主張セス讓メテ委員會ノ決議通り永久存續案ノ本議會ヲ通過セシコトヲ以テ自ラ慰メントシタリキ然ルニ意外ニモ議會ニ於テ比公ニ味方シタル保守黨ハ追放權能ノ削除セラレタル非社會主義法ハツノ神髓ヲ失ヒタルモノナレハ比公モ最早此ノ如キ死法ニ等シキ法律ノ存續ヲ希望セサルヘシト思料シ他ノ黨派ノ意見ニ同シテ原案全部反對ノ投票ヲ爲シ結局一月二十五日非社會主義法ハ九十八ニ對スル百六十九ノ多數ヲ以テ最後ヲ告グルニ至リ又間モナク議會ハ閉會ヲ

告ケタリシカ皇帝ハ閉院式ノ勅語ニ於テ非社會主義法ニ付テハ何等言及スル所ナカリキ但之レヲ以テ皇帝ト比公トノ間ニ意見ノ融和セラレタル徵證ト見ルハ大ナル誤リニシテ寧ロ兩者ノ暗闘ハ日ヲ追フテ益々甚シクナレリ

第四節 二月勅宣

比公ハ千八百八十年以來已ニ十年ノ久シキ間兼任セル普國農商務大臣ノ職ヲ退キツノ後任トシテ「ライ」州ノ長トシテ兼テ社會政策ニ付皇帝ト同シク進歩的意見ヲ有セル Berlepsch 之レニ代レリ之レ比公失落ノ第一階梯ナリ

二月四日獨ノ社會政策ニ關スル第二ノ大憲章ト云フヘキ所謂二月勅宣ノ發布アリ二個ヨリ成ル第一ノ要旨ハ獨勞働者ノ地位ヲ上進シ彼等ノ利益ヲ増進セシムルコトハ國家ノ宜シク務ムヘキコトニ屬ス然レトモ之レカ爲メ獨ノ工業ヲシテ對外的ノ競争ニ敗北セシムルノ結果ヲ來サシムヘカラス此ノ結果ヲ避ケンカ爲メ皇帝ハ列國會議ヲ促カシ各國カ袂ヲ列ネテ勞働保護ノ立法行政ニ贊成スルヲ認メタル後工場法ノ改善ニ著手スヘント云フニアリ第二ノ要旨ハ從來ノ獨ノ社會政策的立法ハ多少勞働者ノ爲メニ利スル所アリト雖モ猶未タ帝ノ希望及任務ニ副ハサル點多シ勞働保險ノ改正ヲ爲スト共ニ現行工場法ノ缺點ヲ吟味スルハ目下ノ急務ナリ工場法調査ノ出發點ハ勞働ノ時及種類勞働者ノ健康倫理ノ維持ニアリ

勞働ノ關係法律上企業家ト同等ナル地位ニ置カルヘシテウ勞働者ノ希望ヲ容ル、コト勞働者ト企業家トノ圓滿ナル關係ヲ得ン爲ニ企業家又ハ政府ト平和的ニ交渉スルコトヲ得ル權能ヲ有スヘキ勞働者代表委員ヲ設立シ之レニヨリテ勞働者ノ希望ト意思ヲ政府ニ周知セシムルノ策ヲ講スヘシ帝ハ國立ノ鑛山ヲ以テ勞働者ノ保護ヲ計ル所ノ模範的的制度ヲラシメントス是等ノ問題ヲ決定スル前提トシテ茲ニ Staatsrat (元主ノ召集スル諮詢顧問ニシテ重大ナル國事ヲ豫備的ニ諮詢スル機關ナリ)ヲ召集スト云フニアリ

第五節 Staatsrat 及列國會議

Staatsrat ハ二月十四日ニ開カル出席議員ハ從來ノ議員タル皇族、大臣、元帥、州長、大將ノ如キ門地及職務ニ原因スルモノ及七十一人ノ勅選議員ノ外ニ更ニ大工業家鑛山業者及學者數名ヲ加ヘタルモノヨリ成レリ諮問事項ハ勞働者ノ不法ナル使役ヲ防キ勞働者ノ生命、健康倫理ヲ維持シ幼工女工ノ勞働ヲ制限シツノ他一般勞働者ノ地位ヲ上進シ利益ヲ増進スルニハ如何ナル立法ヲ爲スヘキヤニアリ蓋シ皇帝ノ之レヲ召集シタル主旨ハツノ議決ニヨリテ社會政策的立法方針ヲ決定セントスルニアリ

列國會議ハ三月十五日ヨリ二十八日ニ互リテ柏林ニ開カレタリ會同セシ諸國ハ白、丁、英、佛、伊、ルキセンブルヒ、和蘭、埃、匈、葡、瑞、那、瑞、西、及西班牙ナリ之レニ洩レタルハ露國及「バルカン」半島諸國ナリ蓋シ工

業國ニ非サル故利害關係ナケレハナリ議題ハ鑛山業ニ從事スル勞働保護、日曜勞働、幼工女工ノ保護ニ關スル規定及決議事項ノ實行之レナリ

農商務大臣 Berlepsch 議長トシテ帝國議事堂ノ會議室ニ開カレタリ討議ノ結果ハ一部ハ議決一部ハ希望ニ止マレリツノ事項左ノ如シ

十四歳以下ノ者及婦人ハ凡テ鑛山ニ從事スヘカラス

健康ニ害アル企業ニ從事スルコトハ可成制限セラレンコトヲ希望ス

石炭鑛ニ於ケル「ストライキ」ヲ豫防スル爲メ企業家及勞働者ハ連合シテ裁判所ヲ設置シ其ノ判決ニ服従スヘシ

十六歳以上ノ婦人ハ夜間及日曜勞働ニ從事スヘカラス

一日ノ勞働時間ハ十一時間ヲ最長限度トス且ツ少クトモ一時間半ノ休憩時間ヲ與フヘシ

産婦ハ分娩後四週ヲ經テ初メテ從事スルコトヲ得

十二歳以下ノ少年ハ工場ニ從事スヘカラス少年ハ凡テ工場ニ從職スル前ニ普通教育ヲ了ヘタルコトヲ要シ十四歳以下ノ少年ハ夜間及日曜勞働ニ從事スヘカラス

十二歳以上十四歳以下ノモノハ六時間、十四歳以上十六歳ノモノハ十時間ノ勞働ヲ一日中ノ最長限度トシ且休憩時間ヲ與フヘシ

Staatsrat 及列國會議ニ關シテハ比公ハ初メヨリシテ到底纏リタル意見乃至決議ヲ見ルコト無カルヘシト豫期セシニ反シ二者共ニ何レモ社會政策的立法ノ進歩ニ熱心ナルコトヲ示シタリシカハ比公ハ自己ノ政見ノ到底朝ニ容レラレサルヲ慨シ三月十七日ニ凡テ官職ヲ辭スルノ決心ヲ爲シ十八日皇帝ニ辭表ヲ奏セシカ皇帝ハ二十日裁可シ給ヘリ一説ニヨレハ比公ノ辭職ハ自己ノ發意ニ非スレテ實ハ皇帝ノ諭示ニ接シタルモノナリト云フ此ノ如クニシテ老帝時代ニ懋々タル功績ヲ奏シタル帝國第一期ノ大宰相ハツノ政治的生涯ヲ了レ獨ノ政治史ハ茲ニ一新時期ヲ劃スルコト、ナリ爾後新帝ハ獨皇帝タルト同時ニ大宰相タルノ職務ヲ行フニ至レリ

第六節 新時代ニ於ケル社會政策

第一項 社會的運動ノ再燃

政府ノ豫期ニ反シ選舉ノ結果ハ意外ニモ社會民主黨ノ優勢ヲ示セリ即チ千八百八十七年ニ於ケル投票數七十六萬三千二百二十八代議士十一ニ對シ千八百九十年ノ選舉ニハ四百四十二萬七千二百九十八投票數三十五代議士ノ選出アリタリ社會民主黨ノ朝野ニ於ケル勢力益々盛トナレリ加之二月勅宣ノ影響ハ社會民主黨ニ屬セサル一般公衆ヲシテ社會政策ニ多大ノ趣味ヲ生セシムルコト、ナリ特ニ上流社會及宗教社會ニ於テ然リトス社會政策ニ關スル著書ハ實ニ洛陽ノ紙價ヲ高メシメ社會政策的論文ハ頻々トシ

テ相續ケリ社會民主黨ノ行動ヲ評シ政府ノ社會政策的立法ヲ研究スル者滋々多シ
 社會的運動トシテ特ニ擧グヘキハ Evangelisch-sozialer Kongress 及 Evangelische Arbeitervereine ナリ
 第一ハ學會組織ニシテ主トシテ政治家實業家學者之レカ會員タリ宗教家トシテハ Stocker ノ如キ政治
 家トシテハ Nobbe ノ如キ學者トシテハ Wagner ノ如キ牛耳ヲ執レリ結合ノ目的ハ獨逸國民ノ現在ノ
 状態ヲ公平無私ニ研究シ經濟的倫理的及宗教的ノ見地ヨリシテ之レヲ測量シ國民ノ經濟生活状態ヲシ
 テ將來一層豊カナラシメンコトヲ期スルニアリ而シテ或ハ之レカ爲メ講筵ヲ開キ或ハ機關新聞ニヨリ
 テ社會政策上ノ理想ヲ公表スルニ務ム

第二ハ労働組合ノ一ニシテツノ起源ハ千七百八十年代ニアリシカ九十年代ニ至リテツノ活動初メテ見
 ルヘキモノアルニ至レリツノ起源ハ一部ハ宗教ヲ仇トスル社會民主黨ニ對抗セン爲メニ一部ハ舊教的
 社會黨ニ對抗セン爲メナルコト前ニ述ヘタリ初メハ「ライン」地方「ウエストファーレン」地方ニ起リ漸次
 獨内ニ蔓延シツノ勢力ノ及ハサル所ハ九十年代ニ於テ已ニ東部獨逸ノミトナレリ勿論地方ニヨリ主義綱
 領ニ於テ多少ノ差異アリテ保守主義ト自由主義トニ潮流アリ現今ニ於テハ會員約十萬人ニ及フト云フ

第二項 非社會主義法滅落後ノ社會民主黨

社會民主黨ノ勢力ヲ壓服スル爲メニ設ケラレタル非社會主義法律ハ却テ有害無益ナル結果ヲ生シタル

カ爲メ千八百九十年一月二十五日滅亡ノ運命ニ遭ヒタルコト已ニ述ヘタルカ如シトセハ一時沈靜ヲ餘
 儀無クセラレタル社會民主黨カ再ヒ活躍ヲ試ムルニ至リシハ怪ムニ足ラス

非社會主義法滅亡ノ後初メテ Heimle ニ於テ社會民主黨ノ大會アリ次テ千九百一年 Heimann ニ於ケル第
 二次ノ大會ニ於テ綱領ニ變更ヲ加ヘタリ綱領ノ中ニテ労働者ヲシテ政治上ノ權力ヲ得セシメントスル
 政治的意思ノ發表ハ茲ニ紹介スルコトヲ避ケ只社會政策ニ關スル部分ノミヲ摘記スレハ左ノ如シ
 労働時間ヲ八時間以下ニ限定スルコト、十四歳以下ノ幼者ノ労働ヲ禁止スルコト、事業ノ性質又ハ公
 益上ノ必要ニ本クモノハ別トシ一般ノ労働ニアリテハ夜間就業ヲ禁止スルコト各労働者ノ爲メニ毎
 週三十六時間以上ノ休憩ヲ與フルコト

「トルックシステム」ヲ禁止スルコト、又凡テノ工業ノ状態労働契約ノ内容ヲハ國家又ハ地方團體ノ官
 廳若クハ企業家労働者ノ連合ニ成レル公法人組織ノ團體ニヨリテ嚴重ニ検査セシムルコト
 農林業及普通ノ僕婢ヲ工業者ノ労働者ト同様ニ取扱フコト
 結合ノ自由ヲ確認スルコト

労働者ヲシテ行政ニ参加セシムヘキ帝國保險制度ノ設立

千九百三年ニ於ケル議員選舉ノ結果ハ益々社會民主黨ノ優勢ヲ示シタリ即チ投票數ハ三百萬ニシテ選
 出代議士ハ八十一人ノ多キニ及ヘリ

第七節 非社會主義法ノ滅亡後ニ於ケル労働組合ノ活動

非社會主義法ノ滅亡ハ労働組合ノ活動ニ一新氣勢ヲ添ヘタリ即チ千八百九十年十一月十五日柏林ニ於テ社會民主的労働組合ノ會合アリ獨内ノ同主義ニ屬スル労働組合ノ全總會ヲ召集センコトヲ議決シツノ結果トシテ第一ニ顯ハレタル大會ハ千八百九十二年「ハルベルスタット」ニ於ケルモノ之レニシテ各組合ヨリ代表者トシテ派遣セラレタルモノ二百人ニ及ヘリ會議ノ要目ハ組織問題ニアリ即チ總組合ヲ統率スル所ノ中央機關ヲ設立センコトニアリキ

第二ノ大會ハ千八百九十六年柏林ニ於テ開カル社會政策ニ關スル題目トシテハ労働失業保險制ノ推薦及労働媒介機關ノ設立ニアリ

第三ノ大會ハ千八百九十九年 F. a. Main ニ開カレタリ所謂「Tarifverträge」又ハ「Tarifgemeinschaft」ノ擴張ニアリ既ニ久シキ以前ヨリ印刷職工間ニ存在セル此労働條件協約ノ制度ヲ他ノ一般ノ労働ニ擴充セント云フニアリ「Tarifvertrag」ハ假リニ労働條件協約ト譯ス労働者ト企業者ノ兩者ノ代表機關ノ間ニ結ハレタル労働契約ノ條件特ニ勞銀ニ關スル契約ニシテ久キニ互リテ行ハルヘキ是等ノ條件ヲ一定スルモノヲ云フ本會議ニ於テ可決セラレタリ又從來各組合ニ與ヘラレタル「ストライキ」指揮ノ權ハ統一上總組合ノ中央機關 (Zentralverband) ニ移スコトニ議決シツノ他労働媒介制度ニ關スル議事モアリシ

モ確定ニ至ラザリキ

第四トシテ「スツットガルト」ニ開カレタル大會ハ労働組合ノ社會民主黨ニ對スル態度ヲ如何ニ決定スヘキヤニアリキ勿論當時ニ於テモ亦今日ニ於テモ労働者ノ大多數ハ社會民主黨ト密接ノ關係ヲ有スレトモ稀ニハ印刷職工ノ如キ少數ノ労働者ヨリ成レル労働組合ハ政治關係ヨリ超越シタル態度ヲ取ルヘキヲ主張ス

第五ノ大會ハ千九百五年 (Cöln) ニ於テ開カレタリ労働者會議所 (商工業者ノ代表機關タル商業會議所ノ如ク労働者ノ利害ヲ代表セシムヘキ公法人組織ノ團體) (Arbeiterkammer) ノ設立セラレンコトヲ議決セリ

以上述ヘタル労働組合即チ社會民主的労働組合 (又ハ自由労働組合トモ稱ス) ニ屬スル労働者ノ總數ハ千九百五年末ノ調査ニヨレハ百二十四萬四千八百三組合ノ歳入ハ二千七百八十一萬二千二百五十七「マルク」歳出ハ二千五百二萬四千二百二十四「マルク」基本財産千九百六十三萬五千八百五十七「マルク」ノ多キニ及ヘリ

右社會民主主義労働組合ノ外ニ獨ニ存在スル労働組合ノ重ナルモノ左ノ如シ

1. Die lokalorganisierter Gewerkschaften (又ハ Freie Vereinigung Deutscher Gewerkschaften)

千九百二年「ハルベルスタット」ノ合同ノ際ニ自由労働組合ノ多數ト意見相反セル爲メ分離獨立セ

ルモノナリツノ主張ハ往々無政府黨ヲ去ルコト遠サカラサルモノアリ千九百五年ノ調査ニヨレハ組合員二萬七千七百七十六人アリ

1) Hirsch = Duncker'sche Gewerksvereine

此労働組合ハ亦社會民主黨ト反對ノ意見ヲ有シ何等政治的結合ニ非ラスツノ主張スル所ハ Achtuhr = Ladenschluss 即チ商店ヲ午後八時ニ閉店スルコト、女工労働ノ禁止、保険金額ノ増加、労働媒介機關ノ設立等ニシテ千九百五年末ノ調査ニヨレハ組合員十一萬七千七百七十九組合ノ歳入百三十三萬六千六百五十一「マルク」歳出百七萬二千二百十九「マルク」ニ達ス

3) Christliche Gewerkschaften

千八百九十四年五月一日ニ生レタルモノヲ最初トスツノ主張ハ十時間ノ労働ヲ最長限度トスルコト、女工ノ労働時間ヲ九時間以下ニ定ムルコト、労働失業保険及労働媒介機關ノ官營ニアリ千九百六年末ノ調査ニヨレハ組合員數十八萬八千六百六組合ノ歳入二百四十四萬三千二百二十二「マルク」歳出二百十五萬五百十一「マルク」資産百二十四萬九千四百八「マルク」アリ

第八節 新社會政策時代ニ於ケル立法

第一項 千八百九十一年ノ Gewerbeordnung 工場法

政府ハ千八百九十年五月二十日帝國議會ニ工場法改正案ヲ提出セリ一箇年以上ノ討論ヲ經タル後二千八百九十一年五月七日多少ノ修正ヲ經テ可決セラレタリ

政府案ハ労働者保護ニ關スル方面ニ付テハ主トシテ先キニ開カレタル列國會議ノ議決ニ遵ヒテ立案シ主トシテ日曜休業、幼工、女工ノ三大問題ニ付キ規定スル所アリ日曜及祭日ノ労働ハ工場労働ニ付キ禁止セシノミナラス商業ニ付テモ使用人ノ労働時間ヲ五時間ニ制限シ十三歳以下ノ少年ハ工場ニ使用スヘカラス十三歳以上ノモノハ只普通教育ヲ已ニ了ヘタルモノノミ使役スルヲ許サレ十四歳以下ノモノハ只六時間十六歳以下ノモノハ十時間ヲ以テ最長労働時間トシ女工ハ工場ニテハ夜間労働ニ従事セシムヘカラス土曜日及祭日ノ前日ハ午後四時半以後ノ労働ヲ禁止シ十六歳以上ノ労働者ハ一日十一時間以上ノ労働ニ使役スヘカラス且ツ一時間ノ休憩時間ヲ與フヘキ旨ヲ定メタリ

政府案ニ對シテ社會民主黨ノ代議士ハ改正案ヲ提出セリ即チ十六歳以上ノ職工ノ労働時間ヲ十時間ニ限定シ向フ千八百九十四年ヨリハ九時間ニ千八百九十八年ヨリハ更ニ八時間ニ限定スルニアリキ委員會ハ労働時間制定案ニハ凡テ否決ノ決議ヲ爲シ只 H. L. 氏ノ動議ヲ採用シテ結婚セル女工ノミハ十時間ヲ最長時間トセンコトヲ決議シ他ハ凡テ政府案ニ賛成セリ結局本會議ノ議決確定シ公布セラレタル工場法中労働保護ニ直接ノ關係アル部分ヲ摘記セハ左ノ如シ

一、日曜及祭日ノ休息

從來ノ工場法ハ日曜及祭日ニ關シテハ企業家ハ日曜及祭日ノ勞働ハ之レヲ勞働者ニ強制スルコト能ハスト規定セシニ止マリシカ新法ハ各日曜及祭日ニハ二十四時間ノ休憩ヲ與フヘク二日連續スル祭日ニハ三十六時間ノ休憩耶蘇誕生祭、耶蘇復活祭(即チOsterfest)及白衣日曜祭(即チPfingstfest)ニハ四十八時間ノ休憩ヲ與フヘキ旨ヲ規定シ商店ニアリテハ耶蘇誕生祭、復活祭、白衣日曜祭ニ於ケル使用人ノ勞働ヲ絕對ニ禁止シ普通ノ日曜及祭日ニハ五時間ヲ限度トセリ

勞働ノ制限又ハ禁止ヲ實際ニ命令スルハ地方團體ナリ地方團體ハ亦地方ノ狀況ニ應シテ必要ナリト認ムルトキハ耶蘇誕生祭日前四週間竝ニ各日曜及祭日ニ付十時間ノ勞働時間延長ヲ許可スルコトヲ得

二、Trucksystemノ禁止

此點ニ關シテ新法ハ別ニ舊法ニ異ナリタル規定ヲ置キタルニ非サルモ只一層ノ擴張及峻嚴ノ度合ヲ増加スルヲ見ル

企業家カ勞働者ノ勞銀ヲ算定シ支拂ヲ爲スニ當リテハ帝國貨幣ニ依ラサルヘカラス之ニ反スレハ刑罰セラル勞働者ニ物品ヲ貸與スヘカラス但實費ヲ以テ食物ヲ給シ住宅、土地ヲ貸與シ燃料燈火用品、勞働用ノ器具材料ヲ給シ之レ等ヲ勞銀支拂ノ際ニ相殺スルコトヲ得

勞銀ノ支拂ハ飲食店、物品販賣店ニ於テ爲スヘカラス第三者特ニ勞働者ノ債權者等ニ之レヲ爲スハ

カラス勞銀支拂ハ一定ノ期日ニ之ヲ爲スヘキ期日以後ノ支拂ハ只一週間乃至一箇月ノ範圍内ニテ認許セラル

三、Arbeitszeugnisse (品行成績ノ證明書)

同法ノ下ニアリテモ勞働者ハ勞働ヲ廢止スルトキハ勞働期間内ニ自己ノ爲シタル勞働ノ種類及期間ニ付テ舊企業家ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得且ツ品行ノ證明ヲモ交付セラレタリシカ新法ハ更ニ一步ヲ進メ勞働ノ成績ニ關シテモ舊企業家ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得ルニ至レリ然ルニ新法ノ缺點ト稱スヘキハ企業家カ此ノ證明書ノ交付ヲ怠リタル場合ノ制裁無キコト之レナリ

四、生命健康倫理ノ保護

舊法モ亦此點ニ付テ規定スル所アリシモ只企業ノ性質上特別ノ危險アルモノ、ミニ限り且ツ如何ナル程度迄企業家ハ此點ニ關シテ設備ヲ爲スヘキヤニ付テノ詳細ナル規定ヲ缺キタリシカ新法ハ之レヲ補充セリ即チ事務所、勞働用器具機械ハ如何ニ裝置スヘキヤ、日光、空氣ノ流通充分ナルヘキコト塵埃、濕氣、瓦斯廢屑ノ類ハ適當ニ處分スヘキコト機械ノ危險ニ對シ特別ノ保護設備ヲ爲スヘキコトヲ命シ倫理ノ方面ニ關シテハ例ハ男女別ニ更衣房、洗面所及便所ヲ設クヘキヲ規定セリ而シテ之等ノ規定ノ實行ニ要スル施行細則ハ聯邦議會ニ之ヲ讓レリ

五、就業規程及勞働者代表委員

二十人以上ノ労働者ヲ使役スル工場ニアリテハ必ス就業規程ヲ設ケサルヘカラス 従業規程ハ工場開始後四週間内ニ發布シ衆人ノ見易キ所ニ揭示セサルヘカラス 労働者カ新ニ工場ニ雇入レラレタル際ニ必ス交付セサルヘカラス

就業規程ハ労働時間ノ始メト終リトヲ規定シ休憩時間ヲ定メ勞銀支拂ノ時及方法、労働契約ノ解除、勞銀ノ計算方及規程違反ノ制裁ヲ定ム

従業規程違反ノ制裁ハ如何ニ定メラルヘキヤニ關シ工場法ハ左ノ如ク規定ス曰ク 就業規程違反ノ制裁ハ名譽ヲ傷ケ又ハ善良ナル風俗ヲ害スルモノナルヘカラス 罰金ハ日給ノ半額ヲ超過スヘカラスト

就業規程ハ労働契約締結ノ基礎トナル

就業規程ノ發布並ニ追加ハ丁年以上ノ労働者ノ意見ヲ聞キテ定ムルコトヲ要シ常設ノ代表委員アル場合ニハ代表委員ハ規程ノ内容ヲ吟味シ企業家トノ協議ニヨリテ之レヲ定ム

代表委員ノ成立ツノ他ニ關シテ工場法ハ左ノ如ク規定ス曰ク 委員ハ丁年(二十一歳)以上ノ労働者ノ中ヨリ無記名投票ニヨリ互選ス委員ノ任務ハ労働者ヲ代表シテ企業家ト應接シテ労働者階級ノ利益ヲ保護増進スルニアリ 労働組合ノ組合長ハ當然代表委員タルコトヲ得ト

六、女工ノ保護

新法ハ女工ノ労働時間ヲ限定ス即チ十六歳以上ノ女工ハ十一時間、土曜及祭日ノ前日ハ十時間トス、女工ハ晝食ノ爲メ少クトモ一時間ノ休憩ヲ與ヘラルヘクツノ他家事ヲ見ルヘキ女工ニ付テハ請求ニヨリ午食前三十分間ノ休憩ヲ與ヘラル

女工ハ午後八時半ヨリ翌日午前五時半ニ至ル迄ノ夜間労働ヲ禁セラレ土曜及祭日ノ前日ハ午後五時半以後ノ労働ヲ禁セラル只地方團體ハ必要ト認ムルトキハ之レカ例外ヲ許可スルコトアリ女工ハ分曉後四週間ハ絶對ニ労働ヲ禁止セラレ引續キ二週間ハ醫師ノ許可ヲ得テ初メテ就業スルコトヲ得ルノミ

七、未丁年工ノ保護

凡テ未丁年者ハ公民權ヲ剝奪セラレタル企業家ノ下ニ働クヘカラス 普通教育ヲ怠ルヘカラス Arbeitsbuch(假ニ労働帳ト譯ス、警察官署作製シテ無償ニテ之レヲ労働者ニ與フ労働者ノ身元ヲ記入セルモノナリ而シテ企業家ハ労働ノ種類、雇入ノ時及解雇ノ時ヲ記シテ解雇ノ際ニ還付ス)ヲ持參セサレハ雇入レラル、コトヲ得ス労働契約ノ結ハレタル時即チ雇入ノ時ニ之レヲ雇主タル企業家ニ交付シ置キ解雇ノ時ニ之レカ還附ヲ受ク但未丁年工カ十六歳以下ナルトキハ自身手ツカラ之レヲ受取ルコトヲ得スシテ企業家ハ未丁年工ノ父又ハ後見人ニ之レヲ返付ス地方官廳ノ許可アラハ母ニ返付スルコトアリ Arbeitszeugnisse 即チ品行成績證明書ハ Arbeitsbuchト同時ニ未丁年工

自身又ハ父、後見人代リテ之レカ請求ヲ爲スコトヲ得

未丁年工ニ對スル勞銀支拂ニ付テハ地方團體ハ條例ヲ以テ左ノ如ク規定スルコトヲ得曰ク未丁年工ニ對スル勞賃ハ父母乃至後見人ニ交付スヘシ只是等ノ者ノ許可證ヲ提出セル未丁年工ニ限り直接ニ支拂ヲ享クルコトヲ得企業家ハ時々未丁年工ニ直接ニ支拂ヒタル勞銀ノ多寡ヲ父母又ハ後見人ニ報告セサルヘカラス

工場ハ使役セラル、未丁年工ニ關シテハ左ノ特別規定アリ曰ク十三歳以下ノ幼者ハ工場ニ使用スヘカラス十三歳以上ノ幼者ハ只普通教育ヲ了ヘタル者ニ限り工場ニ從職スルコトヲ得十四歳以下ノモノハ六時間以上ノ勞働ニ從事スヘカラス、十四歳乃至十六歳以下ノモノハ十時間ノ勞働ヲ最長限度トス未丁年工ハ午前五時半以前午後八時半以後ノ夜業ニ就クヘカラス十四歳以下ノモノニハ少クトモ一日中ニ一時間半ノ休憩ヲ與フヘクツノ他ノ未丁年工ニアリテハ午食ノ際一時間且ツ午前午後各半時間ノ休憩ヲ與ヘサルヘカラスト

凡テ未丁年工ハ日曜、祭日並ニ教會ノ聖日ニハ勞働ニ從フヘカラス只地方團體官衙ノ許可アリタルトキハ此ノ限りニ非ス

八、工場検査

新法ノ特色トシテ舉クヘキハ工場検査ノ制ナリ固ヨリ舊法ノ下ニモ此制アリシモ新法ニヨリテ檢

査官ノ權力及員數ヲ増加シ工場検査ノ實ヲ舉クルコトヲ得ルニ至レリ

新法ニヨレハ検査官ハ日曜休業、生命健康風俗ノ維持ニ必要ナル保護施設、就業規程、未丁年工女工ノ保護規定ノ實行サレ居ルヤ否ヤヲ檢閲セサルヘカラス検査官ハ農商務省直屬ノ官吏ナレトモ職務ノ執行ニ當リテハ地方警察官ノ指揮ニ從ハサルヘカラス検査官ハ企業家ヨリ職務ニ必要ナル統計書類ヲ徵スルコトヲ得検査官ハ自ラ檢閱年報ヲ作成ス年報ハ帝國議會及聯邦議會ニ提出シタル後初メテ公布セラル年報ハ社會政策家ノ參考ニ資スル所少カラス
検査官ノ員數ハ最近ノ調査ニヨレハ普ニ二百二十六人獨逸全國ニ三百人以上アリ

第二項 工業裁判所 (Gewerbegericht)

千八百九十年工業裁判法ニヨリ各市町村ニ一個宛ノ工業裁判所設立セラル、工場法ノ支配ヲ受クル凡テノ勞働者並ニ收入年額二千マルク以下ノ事務員、工長技術員ハ工業裁判所ノ管轄ヲ受ク工業裁判所ハ企業家ト前掲使用人トノ間ニ起ルヘキ勞働條件特ニ勞働帳、品行成績簿ノ交付ツノ内容、勞働關係ヨリ生スル給付及損害賠償ノ件並ニ保險料拂込ニ關スル紛議ノ調停ヲ司ル裁決ノ效力ハ兩當事者ヲ拘束スルノ力ナレ當事者ニシテ之レニ服從セサルトキハ如何トモスヘキ術無シ

工業裁判所ハ一人ノ裁判長、ツノ次席者、四人以上ノ陪審官ヨリ構成セラル裁判長及次席者ハ當該市町

村官衙カ兩當事者ニ利害關係ヲ有セサル公民ノ中ヨリ之レヲ任命ス任期ハ一箇年トス名譽職ナリ陪審官ハ企業家勞働者ノ兩側ヨリ各半數宛互選シ任期ハ一年以上乃至六年トス同シク名譽職ナリ訴訟費用ハ事件ノ大小ニ從ヒ「マルク」乃至「二十」マルクノ間ニ過キス
工業裁判所ノ功績トシテ擧クヘキハ陪審官ハソノ半數ハ勞働者階級ヨリ互選セラル、カ故ニ勞働者ハ裁決ヲ尊重シ之レニ服從スルコト實際ニ多ク從テ彼ノ忌ムヘキ「ストライキ」ノ數ヲ減少スルコト之レナリ

第四章 社會政策ノ進歩ト退歩

第一節 新時代ニ於ケル非社會政策派

所謂二月勅宣ハ社會政策家ノ歡迎スル例トナリタルニ反シ大工業家ハ自己ノ利害關係ノ見地ヨリシテ絶對ニ之レニ反對スツノ重ナルモノヲ Zentralverband der Industriellen (工業家組合、一ツ)ノ總支配人タル Bueck「グループ」銃ヲ以テ有名ナル Krupp 及製鐵業者ニシテ貴族院議員タル Stumm 男爵ナリトス殊ニ Stumm 男ハ自己ノ金力及政治上ノ力ヲ利用シ社會政策家ニ多大ナル打撃ヲ與ヘタリ例ハ社會政策ニ贊成スル牧師ノ職ヲ失ハシメ或ハ單ニ學問的ニ社會政策ヲ唱道スル (Brentano, Wagner, Schmoller等)購獲社會主義者ヲ批難シタルノミナラス Berlepsch, Bödicker 等普魯國國務大臣ノ地位ヲ動

カセリ而シテ氏ノ主張スル所ハ獨逸ノ工業ハ企業家ト勞働者トノ間ニ存スル圓滑ナル倫理的關係ニヨリテ至大ノ發達ヲ來シツ、アリ國家カ是等ノ者ノ内事ニ干渉スルハ却テ工業全體ノ發達ニ害アリテリナシト云フニアリ然レトモ同ク大工業家ナカラモ Stumm 男爵等ト全ク正反對ノ見解ヲ有シ勞働者保護ハ却テ工業ノ發達ニ資スルモノナリトシテ社會政策ニ贊成シタル大工業家ナキニ非ス Hezel 男爵ノ如シ然レトモツノ勢力ニ於テハ Stumm 男ニ比スヘクモ非リキ

第二節 Umsturzvorlage 及 ZuchtHausvorlage

千八百九十四年 Stumm 男ノ一派換言スレハ社會民主黨ニ對シテハ勿論國家ノ社會政策ニ對シテ反對ヲ試ムルノ徒ハ個人的勢力ニヨリテ新帝ヲ動カン帝ヲシテ社會民主黨ヲ壓服スル立法ノ必要ナルヲ覺認セシムルニ至リシノミナラス同年六月二十四日恰モ佛國大統領 Carnot カ盧無黨ノ爲メニ暗殺セラレタルコトハ獨逸ニ於テモ社會民主黨ヲ壓服スルノ必要アルヲ唱フルモノ朝野ニ多ク比公ニ亞キテ大宰相トナリタル Carnot ハ比公ニ反シテ自由主義ヲ抱持シテ社會民主黨壓服ニ反對セシカハ結局大宰相ノ印綬ヲ解クノ已ムヲ得サルニ至レリ當時比公ノ機關新聞タル Hamburger Nachrichten ノ如キ亦盛ニスツム派ニ勢援ヲ與ヘタリシカ遂ニ政府ハ千八百九十四年十一月刑法ノ一部改正案トシテ朝憲ヲ紊亂スルノ徒ヲ現刑法ヨリモ更ニ嚴シク所罰セントノ Umsturzvorlage ヲ議會ニ提出セリ人呼ンテ

非社會主義ノ再來ト云フ該案ニ對シテハ獨逸諸所ノ社會民主黨ハ大會ヲ開キテ反對ヲ議決シ Brenlano 教授ノ如キ社會政策學者亦熱心ニツノ不可ヲ唱ヘタリ而シテ議會ノ各政派ハ自黨ノ利害ニ鑑ミテ原案ノ修正ヲ試ミントシテ步調更ニ整ハサリシカ爲メ政府案ハ第二讀會ニ於テ否決セラレヌム派ノ苦心水泡ニ歸シヌ時ニ千八百九十五年五月ナリキ

然ルニ右 Unsturzvorlage ノ否決後四年ニシテ更ニ Zuehlhausvorlage ノ提出アリ之レカ原動力モ亦皇帝ニシテ當時獨ノ勞働組合中ノ或ルモノハ組合ニ加入シ居ラサル勞働者ノ利害ハ更ニ省慮セサルノミナラス却テ之レヲ妨害シ種々ノ迫害的行爲ニヨリテ勞働ニ從事スルコトヲ制止シタルノ事實アリシヲ皇帝ハ目撃セラレ此ノ如キハ勞働自由ヲ侵犯スルモノニシテ非理ノ甚シキモノナリトシ政府ヲシテ本案ヲ提出セシムルニ至リヌ本案ノ要旨ハ團體ノ力ヲ利用シテ勞働ノ自由ヲ妨害スルモノハ三年乃至五年ノ懲役ニ處スト云フニアリテ結局社會民主黨ニ對スル打撃案ナリ本案ニ至リテハ社會民主黨ニ屬スル大會新聞雜誌ハ盛ニ非難攻撃ヲ加ヘタリシカ議會ニ於テハスツムム派カ熱心ニツノ通過ニ努メタルニモ拘ハラヌ自由黨ノ反對ニヨリテ第二讀會ニ於テ否決セラレキ

第三節 千八百九十一年乃至千九百年間ノ社會政策的立法

前段ニ述ヘタル二大法案ノ否決以來ハ既ニ新ナル萌芽ヲ開キ居タル社會政策的立法ハ茲ニ再ヒ活氣ヲ

呈スルニ至レリ然レトモ千八百九十一年乃至千九百年間ハ尙スツムム派ノ勢力強盛ナリシカ爲メ社會政策的立法トシテ特ニ著シキモノナカリシモ猶左ノモノヲ舉グルコトヲ得

- 一、千八百九十六年八月六日工場法ノ追加アリ十四歳以下ノ幼者ハ行商ニ使用セラル、コトヲ得ヌ只地方的慣習アルトキニ限り地方警察官ハ一年中四週間以内行商ヲ許可スルコトヲ得
- 二、千八百九十七年以來十三歳以下ノ幼者カ裁縫工場ニ於テ從職スルコトヲ禁止ス

第五章 近時ノ社會政策及其將來

第一節 社會政策ニ對スル Pasadowsky ノ態度

内務大臣P氏ハ Unsturzvorlage ニ賛成セシ人物ニシテ當初ニアリテハ保守主義ヲ抱持シ社會政策ヲ喜ハサリレカ該法案ノ否決サレタル以來茲ニ飄然トシテ悟ル所アリ身ヲ社會狀態ノ實地研究ニ委ネ勞働者保護ノ必要ヲ確認スルニ至レリ

第二節 社會政策的立法及行政

一、千九百二年二月二十日幼者保護法律

該法ハ幼者カ工場ノ使役ニ處遇セラル、コトヲ禁止スルノミナラス家庭工業ニ付テモ同様ノ保護規

定ヲ設ケ建築及色素ノ混合磨碎ヲ爲ス工業ニハ絶對ニ幼者ヲ使用スヘカラス只ニ他人ノ幼者ノミナ
 ラス自己ノ幼者ヲモ使用スヘカラス幼者ノ労働ヲ禁止セサル工場ニアリテモ他人ノ幼兒ハ十二歳以
 下ノモノ自己ノ幼者ハ十歳以下ノモノヲ使用スヘカラス凡ソ十二歳以下ノ他人ノ幼者、十歳以下ノ
 自己ノ幼者ハ午後八時乃至翌日午前八時ニ至ル夜間労働ニ使用スヘカラス他人ノ幼者ハ普通ノ時ニ
 ハ一日二時間以上學校休暇ノ時ニハ四時間以上使用スヘカラスト規定セリ

二、工業裁判所法ノ擴張

從來存シタル工業裁判所ノ外ニ別ニ商業裁判所 Kaufmannsgericht 成立シタリ其組織ハ工業裁判所
 ニ同シ只專ラ商人ト其ノ被使役者トノ爭議ヲ調停スル特別機關タルノ差異アルノミ

三、商店ニ於ケル労働時間ノ限定(千九百年)

労働者ニハ毎日労働ヲ了ヘタル後少クトモ十時間ノ休憩ヲ與ヘサルヘカラス、人口二萬以上ノ都市ニ
 於テ二人以上ノ使用人ヲ使用スル商店ニアリテハ十一時間ノ休憩ヲ與フヘク午食ノ爲メ一時間半以
 上ノ休憩ヲ與フヘシ、午後九時ヨリ翌朝五時迄ハ商店ヲ絶對ニ閉ツルコトヲ要ス

四、燐素ヲ使用スル摺附木ノ製造ハ絶對ニ禁止セララル

五、Arbeitsamt 労働局ノ設置

千九百三年以來帝國統計局ノ一部トシテ労働者ノ統計ヲ編纂スル特別ノ部局成立シ此部局ノ事業ヲ

補助スル機關トシテ統計顧問 Beirat für Arbeitsstatistikノ設置アリ統計顧問ハ帝國統計局長ヲ會
 長トシ帝國議會聯邦議會ノ議員中ヨリ半数宛互選セララルヘキ十四名ノ顧問ヨリ成ル

第三節 未決問題

千九百七年初夏P氏ノ退職以來兼テP氏ノ考案ニ懸リタルモノニシテ今日ニ至ル迄未決問題トシテ殘
 存スルモノ左ノ如シ

- 一、疾病保險ヲ家庭工業労働者ニ擴充スルコト
- 二、同シク疾病保險ヲ僕婢及農業労働者ニ及ホスコト
- 三、三保險制度ノ統一
- 四、労働者結合ノ自由ヲ法カ一層確認スルコト
- 五、労働者會議所 Arbeiterkammerノ設置、労働者會議所ノ何タルヤハ既ニ説明セリ
- 六、女工ノ一日労働時間ヲ十時間ニ限定スルコト(現在ハ十一時間ナリ)
- 七、労働者ノ住居問題

因ニ記ス最後ノ労働者住居問題ヲ解決スル方法トシテ「プレスラウ」社會政策(Ortsgruppen der Gesellschaft
 für Soziale Reformen)ノ提出セラルモノ左ノ如シ

一、品質的改良方法

(甲) 建築警察規則ノ改善

(乙) 屋舎検査ノ爲メニ國家ハ特別ナル検査官ヲ設置スルコト

二、分量的改善方法

(甲) 宅地ノ面積ヲ擴ムル策トシテ例ヘハ市街擴張ノ政策ヲ取ルコト、市町村ノ合併ヲ獎勵スルコト、地方團體特ニ都市ハ宅地ヲ買収又ハ徵收シテ建築業者ニ無償又ハ安價ニテ拂下クルコト(之レハ別ニ第二款ニ述フル所アリ)非宅地ノ地租ヲ増徴シ地主ヲシテ非宅地トシテ留保スルノ不利益ナルヲ自覺セシメ務メテ宅地ニ換ヘシムルコト

(乙) 交通機關ノ完備ニヨリテ都市ト田舎トノ交通ヲ便ニシ勞働者ヲシテ田舎ニ住居シ只勞働ノ爲メニノミ都市ニ通勤スルノ途ヲ與フルコト

(丙) 屋舎ノ數ヲ増加スル策トシテ國家又ハ都市ハ建築業者又ハ建築組合ニ低廉ナル利子ヲ以テ資金ヲ供給スルコト(現ニ普ニ於ケル建築組合—産業組合ノ一種—ハ Prensische Central-Genossen-Casse タル國家的中央金融機關ヨリ二分ノ低利ト一分ノ年賦償還方法トニヨリテ資金ノ融通ヲ請ヒツ、アルハ第三款ニ述フル所ノ如シ)國家又ハ市町村カ屋舎ヲ建築シテ自己ノ使役スル勞働者又ハ官公吏ニ低廉ナル賃借料ヲ徵シテ貸付クルコト

第四節 社會的運動

勞働組合ハ其ノ數ニ於テ年ヲ追フテ増加スル傾向アリ彼等ノ「ストライキ」ニ對スル態度ハ昔日ト異リ之レヲ以テ企業家ニ對抗スル最終ノ武器トス換言セハ他ノ凡テノ平和的手段ヲ用ヒ盡スモ到底企業家ヲ動かシ自己ノ主張ヲ容レシムル望ナキ時ニ限ル、勞働組合ニ對峙シ一方ニハ企業家ノ團結モ益々強固トナリ前者ノ最終武器タル「ストライキ」ニ對シテ Ausserung (同盟シテ勞働者ヲ雇入レサルコト)ヲ以テ之レニ報ユ、實ニ現今ノ社會的運動ハ此兩大團結ノ對峙ヲ意味ス

人或ハ兩大團結ノ對峙ヲ以テ經濟界ノ平和ヲ危ムモノアラシ然レトモ獨ニ於ケル實際ノ事情ハ之レニ反シ兩者カ干戈ヲ交ユルコトハ年ヲ追フテ數ヲ減スルノ傾向アルハ恰モ列強カ軍備ノ擴張ニ汲々タルニ拘ハラズ容易ニ戰端ヲ啓カサルニ左モ肖タリ而シテ兩者ノ平和ノ楔子タルモノハ實ニ勞働條件ノ永久的協約 (Tarifvertrag) ナリトス只這ハ現今ニ於テハ猶舊ニ小中工業ニノミ限局セラレ大工業ニアリテハ殆ント之レアルヲ見サルヲ遺憾トス蓋シ大工業ニアリテハ企業家ト勞働者トノ地位懸隔シテ主從ノ關係存在スルヲ以テ勞働條件協約ノ締結ハ將來ノ問題ニ屬ス社會民主黨カ此ノ勞働條件協約ヲ以テ自家綱領宣言ノ一ニ加ヘサルハ穩健ナル社會政策家ノ嗤笑ヲ招ク一原因ナリ

現今産業組合特ニ消費組合ノ發達ハ亦勞働者自助ノ好手段ナリ這ハ第三款ニ改メテ述フル所アルヘ

國際的労働者保護會議ハ千八百九十年獨帝ノ發起ニヨリテ伯林ニ開カレタルヲ初メトシ千八百九十七年 Zurich 及 Basel ニ開カレツノ結果トシテ千九百一年 Basel ニ國際労働局設立セラレタリツノ職務ハ列國ノ施行シアル労働者保護法律ヲ蒐集シ重要ナル部分ニ付テハ記録ヲ編製シ且ツ國際會議ノ召集ヲ行フニアリ尙社會的運動ノ一トシテ舉クヘキハ千九百一年一月六日伯林ニ設立セラレタル社會政策協會 (Gesellschaft für Soziale Reform) ニシテ前農商務大臣 Berlepsch 及教授 Francke ノ指揮ノ下ニアリテ社會民主黨ヲ除キ凡テ社會政策的意見ヲ抱持スル政治家之レカ會員タリツノ綱領トシテハ労働者保護立法ノ進捗労働組合ノ健全ナル發達ヲ獎勵スルニアリ

第五節 社會政策ノ現在及將來

現今獨ノ社會政策家ハ學者ト政治家トノ別ナク何レモ現今ノ労働保險法、工場法ノ規定ヲ以テ不充分ナリトシ之レカ改善ヲ企テツ、アルノミナラス労働組合一層健全ニ發達シ労働組合ノ地位カ企業家資本家ノ組合ニ對シテ一步モ遜色ナキノ域ニ達センコトヲ希ヒ工場検査官ノ員數ノ増加サル、コト労働條件協約カ大工業ニモ擴充セラレ Arbeiterkammer 又ハ Arbeitskammer ノ設立セラハ、ニ至ランコトヲ理想トス Arbeiterkammer ノ何タルヤン已ニ述ヘタリ (Arbeitskammer ハ企業家労働者兩者ヲ代

シ

表スル公法人組織ナリ從テ現實セラル、希望ハ前者ニ比シ更ニ少シト云ハサルヘカラス)

社會政策ニ對スル皇帝ノ態度ハ少シモ昔日ト異ル所ナク益之レカ進捗ヲ理想トセラル、ニ似タリ只社會民主黨ノ過激ナル行動ニ對シテハ必要ナル抑壓的政策ヲ實行スルノ必要ヲ認メラル、コトモ亦前日ニ同シ

要スルニ獨多數ノ社會政策家ハ獨ノ國家ノ側ヨリスル社會政策ハ時ニ消長ヲ見ルコトナキヲ保セサルモ漸次理想的ニ進歩改良ノ域ニ達センコトヲ豫想シアリ

以上ヲ以テ比斯麥公時代ヨリ今日ニ至ル迄ノ獨ニ於ケル國家的社會政策ノ大要ヲ述ヘタリト信ス傍ラ社會的運動ヲ敍シタルハ國家的社會政策ニ密著ノ關係アルニ由ルニ過キス中ニ就キ最モ重要ナルハ云フ迄モナク労働保險法及工場法ノ二者ナリ此二者ニ關シ如上述ヘタル所ハ單ニ大綱ニ止マリ盡サ、ル所多シ後ニ稿ヲ改メテ詳述スルノ機ヲ待タントス

第二款 地方團體特ニ市ノ側ヨリスル社會政策

第一章 概説

社會政策ノ目的ニ出ツル都市ノ施設ハ之レヨリニ方面ヨリ觀察スルコトヲ得一ハ自治權ノ作用ニヨル立法例ハ工場法ノ命スルニ從ヒテ條例ヲ以テ幼工ニ普通教育義務ノ負擔ヲ命スル如キ一ハ社會政策ノ目

的ニ適合スル私人ノ企業ニ補助ヲ與フル如キニハ市自ラ企業家トシテ家屋ヲ建築シ水道瓦斯鐵道ヲ敷設シ貯金事業ヲ經營スル如キ之レナリ左ニ之レヲ詳述セン

第一、家屋建築ノ方面ニ於ケル社會政策

甲、市區改正ヲ行ヒテ成ル可キ丈ケ家屋ヲ多ク建築シ得ル様計畫スルコト、土地ノ交換整理ニヨリテ同様ノ目的ヲ達スルコト、建築條例ヲ以テ生命健康ニ害ナキ限リハ敷層ノ家屋ノ建築ヲ許ス如キ之レナリ

乙、私人ノ企業ニ補助ヲ與フルコト

之レカ第一ノ實例トシテ擧クヘキハ彼ノ貧民ニ低廉ナル而モ良好ナル住居ヲ給スル目的ヲ以テ設立セル建築組合ニ補助ヲ與フル如キ之レナリ補助ノ形式ハ種々アリ市ノ建築技師ヲシテ無償ニテ建築組合ノ建築事業ニ與ラシメ或ハ市カ組合ノ持分ヲ引受ケ或ハ地租、家屋稅、水道瓦斯ノ使用料、建築警察手数料等ヲ輕減シ或ハ建築ニ必要ナル市有土地ヲ低廉ニ賣下ケ或ハ貸貸シ又ハ資本ヲ低利ニ供給スル如シ而シテ市ハ更ニ帝國養老保險料積立金ノ融通ヲ請ヒツ、アリ云フ迄モナク養老保險ハ國家的社會政策ナリ從テ社會政策ノ手段カ再度利用セラレ居ル譯ナリ巧妙ト云フヘシ又 Disseldorf 市ニ於テ千九百年以來市立抵當銀行ヲ設立シ建築業者ニ家屋ヲ抵當トシテ低利ノ融通ヲ爲シツ、アリ而シテ市ハ之レカ爲メニ市債ヲ募集シテ貸付資金ノ充實ヲ計リツ、アルカ市債ノ利子

ハ貸付利子ヨリ低キコト五厘ニ當ルト云フ

丙、市自ラ企業ヲ經營スルコト

第一ニ擧クヘキハ市ノ土地買上政策ナリ市ハ大仕掛ニ(從テ安ク)多量ノ土地ヲ買上ケ土地ノ上ニ労働者用ノ家屋ヲ建築スルカ又ハ建築業者、建築組合ニ土地ヲ低廉ニ貸貸又ハ賣下クルノ方法ヲ取ル而シテ之レヲ實行スルニ當リテハ市内ノ土地ニ付キ市ヲシテ先買權ヲ取得セシメ又ハ公用徵收ノ規定ニヨリテ徵收スルノ法規ヲ設ケ之レニヨリテ土地ノ市有ヲ行フ

土地ノ買上ニヨリテ市ハ社會政策ノ目的ヲ達スルト同時ニ亦土地ヲ財政上ノ需要ニ充ツルコトヲ得ル次第ナリ家屋ヲ建築シテ賃借料ヲ收入スル如キ若クハ土地ノ價格高マリタル際ニ拂下クル如キ皆財政上ノ目的ニ副フモノナリ只單ニ社會政策ノ目的ヨリ云ヘハ可成土地ヲ長ク市有シテ家屋ノ建築ニ利用スルヲ可トシ拂下ケヲ不可トスルハ論ナシ而シテ可成土地ヲ市有トシテ留保スルコトハ家屋建築ノ方法以外ニモ社會政策ノ目的ニ適應スルモノト云フヲ得ヘシ何トナレハ彼ノ履行ハル、土地ヲ目的トスル投機賣買ノ起レル際ニ當リテモ市ハ之ニ參加セサルコトニヨリテ不當ナル土地ノ暴騰ヲ抑制スルコトヲ得ヘケレハナリ殊ニ全市ノ大部分カ市有タル場合ニ於テ特ニ然リトス

實ニ F. a. Main ニ於テハ千八百九十四年ニ市有土地 Eigentum 此ノ價格一億マルクナリシモノカ

千九百五年ニハ Hedges 價格二億一千二百万「マルク」ニ上レリ即チ面積ニ於テ二割二分價格ニ於テ十一割二分ヲ増セリ而シテ最近ノ調査ニヨレハ市有家屋五十三個アリテ市ニ仕フル公吏労働者ノ住宅ニ利用サレ居ル住宅ノ數實ニ二百六十七個ニ上リ之レヨリ收ムル賃貸料ハ實費ノ四割三分五厘ニ當ルト云フ

Disseldorf 市ニ於テハ千九百二三年間ノミニテモ土地ノ買上基金ヲ作ル爲メニ五百萬「マルク」ノ市債ヲ發行セリト云フ

〇三市ニ於テハ市有土地ハ全市内ノ八割ヲ占ムト云フ

第二、社會衛生的の方面ニ於ケル社會政策

甲、水道瓦斯電氣ノ企業者ヲシテ公共道路ヲ利用セシメ之ニ對シテ反對給付ヲ命スルコト 反對給付トハ例ヘハ是等企業者ノ純益ノ一部分ヲ市ニ納付セシムル如キ或ハ企業者カ收ムル使用料ノ決定權ヲ市ニ留保シ務メテ使用料ヲ低ク定メ一般市民特ニ細民ノ負擔ヲ輕減センコトヲ計ル

乙、水道瓦斯電氣ヲ私人ノ企業ニ委ネ一定ノ年限ノ經過ノ後ニ之レヲ市ニ買上クルノ條件ヲ留保スル外ニ獨逸内ニテハ當初ヨリシテ是等ノ企業ヲ市有トスルモノアリ此ノ如キハ買上ノ際ニ於ケル紛争ヲ避ケ極メテ便利ナリトス現ニ英國倫敦ニ於テハ水道會社ノ買上歴史ハ社會政策ノ見地ヨリシテ忌ムヘキ現象タリシナリ

丙、獨ノ「ライン」ウエストフアリア地方ニ於ケル諸市ニ於テハ市立ノ牛乳拂下所アリ純良ニシテ低價ナル牛乳ヲ供給シ労働者ノ需要ニ應ス又柏林市ソノ他獨ノ諸市ニアリテハ市自ラ湯屋業ヲ營ミテ財政上ノ收入ヲ企圖スルト共ニ社會的衛生ノ目的ヲ達シツ、アリ市立市場ノ如キ亦同様ノ目的ニ出ツルモノナリ

第三、労働者ソノ他細民ノ保護ヲ目的トスル市ノ社會政策

甲、市ノ模範的の企業ノ經營

公益上ノ目的乃至社會政策上ノ目的ヨリシテ市ノ經營スヘキ事業ハ益增加スルト同時ニ之レニ使用スル労働者ノ數亦益多シ從テ市カ是等ノ労働者ヲ使用スルニ當リテ定ムル労働條件特ニ勞銀ノ高支拂ノ形式休暇ヲ與フルコト、恩給ヲ付與スルコト、常備労働者ニハ勞銀以外ニ手當ヲ給スルコトノ如キ實ニ私人企業ノ模範トナリ私人企業ニ從事スル労働者モ延イテ恩典ニ浴スルコト少カラス又獨ノ諸市ニ於テハ盛ニ労働者代表委員ノ組織ヲ獎勵シ出來得ル限リ労働者ヲシテ自己ノ希望ヲ吐露スルノ便宜ヲ與ヘシメツ、アリ殊ニ或ル市ニ於テハ社會民主黨ノ主張タル八時間労働ヲ勵行シツ、アリ

茲ニ特ニ擧クヘキハ所謂 Notstandsarbeiten ニシテ普通民間ノ企業カ沈衰シ多數ノ労働者カ失業状態ニ陥リタルトキニ市カ特ニ事業ヲ起シテ労働者ヲ收容スルコト之レナリ F. a. Main ニ於テ

ハ此例多シツノ時期ハ主トシテ冬季ニシテ市ノ與フル事業ハ道路改修工事、雪掻工事ノ如キ最も多シ此點ニ付テハ更ニ「各論」ト題スル章下ニ於テ述フル所アルヘシ

乙、私人ノ事業ニ補助ヲ與フルコト

例ヘハ私立ノ労働媒介所即チ企業家ト労働者間ノ労働ニ對スル需要供給ノ關係ヲ連絡スル媒介機關ニ對シ市カ財源ノ補助ヲ爲ス如キ之レナリ

丙、市自ラ施設ヲ爲スコト

茲ニ特ニ擧クヘキハ市立ノ労働媒介所ナリ労働ノ需要切ナル企業家ニ労働者ヲ媒介シ失業ノ爲メ糊口ノ途ヲ失ハントスル労働者ニ企業家ヲ供給ス社會政策ノ一端ナリ更ニ各論ニ於テ詳述セントス前款ニ述ヘタル工業裁判所ハ淵源ハ國家ノ立法ニアリト雖モ之レカ實行ハ地方團體ナルヲ以テ茲ニ再ヒ掲クルモ妨ケナシ

ツノ他市立金融機關ハ亦細民ノ爲メニスル社會政策タリ獨逸ニ於テハ他ノ諸國ト異リ細民ノ貯蓄機關ハ郡或ハ市ノ事業トシテ發達シ來リタリ即チ零細ナル貯金ヲ集收シ低利ニテ對物又ハ對人信用ヲ細民ニ與フル所ノ機關タル郡市ノ Sparkasse 貯金銀行ハ即チ之レナリ市立質業ノ如キ市町村銀行 Kommunale Banken ノ如キ(ブラレスラウ)市立銀行ノ如シ)皆中等以下ノ社會ノ金融機關タリ社會政策家ノ或ルモノハ市ハ更ニ進ンテ生活必需品特ニ生肉、石炭、石油類穀物等ノ生産及販賣ヲ

營ミ低價ニテ細民ニ給スルコトニヨリテ細民ノ負擔ヲ減スヘシト説クモノアレトモ輿論ハ之ニ反對レ此ノ如キハ市ノ政治團體トシテノ本來ノ職務ヲ無視セルモノニシテ若シ此ノ如キニ至ランカ市ハ純然タル商工業者ト化シ去ランノミナラス市ハ本來低利ニテ金融ヲ得ルノ便モアリ免稅ノ恩典モアリ公吏ヲ無給ニテ此ノ如キ業務ニ使用レ得ルノ便モアルカ故ニ市ハ必需品ノ供給ニ付キ直ニ獨占ノ地位ヲ占ムルニ至リ商人ノ大半ハ實ニ無職業ノ境涯ニ陥ルニ至ルヘク且ツヤ生活品ノ價格ハ只ニ内國ニ於ケル需供關係ニヨリテノミ定マルニ非スシテ外國市場ノ影響ヲ蒙ルコト甚シキヲ以テ論者ノ期スル如クニ常ニ細民ニ低廉ナル販賣ヲ爲シ得ヘシトノ希望ハ實現セラレサルヘシトノ説アリ之レカ爲メ獨ノ諸市ニ於テハ未タ實行ノ運ニ至ラス

第四、租稅政策ノ側ヨリスル社會政策——自治權ノ作用

土地ノ價格ノ騰貴ヲ防ク目的ヨリシテ土地所有權ノ移轉ニ際シテ課スル Umsatzsteuer (假リニ土地賣買稅ト譯ス)ノ如キ土地價格ノ差異ニ課スル差増稅ノ如キ即チ之ニ屬ス

(附)救貧行政

前段ニ述ヘタル手段ハ何レモ積極的方面ニ於ケル社會政策ト云フコトヲ得ヘシ細民ノ負擔ヲ輕減シ貧富ノ懸隔ヲ調和シ以テ貧民狀態ニ陥ルモノ、數ヲ減少セント務ムレハナリ茲ニ述ヘントスル救貧行政ハ事後ノ結果ニ對スル政策ナリ謂ハ、消極的社會政策ナリ

甲、概説

貧民ハ決シテ現今ノ特産物ニ非ス已ニ古代ニ於テモ之レアリキ只今日ニ於ケル貧民ノ對人口比例ハ昔時ヨリ多キヲ示ス蓋シ近世機械工業ノ發達ハ勞働者ナル特別ノ階級ヲ生シ此階級ヨリ輩出スル貧民ノ數頗ル多シ而シテ如何ナル範圍如何ナル形式如何ナル條件ノ下ニ貧民ヲ救済スヘキヤノ問題ハ即チ救済制度ナリ惟フニ古代ニ於ケル救済制度ハ專ラ個人的救済即チ一般私人ノ慈善事業タリシカ中世ニ至リ個人事業ノ外ニ教會ノ救済制度生シ更ニ十五世紀以後ハ國家モ之ニ關ハルコト、ナレリ是ニ於テカ救済行政又ハ救済警察ナル文字初メテ發生セリ故ニ救済行政トハ國家ノ行フ救済ノ意義ニ外ナラス勿論國家ノ救済ツノモノニ對シテ反對ヲ試ムルモノナキニ非ス之レ主トシテ文明諸國ニ於ケル國家ノ救済ハ從來ノ實績ニヨレハ貧民ノ數ヲ減少スルニ非スシテ却テ之レヲ増加スルノ惡結果ヲ生シタルニ起因スルニ似タリ然レトモ貧民ヲ救済スルハ實ニ國家自衛ノ必要ニ出ツ方法ノ巧拙ニヨリテ目的ヲ了了スヘカラス

本來救済行政ハ國家ノ事タリ然レトモ國家自ラ之レヲ行フハ例外ニシテ原則トシテ地方團體特ニ市町村ヲシテ之レヲ行ハシム國家カ救済行政ニ於ケル作動ハ間接ニ過キス單ニ法規ヲ以テ救済行政ノ原則ヲ規定スルニ止マル獨逸亦此例ニ洩レズ是レ本款ニ於テ救済行政ヲ敘スル所以ナリ

乙、原則

救済行政ハ勞働能力アル貧民ト勞働能力無キ貧民トニヨリテ區別セサルヘカラス

一、勞働能力アル貧民ニ對スル救済行政

勞働能力アルモ勞働ヲ欲セサルモノニ對シテハ救済行政ハ勞働ヲ強制スルノ方法ニ出テサルヘカラス即チ Arbeitshaus 勞働場ニ收容シテ苛酷ナル勞働ニ服從セシメ貧民狀態ノ忌ムヘキ所以ヲ悟ラシメテ普通ノ公民ニ復帰セシムルハ之レナリ勞働能力アルモ勞働口ヲ見出ス能ハサルモノニ對シテハ一時 Arbeitskolonien ニ收容セシム蓋シ之レヲ放任セハ流浪生活ヲ敢テシ犯罪ヲモ犯スニ至ルノ危險アレハナリ Arbeitskolonien ノ何タルヤハ後款ニ述ハントス

二、勞働能力無キ貧民

勞働能力欠缺ノ原因ハ幼少、病氣及ヒ老衰ニアリ扶養者ナキニ非ルモ扶養者カ貧ナル爲メ養ヒ得サル幼兒ハ貧兒園 (Kindergarten) ニ送ラレ扶養者ナキノ孤兒ハ孤兒院又ハ育嬰所 (棄兒ヲ養フ所) ニ收容ス育嬰所ハ獨逸内ニハソノ數少シ貧兒園又ハ孤兒院ハ充分ナル發達ヲ見ル孤兒ハ又往々里親 (Pfleger) ニ送ラル市之レカ養育費ヲ負擔スルハ勿論ナリ病氣又ハ老衰ニ原因シテ勞働不能ナルモノハ戶外救助又ハ戸内救助ヲ置ク戶外救助トハ貧民ノ親戚ノ内ニテ公費ヲ以テ養ハル、謂ナリ救助ノ形式ハ實物救助ニアリ金錢救助ハ例外ナリ何レニセヨ救助ノ程度ハ飢渴ヲ凌クニ足ルノ程度ニ止マル親戚ノ内ニ於テスルニアラスシテ例外トシテ他人ノ家ニ收

容セラル、場合アリ或ハ又「ザクセン」「バイエルン」ノ如キハ *Unfabrt* ト稱シテ貧民ハ市町村住
 民ノ各戸ヲ經廻リテ衣食ヲ給セラル、制度アリ稱揚スヘキ制度ニ非ス戸内救助トハ市町村立ノ
Armenhaus (救貧所)ニ收容セラル、ヲ云フ獨ニテハ市立ノモノハ設備良好ナレトモ町村立ノ
 モノニ至リテハ財源ノ許サ、ル爲メ設備不完全ナリ現在病氣ニ罹レルモノハ市町村立病院ニ收
 容セラル (*Krankenhaus, Siechenhaus*) 戸内救助ヲ受タル貧民ニシテ多少ナリトモ勞働シ得ル
 モノニアリテハ女子ニハ笠細工編物細工ヲ課シ男子ニハ道路掃除等ヲ課ス

丙、救貧費

獨逸諸國ニ於テハ救貧費ハ原則トシテ市町村之レヲ負擔シ市町村ハ救貧費ノ爲メニ特別ノ會計制
 度ヲ設置ス但支出ノ財源ハ一般市町村民ヨリ徴スル租税ニアルハ論ナシ但獨逸内ノ或聯邦ニ於テ
 ハ或種ノ租税ハ市町村ノ他ノ費途ニ使用セシテ專ラ救貧費ニノミ用ユルモノアリ例ハ「ザクセ
 ン」ニ於テハ犬税、相續税及土地賣買税ノ全部「ユルテンベルヒ」ニ於テハ犬税ノ一部ハ必ス救貧費ニ
 充ツヘキ定メナリ何レニセヨ獨逸諸國市町村税ハツノ大部分ハ救貧費ニ充當セラル、有様ナリ
 千九百七年五月九日柏林市發行 *Vossische Zeitung* ニ掲載セル柏林市外八箇市ノ救貧費ヲ示セハ
 左ノ如シ(「シヤロットテンブルヒ」市役所調査)

1907 年 度	住民ノ數	費 額	人 口 割
柏林市	2,096,300	13,488,389	マルクハインニヒ 6.44
ハンブルヒ(最モ多シ)	844,480	6,356,918	7.53
ミュンヘン	552,000	2,580,045	4.37
ドンスデン	531,000	2,694,248	5.07
ライプチヒ	518,700	3,746,751	7.22
プレスラウ	486,000	1,695,778	3.49
ケルン	450,890	1,451,457	3.22
F. a Main	350,300	2,315,784	6.62
ニエルンベルヒ	307,700	1,066,136	3.46

第二章 各論

第一節 土地差増税 (Verzinswachssteuer)

第一項 概説

土地差増税ノ觀念ヲ明ニセントセハ先ツ土地賣買税 (Umsatzsteuer) ノ何者タルヤヲ説カサルヘカラ
 ス何トナレハ土地差増税ハ賣買税ノ發達セルモノニ外ナラサレハナリ況ンヤ兩者ハ實際ノ税制ニ於テ
 相結合スルコト多キニ於テヲヤ

土地賣買税ハ土地ノ所有權移轉ニ際シテ課スル所ノ公課ナリ故ニ學者ノ所謂行爲税 (Verkehrssteuer)
 ノ一種ナリ土地賣買税ノ目的物ハ移轉ノ事實ニシテ課税ノ標準トナルモノハ土地ノ價格(賣買價格又
 ハ時價)ナリ課税義務者ハ讓受人ニシテ讓渡人亦連帶義務者ナリ相續ハ課税ノ目的物トナラズ強制競
 賣ハ免税ノ理由トナラサルコト多シ税率ハ通常價格ノ一分乃至二分ヲ昇降ス

差増税ハ沿革上賣買税ノ發達セルモノニシテ土地所有權ノ移轉アルニ際シテ舊讓受(取得)價格ト現在
 ノ讓渡價格トノ差増ニ課スル公課ナリ通常移轉ノ場合ニ課スルヲ原則トス然レトモ制度ニヨリテハ移
 轉ノ事實アルコトヲ要件トセス一定ノ期間ノ進行ニ對シテ課スルモノアリ膠州灣ニ於ケル差増税之レ
 ナリ學者側ノブルンフーパーハ前ノ場合ヲ間接差増税後ノ場合ヲ直接差増税ト呼稱ス直接差増税ハ新

開殖民地ノ如キ價格ノ騰貴急速ナル土地ニヨリ適用スルヲ可トセン(ハツケルノ説)

差増税ハ一切ノ差増額ヲ税スルニ非スレテ差増額カ一定ノ程度ヲ超ニル場合例ハ舊讓受價格ニ對シテ
 一割若クハ三割ト云フ如キ場合ニ課税ス一割ニ充メサル差増ハ免除スルヲ常トス且ツ Hebel ハ曰ク
 一定ノ期間經過スルコトヲ要件トス例ハ取得後五年若クハ六年ニシテ移轉ノ事實アリタル如キ之レナ
 リ餘リニ長キ期間ノ經過アリタルトキハ税セサルヲ可トスト這ハ差増税カ土地投機賣買ヲ抑制スルノ
 目的ニ副フモノナリ相續ハ免税セラル、ヲ通常トシ課税ノ要件タル期間經過ニ關シテハ宅地ト非宅地
 トノ間ニ差異アリ宅地ハ短ク非宅地ハ長シ價格増加ノ程度概シテ異レハナリ交換及ヒ強制賣買ハ免税
 ノ事由トナル制度ト然ラサルモノトアリ課税義務ノ主體ハ通常賣主ナリ然レトモ買主モ連帶義務ヲ
 有ストスル制度多シ讓渡人カ所有期間内ニ費シタル費用例ハ土地改良費用等ハ通常差増額ヨリ控除
 セラル

税率ハ累減的累進法ニ從ヒ且ツ一定ノ最高限度アリ例ハ差増額ノ二十五「プロチエント」ト云フカ如シ
 且ツ税率ハ期間ノ長短ニヨリ異同アリ期間ノ短キ丈ケ重ク課税セラル

差増税ノ起源ハ英國ニアリト云フモノ多シ之レニ反シテボン大學教授 Sier-Somlo ノ如キハ佛國ニ在
 リトシ千八百七年那翁一世ノ創設ニ係ルト云フ獨逸ニ於ケル差増税ノ發達ハ全ク近時ニ係ル膠州灣
 (千八百九十八年)ニ於ケルモノヲ除ケハ實ニ千九百四年 1904 年ニ於ケルモノヲ嚆矢トス柏林市

ノ如キハ已ニ數回發案シタリト雖モ常ニ地主ノ反對アリテ今日猶實施ノ運ニ至ラス然レトモ他ノ都市及郡ニ於テハ本稅ヲ施行シ居ルモノ頗ル多シ只過去數年ノ歴史ヲ有スルニ止マルヲ以テ財政的成績ニ至リテハ未ダ見ルニ足ルモノナシ

差増稅ニ對シテハ地主ノ反對アルハ勿論學者間亦異議ヲ挾ムモノナキニ非ス反對說ニ曰ク差増額ニシテ課稅スヘシトナラハ宜シク差減額ノ生スル場合ニハ政治團體ハ賠償ヲ與フヘキニ至ラント之レヲ駁スルモノ曰ク公益ノ爲メニ私益ヲ犧牲ニ供シタルトキハ政治團體ハ賠償スルノ義務アリトハ憲法ノ明ニ規定スル所ナリ然レトモ這ハ犧牲カ直接タル場合ニ限ル政治團體ノ施設如何ニヨリテ土地所有者ハ差増ヲ得ルコトナクシテ却テ差減ヲ蒙ル場合モアラン而モ差減ハ政治團體ノ行動ヨリ生スル間接ノ結果ニ過キス從テ賠償ノ責ナシト更ニ本稅ヲ難スルモノ曰ク土地ノ差増額カ地主ノ個人的勤勞ノ結果ニ非スレテ政治團體ノ施設乃至文明ノ餘澤ニ歸スヘキモノ多キノ事實ヨリレテ政治團體カ相互提供ノ原則ニヨリテ差増額ノ幾部分ヲ徵收シテ利益ノ獲得ニ參加シ得ルハ當然ナリト云ハ、資本ノ差増ニシテ同シク個人ノ勤勞ノ結果ヲナスシテ政治團體ノ施設乃至文明ノ恩惠ニ歸スヘキモノモ課稅スヘキニ非スヤト之ヲ辯スルモノ曰ク反對論ハ純理トシテハ正確ナリ然レトモ資本差増額ヲモ課稅スルコトハ租稅技術ノ實際ニ於テ困難ナルノミナラス資本差増ハ土地差増ニ比スレハツノ額少シ之レ獨占ナル現象カ資本ヨリモ土地ニ多ク行ハル、所以ニシテ從テ社會政策ノ見地ヨリ到底土地差増ノ課稅ヲ逸スル能ハ

サル所以ナリト

土地ノ差増ハ租稅トシテ課徵スヘキモノニ非ス宜ク特別負擔又ハ手数料ノ形式ヲ以テ課徵スヘシト云フモノアリ之ニ反對スルモノ曰ク之等ヲ以テレテハ所謂自然的價格ノ増加(個人ノ勤勞ニ非ル)ヲ捕捉スル能ハサルヲ如何ニセント

差増稅ノ根據ヲ説クモノ或ハ曰ク本稅ハ課稅者タル當該政治團體ノ財政上ノ必要ヲ充タスノミナラス兼テ所得財產ノ分配ヲ調節スル作用アリ即チ社會政策的根據ヲ有スト Wagnerノ如シ又曰ク政治團體ノ施設アリテ初メテ土地ノ差増カ現出セルナリ從テ相互提供ノ原則ニヨリ之レカ反對給付トシテ差増額ノ幾部分ヲ徵收スルコトヲ得ト之レニ對シテ本稅ヲ難スルモノ曰ク本稅ノ根據カ反對給付ニアリトセハ差増ニ反レテ差減カ現出シタル場合ニモ同シク反對給付ノ理由ニヨリテ政治團體ハ相當ノ賠償ヲ爲スヘキニ非スヤト更ニ之ヲ辯スルモノ曰ク若シ反對論ニ從ヒ土地價格ノ差減ヲ賠償スヘシトナフハ所得アリタル場合ニ所得稅ヲ徵收セル政治團體ハ所得ヲ生セサル年ニハ當事者ニ對シテ相當ノ賠償ヲ爲スヘキニ至ルヘク他ノ租稅ニ於ケル亦然ラン反對論ハ畢竟政治團體ト個人トノ公法關係ヲ無視セルノ論ナリ要スルニ本稅ノ根據ヲ遺憾ナク説明センニハ左ノ如クナルヘシ曰ク差増稅ハ國民經濟上ノ理由ヨリ云ヘハ反對給付ナリ單純ナル租稅徵收權ノ方面即チ公法上ノ關係ヨリ言ヘハ差増額ハ即チ當事者ノ財產ノ増加ヲ示スモノニシテ擔稅力ノ増加ニ外ナラス從テ政治團體ハ課稅權ノ發動ニヨリテ本稅ヲ

徵收スルコトヲ得ト

國民經濟上ノ觀察トシテ本稅ハ果シテ家屋ノ建築ヲ困難ナラシメ從テ家屋ノ賃借料ヲ昂騰セシムルノ惡影響ヲ來スコトナキヤ否ヤニ付テハ學者實際家ノ說區々ナリ然レトモ假リニ此ノ惡影響アリトシテ宅地ヨリモ非宅地ヲ重ク課稅スルノ租稅政策ニ出テナハ此惡結果ハ緩和シ得ヘシ併シ乍ラ本稅カ土地ニ對スル投機買買ヲ阻礙シ從テ土地ノ投機ヨリ起ル所ノ不法ナル地價ノ騰貴ヲ防止スルノ力アルハ一般ニ認メラル、所タリ差増稅ハ轉嫁スルヤ否ヤ多數學者ハ事實上轉嫁スルコトナシト主張シ且ツ曰ク土地ノ賣買價格ハ賣主ト買主トノ契約ニヨリテ定マル賣主ノミノ意志ニヨリ決定スルニ非ルハ勿論ナリ故ニ賣主カ課稅額丈ヲ豫メ賣買價格ニ算入スルノ結果トシテ賣買價格カ不當ニ高シト認ムルトキハ買主ハ賣買契約ノ締結ニ應セサル迄ノコトナリ之レニ反シテ買主カ賣買契約ノ締結ニ應スルトキハ之レ即チ土地カ夫レ丈ノ價格ヲ有スルノ證ナリト

第二項 立法例及財政的成績

甲、膠州灣土地取得條例(千八百九十八年九月二日)抄譯

第一條 膠政府ハ膠州灣ノ土地全體ヲハ占領前ノ價格ニ相當スル金額ヲ以テ所有者タル清國人ヨリ買上クルコトヲ得所有權關係ニ付テハ清國政府ノ租稅徵收表ヲ適用スルモノトス

若シ政府カ買上ケラ爲サ、ル場合ニハ住民間ニ於ケル土地所有權ノ移轉又ハ從來ノ目的以外ニ於ケル土地ノ使用ハ豫メ政府ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス住民若クハツノ家族以外ノ者ニ所有權ヲ移轉シ或ハ賃貸スルコトハ法ノ禁スル所ナリ

第二條 第一條ニ記載セル場合ノ外ハ凡テ土地ノ所有權ハ政府ヨリノ拂下ニヨリテ設定セラル所有權ノ移轉ハ政府カ元清國人ヨリ買上ケタル價格ニ幾部分ノ割増ヲ付シタル價格ヲ提出スルコト、土地臺帳ヘ登記ヲ爲スコト、ニヨリテ成立ス

第三條 拂下ハ必要ノ都度政府之ヲ公告ス但二週間ノ猶豫ヲ置クコトヲ要ス公告ニハ拂下ノ期限ノ外建築計畫及拂下價格ヲ明了ニ記入スルコトヲ要ス拂下ハ競争入札ニ由ル入札ノ申込ハ拂下期限前少クトモ八日以前ニ官廳ニ到達スルコトヲ要ス入札申込ニハ落札後ノ土地ノ利用計畫及買受ノ目的ヲ記載スルコトヲ要ス利用計畫ハ政府ノ認可ヲ要ス本條例ノ發布後二箇年以内ニ取得スヘキ土地ニ付テハ利用計畫ノ實行ニ關スル期限ハ向フ三箇年トス但特別ノ申告及特別ノ事由アル場合ハ五年ニ延長スルコトヲ得一旦認可ヲ經タル條件ニ著シク相違セル利用計畫ヲ爲シ又ハ確定期限内ニ利用計畫ノ實行ヲ爲サ、ルトキハ所有權ハ再ヒ政府ニ復歸スルモノトス此場合ニハ登記ヲ了シタル所有者ニ對シ政府ハ最初ノ所有者ノ支拂ヒタル價格ノ半額ヲ還附スルモノトス此制限モ亦土地臺帳ニ登記セラル、モノトス

第四條 商店會社カ一般ノ利用計畫ニ本キテ拂下ヲ受ケタル土地以外ニ公益的又ハ一般人民ノ利益ニ歸スヘキ經濟上ノ設備ヲ爲サントスルトキハ官廳ハ必要ナル土地ノ拂下又ハ貸貸ニ應スルモノトス但官廳ハ特別ノ附帶條件ヲ付スルコトヲ得

第五條 本條例ノ發布以前已ニ政府ヨリ土地ヲ賃借シ且ツ政府ノ認可ヲ經テ建物ヲ建設セル者ハ政府ノ定ムル價格ヲ以テ當然土地ノ拂下ヲ受クル權利アルモノトス即チ此場合ニハ競賣ノ手續ヲ行フコトナシ

第六條 買受人カ土地ヲ再ヒ賣却スルトキハ前買受價格ト現讓渡價格トノ間ニ存スル差増額ノ³³ヲロチエント」ヲ政府ニ納付スヘシ此納稅義務ハ亦所有權制限ノ一種トシテ土地臺帳ニ登記スルコトヲ要ス

讓渡人(賣主)ハ讓渡價格ヲハ讓渡行為ノ發生ニ先チ豫メ政府ニ申告スル義務ヲ有ス差増額ノ算定ニ際シ讓渡人ハ讓受ケタル時ヨリ讓渡ス時迄ノ間ニ土地ニ加ヘタル改良費用ヲ見積リ六分ノ利子ヲ加ヘテ讓渡價格ヨリ控除スルコトヲ得改良費用ノ見積リ高ハ鑑定委員ノ鑑定ニ附セラルル鑑定委員ハ二人ノ官吏及二人ノ住民ヨリ成立ス鑑定委員ノ鑑定ハ最終ノ決定力ヲ有ス

政府ハ所有者ノ申告スル讓渡價格ヲ以テ當該土地ヲ買上クルノ優先權ヲ有ス

第七條 二十五年間所有權ノ移轉ナキ土地ニ對シ政府ハ一時限りノ公課ヲ徵スルコトヲ得ツノ額ハ差

増額ノ³³ヲロチエント」ヲ超ユルコトヲ得ス此際ニ於ケル價格ノ鑑定ハ第六條ノ場合ニ同レク鑑定委員ノ鑑定ニ付ス爾後二十五年ヲ經過スル毎ニ同様ノ公課ヲ徵收スルモノトス

第八條 土地所有者ハ土地ノ價格ノ六分ニ當ル地租ヲ納付スヘシ此際ニ於ケル土地ノ價格ハ千九百二十一年一月一日ヲ限り政府ヨリノ拂下價格ヲ以テ之レニ充ツ同日以降ノ價格ハ鑑定ニヨリ之ヲ定ム

財政的成績

膠州灣差増稅ハ前掲條例ニヨリ推知レ得ル如ク土地政策ノ觀念ニ本クモノトス特ニ舉クヘキハ凡テノ土地ハ原則トシテ一旦政府ノ所有ニ歸スルコト之レナリツノ結果トシテ本稅ノ財政的成績ハ未ダ見ルニ足ルヘキナシ帝國海軍大臣カ本條例ヲ帝國議會ニ提出シタル際ニ明言シタル如ク本條例ノ目的ハ收入ヲ得ルヨリモ寧ロ土地政策上ノ根據ヲ有ス即チ土地ノ投機賣買ニ本ク不當ナル地價ノ騰貴ヲ防止スルコトカ主タル眼目ナリト云ヘルハ此ノ意ニ外ナラス總テ政府ハ可成長ク土地ノ拂下ヲ留保シ依テ以テ有害無益ナル土地ノ投機賣買ノ行ハレシコトヲ防止スルナリ

遮莫政府ノ公表スル所ニヨレハ本稅ノ財政的成績左ノ如シ

1899—1900 差増額

1900—1901 613 萬(dollar)

1901—1902 2,054

1902—1903	1,128
1903—1904	1,474
1904—1905	417

乙「ハンブルヒ」國

實施以來日尙ホ淺キヲ以テ統計ノ數スヘキナシ

土地差増稅法(千九百八年十月十二日)抄譯

第一條 「ハンブルヒ」國內ニアル土地ヲ賣却スルニ當リテハ賣渡價格カ舊取得價格ヨリ高キトキハ次ノ規定ニ從ヒ差増稅ヲ納ムヘシ

差増稅ノ根據トナル事由左ノ如シ

- 一、土地所有權移轉ノ契約
 - 二、土地所有權ノ設定ヲ目的トスル債權ノ移轉契約
 - 三、強制競賣
 - 四、強制競賣ニ際シテ爲シタル最高申込ヨリ生スル債權ノ移轉
 - 五、公用徵收
- 免稅ノ事由左ノ如シ

一、相續

二、夫婦間共有財產ノ設定、繼續

三、遺贈又ハ負擔付遺贈

四、贈與

永小作權ハ所有權ト同様ニ本條例ノ支配ヲ受ク

第二條 納稅義務ハ普通賣買ノ場合ニハ賣主之ヲ負擔シ強制競賣及公用徵收ノ場合ニハ從來ノ所有者之ヲ負フ

第三條 納稅額ノ基礎トナルモノハ讓渡價格ヨリ從來所有者カ土地ニ施シタル改良費用(但改良ヨリ生スル價格ノ騰貴カ現存スル場合ニ限ル)及讓渡ニ要シタル諸種ノ費用ヲ控除ス舊取得價格ノ利子ハ土地カ取得以來利用セラレサル場合ニハ酌量セサルモノトス

讓渡價格明ナラサル場合ニハ鑑定人ノ鑑定ニ付ス

第四條 土地ノ比較的些少ナル部分ノミカ賣却セラレタル場合ニハ Steuerdeputation 收稅部(「ハンブルヒ」國ノ行政官廳(即チ市廳)タル Senat ノ一部局)ハ差増稅ヲ徵收セサルコトアルヘシ只殘餘ノ部分カ後日賣却セラレタルトキニハ合算シテ徵收セラル

第五條 稅率ハ左ノ如シ

差増額	税率
二〇〇〇以下	一分
二〇〇〇以上一四〇〇〇以下	一分五厘
四〇〇〇以上一六〇〇〇以下	二分
六〇〇〇以上一八〇〇〇以下	二分五厘
八〇〇〇以上一〇〇〇〇以下	三分
一〇〇〇〇以上一二〇〇〇〇以下	三分五厘
二〇〇〇〇以上一三〇〇〇〇以下	四分
三〇〇〇〇以上一四〇〇〇〇以下	四分五厘
四〇〇〇〇以上	五分

差増額カ舊取得價格ノ一割以上ニ當ルトキハ前項ノ外ニ左ノ附加税ヲ課ス

差増額(則舊取得價格)

加重税率(則常率)

一割以上乃至一割以下	一割
二割以上乃至三割以下	二割
三割以上乃至四割以下	三割

四割以上乃至五割以下	四割
五割以上乃至六割以下	五割
六割以上乃至七割以下	六割
七割以上乃至八割以下	七割
八割以上乃至九割以下	八割
九割以上乃至十割以下	九割
十割以上	十割

前二項ニヨリテ定マレル納税額ハ納税事實ノ發生カ舊取得ノ時ヨリ三十年以上ヲ經過シタルトキハ四分ノ三ヲ徵收スルニ止メ十年以下ヲ經過シタルトキハ四分一ヲ加重スルモノトス(故二十年乃至三十年ヲ經過シタルトキハ常率ヲ課スル也)

第六條 差増税ノ決定及徵收ハ收税部之ヲ司ル

第七條 收税部カ納税額ヲ決定シタルトキハ納税義務者ニ納税告知書ヲ交付ス納税義務者ハ納税告知書到達後四週間内ニ納付スヘシ

第八條 寄附行爲ソノ他慈善又ハ公益ノ目的ヲ有スル組合、營造物ハ免税セラル免税ノ事由存スルヤ否ヤハ收税部專ラ之レヲ決定ス

第九條 納稅義務者ハ納稅事實發生後四週間内ニ納稅事實ノ發生ツノ他稅額ノ決定ニ必要ナル事實ヲ收稅部ニ申告スヘク請求アラハ文書ニ認ムルコトヲ要ス收稅部カ納稅義務者ノ申告ヲ不當ナリト認ムルトキハ不當ノ理由ヲ稅額決定前ニ納稅義務者ニ通知ス納稅義務者ハ之レニ對シ收稅部ノ定ムル期間内ニ收稅部ノ通知ニ對シ意見ヲ開陳スヘシ

第十條 稅額ノ決定ニ不服ナルトキハ納稅告知書到達後四週間内ニ文書ヲ以テ異議ノ申立ヲ爲スヘシ異議ノ申立ニハ理由ヲ加フルコトヲ要ス收稅部ハ納稅義務者ノ異議ノ理由ニ對シ宣誓ニ代フヘキ誓言ヲ要求スルコトヲ得納稅義務者ハ收稅部ノ提出スル問ニ對シ口頭又ハ請求アラハ文書ヲ以テ答フルコトヲ要ス異議ノ申立ニ付テハ收稅部之レカ最終ノ決定ヲ下スモノトス

第十一條 故意又ハ過失ニヨリテ納稅事實ノ發生ヲ申告セス又ハ稅額ノ決定ニ必要ナル申告ニ付不正ノ陳述ヲ爲シタルモノハ納稅額ノ三倍ニ相當スル罰金ヲ課ス

第十二條 千九百三年二月二日所得稅法第三節ニ左ノ一項ヲ加フ(所得稅免除ノ事由)
(八)千九百八年十月十二日土地差増稅法ニヨリ差増稅ヲ課セラルヘキ所得

第十三條 Seat(市廳)ハ徵稅カ特ニ苛酷ニ過クト認ムルトキハ收稅部ノ建議ニ本キ稅額ノ全部又ハ一部ヲ免スルコトアルヘシ

第十四條 本法ハ千九百七年十二月三十一日以後千九百十一年十二月三十一日迄ニ起ルヘキ土地ノ移

轉ニ限リ適用セラル

丙 F. am Main

(一)土地賣買稅及差増稅條例—抄譯

第一條 F. am Main 市内ニアル土地所有權ノ移轉アリタルトキハ第二條ノ規定ニ從ヒテ定ムヘキ讓受價格ノ二分ヲ賣買稅トシテ徵收ス

第二條 賣買稅ハ普通ノ賣買ニアリテハ賣買價格ニヨリ強制競賣ノ場合ニアリテハ競落價格ニ依ル取
得者ノ負擔スヘキ費用ハ控除スルノ限リニ非ス

土地ニ固著セル負擔ノ内ニ付テハ只年金ツノ他或ル一定ノ期間毎ニ繰返サルヘキ義務ニ限リ控除セラル、控除セラルヘキ額ハ之等ノ負擔ヲ四分ノ利子ニテ還元シタルモノトス

賣買價格カ不當ニ低シト認ムヘキトキ又ハ不明了ナルトキハ賣買當時ノ時價ヲ以テ賣買稅算出ノ基礎トス

第三條 第九條第十條ノ場合ヲ除ク外、最近ノ移轉ト現在ノ移轉トノ間ニ二十年以上ノ期間カ經過シタル場合ニハ第一條ノ稅率ノ外ニ更ニ左ノ附加稅ヲ課ス

一、宅地

二十年乃至三十年ヲ經過セルトキハ讓受價格ノ一分

三十年乃至四十年ヲ經過セルトキハ讓受價格ノ一分五厘
四十年以上ヲ經過セルトキハ讓受價格ノ二分

二、非宅地

二十年乃至三十年ヲ經過セルトキハ讓受價格ノ二分
三十年乃至四十年ヲ經過セルトキハ讓受價格ノ三分
四十年乃至五十年ヲ經過セルトキハ讓受價格ノ四分
五十年乃至六十年ヲ經過セルトキハ讓受價格ノ五分
六十年以上ヲ經過セルトキハ讓受價格ノ六分

本條ニ定ムル賣買稅附加稅及第四條ニ定ムル差増稅ハ最前ノ移轉カ本條例ノ效力發生ノ前後ニ起リ
タルトヲ問ハス課徵スルモノトス

本條ニ定ムル附加稅ハ現在ノ讓渡價格カ最近ノ讓受價格ニ當該期間内ニ加ヘタル新築改築ノ費用ヲ
加ヘタルモノト相等キカ又ハツノ以下ナルトキハ課徵セサルモノトス最前ノ讓受價格トハ當時ノ賣
買稅條例ニヨリテ賣買稅ヲ課徵セル際ニ根據トナリタル價格ヲ云フ若シ當時賣買稅ノ課徵ナキカ又
ハツノ他一般ニ最近ノ讓受價格カ不明了ナル場合ニハツノ當時ノ市價ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 最前ノ移轉ヨリ現在ノ移轉迄ニ二十年以下ノ期間カ經過セル場合(二十年以上ノ經過ハ課稅

セス)ニハツノ期間内ニ起リタル價格ノ差増カ最前ノ讓受價格ニ第五條ニ規定セル諸般ノ費用及
利子ヲ加算セルモノニ對シテ一割五分以上ニ達シタルトキハ第一條ノ賣買稅ノ外ニ左ノ差増稅ヲ
課ス

差増額(五分宛増加)	稅率(一分宛増加)
一割五分乃至二割	二分
二割乃至三割五分	三分
三割五分乃至四割	四分
四割乃至四割五分	五分
四割五分乃至五割	六分
五割乃至五割五分	七分
五割五分乃至六割	八分
六割乃至六割五分	九分
六割五分乃至七割	一割
	一割一分
	一割二分

七割乃至七割五分	一割三分
七割五分乃至八割	一割四分
八割乃至八割五分	一割五分
八割五分乃至九割	一割六分
九割乃至九割五分	一割七分
九割五分乃至十割	一割八分
十割乃至十割五分	一割九分
十割五分乃至十一割	二割
十一割乃至十一割五分	二割一分
十一割五分乃至十二割	二割二分
十二割乃至十二割五分	二割三分
十二割五分乃至十三割	二割四分
十三割以上	二割五分

第五條 最前讓受價格ニ加算スヘキ費用及利子左ノ如シ

甲、宅地

- 一、土地ノ改良ニ要シタル費用
- 二、街道運河(カナル)ノ建設維持ニ要スル特別負擔
- 三、建物ノ新築改築ニ要シタル費用但保險ニ付セサル場合ニ限ル
- 四、建築警察手数料
- 五、最前及現在ノ移轉ノ際ニ支出シタル印紙稅、賣買稅、差増稅、裁判所公證人ノ費用ツノ他手数料ノ賠償トシテ最前讓受價格ノ五分

乙、非宅地

讓渡人カ農業用又ハ商工業用ニ利用セサリシ非宅地ニ限リ最前讓受價格ノ四分ニ當ル利子(單利)及收益ヲ差引セル改修維持等ノ費用

第六條 第一條第二條ノ賣買稅及ツノ附加稅ノ納付ハ讓渡人及讓受人カ連帶義務者ヨリ第四條差増稅ノ納付ハ讓渡人ノミ之レカ義務ヲ負擔ス、印紙稅法ニヨリテ連帶義務者ノ一人カ免除ノ特典ヲ有スルモノ(第五條ニ規定ス即チ國王、皇后、國庫、公法人、公益財團、寺院等)ナルトキハ他ノ一方ハ只半額ヲ納稅ナルヲ以テ足ル、強制競賣ノ場合ニハ競落人カ納稅義務者タリ但競落人カ印紙稅法ニヨリテ印紙稅納付ノ義務ヲ免セラレタルモノナルトキ又ハ強制競賣事實ノ發生前少クトモ三箇月以前ニ當該土地ニ對スル抵當權ヲ獲得セルモノニシテ競落ハ單ニ損失ヲ填補スルニ過キサレコトヲ證明シタ

ル場合ニハ納税ノ義務ナキモノトス而シテ強制競買ノ場合ニ課スヘキ租税ハ只第一條ノ賣買税ノミ
ニシテ賣買附加税及差増税ハ徴收スルコトナシ

強制競買カ所有權共有ノ状態ヲ除去スル目的ニ出ツルトキハ第十一條ノ規定ヲ適用ス

第七條 本法ニ非宅地トハ所有權移轉ノ當時全然建物無キカ又ハ單ニ一時ノ使用ニ供スル假小舎ノ建
築アル土地ヲ指スモノトス庭園ハ住居用又ハ營業上ノ家屋ノ附屬物トシテ家屋ト共ニ賣却セラレタ
ル場合ニハ宅地ノ一部分ト看做ス但庭園カ家屋敷地ノ五倍以上ノ面積ヲ有スルトキハ非宅地ト看
做ス

第八條 土地所有權カ數個ノ連續シテ發生セル讓渡契約ニ本キテ第一次ノ讓渡人ヨリ最後ノ取得者ニ移
轉セル場合ニハ第一條ノ賣買税ハ是等數個ノ讓渡契約上ノ取得價格ヲ合計シテ課スルモノトス、土
地所有權ノ讓受契約ヨリ生スル債權ノ移轉ヲ契約スル場合竝ニ讓受契約ノ締結後ニ第三者ノ爲メニ
權利ヲ取得シ義務ヲ負擔スル旨ヲ宣明スル場合モ普通ノ契約ト同視シ賣買税ヲ徴收ス然レトモ讓受
人カ委任又ハ事務管理ニ本キテ第三者ノ爲メニ讓受契約ヲ爲シタル場合ニハ納税義務ヲ免セラル但
第一次ノ讓渡人ヨリ第三者へノ權利移轉カ契約締結後一箇年以内ニ發生シタル場合ニ限ル

本條第一項ノ賣買税ハ第一次ノ讓渡人及最終ノ取得者カ連帶シテ納付スヘキモノトス

第九條 本法ニ規定スル凡テノ租税(賣買税、附加税及差増税)ハ相續贈與ノ場合ニハ免除スルモノト

ス

第十條 第九條以外ニ免税ノ事由トナルモノ左ノ如シ

- 一、公益上ノ理由ニ本キテ土地ノ交換整理ヲ爲シタルトキ
- 二、卑親屬者カ負擔付契約ニヨリテ土地ヲ讓受ケタル場合竝ニ共同相續人及寡婦カ相續財産ノ分割
ヲ爲シタル場合
- 三、印紙税法ノ規定ニヨリ印紙税ヲ免除セラルヘキ君主、皇族ノ財産ツノ他

第十一條 共有所有權者カ所有權ノ分割ヲ行ヒタルトキハ獨立ノ所有トナリタル土地ノ價格カ從來ノ
持分ノ價格ヲ超過セサル限りハ免税セラル

第十二條 土地ノ交換ヲ爲シタル場合ニ兩土地ノ價格ニ高低アルトキハ高キ方ノ土地ノ價格ヲ標準ト
シテ本法ニ定ムル諸税ヲ徴收ス

第十三條 本法ニ定ムル租税ノ徴收ハ市廳内ノ會計課之レヲ司ル

第十四條 納税義務者ハ所有權移轉後四週内ニ會計課ニ土地移轉ノ申告竝ニ納税義務ニ關スル諸般
ノ必要ナル事項ヲ文書ヲ以テ申告スヘシ會計課ノ請求アルトキハ納税義務者ハ租税ノ賦課ニ必要ナ
ル諸般ノ事實ヲ文書ニテ會計課ニ申告スヘシ

第十五條 會計課ハ租税ノ賦課ニ關シ納税義務者ノ申告ニ拘束セラル、コトナレ會計課カ納税義務者

ノ申告ヲ不當ナリト認ムルトキハ税額決定前ニ不當ノ理由ヲ納税義務者ニ通知シ納税義務者ハ之ニ對スル意見ヲ會計課ノ定ムル期間内ニ開陳スヘシ、會計課ト納税義務者トノ意見カ一致セサルトキハ會計課ハ必要ト認ムル場合ニハ鑑定人ノ意見ニ從ヒ税額ヲ決定スルコトアルヘシ

第十六條 納税義務者ハ納税告知書ノ到達後四週間内ニ税額ヲ市金庫ニ納付スヘシ期限ヲ經過スルモ納付セサルトキハ會計課ハ猶一回ノ催告ヲ爲シ而モ尙納付セサルトキハ滞納處分ヲ行フ

第十七條 租税ノ賦課ニ對シ不服アルモノハ納税告知書到達後四週間内ニ文書ヲ以テ會計課ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得異議ノ申立ニ付テハ會計課之レヲ決定ス決定ニ不服ナルモノハ決定ノ通知到達後更ニ二週間内ニ縣會ニ訴願ヲ提出スルコトヲ得

第十八條 本法ニ違反セルモノハ他ノ法律ニ特ニ重キ制裁ノ規定無キ限りハ三十「マルク」以下ノ罰金ヲ課ス

第十九條 本法ハ發布ノ日ヨリ效力ヲ有ス

(二)財政的成績

年次	收 入
一九〇四年	約二、〇〇〇、〇〇〇 <small>「マルク」</small>
一九〇五年	約三、〇〇〇、〇〇〇

丁、Kiel市ノ差増税

一九〇六年	約四、〇〇〇、〇〇〇
一九〇七年	約二、五〇〇、〇〇〇

「キール」市ニ於テハ差増税ハ千九百七年八月ヨリ施行サレタルニ止マルヲ以テ財政的成績ノ敬スヘキモノナレ左ニ差増税條例ヲ抄譯セン

第一條 「キール」市ニ在ル土地所有權ノ移轉ニ對シテハ千九百六年十月二十日賣買税條例ニ定ムル賣買税ノ外ニ本條例ニヨリテ差増税ヲ賦課ス

第二條 差増税ノ額ハ最前ノ讓受價格ニ第三條ニ列記スル費用ヲ加ヘタルモノヨリ現在ノ讓渡價格ヲ控除シタル差増額ニヨリテ決定ス

最前ノ取得價格ノ基礎タル所有權ノ移轉カ千九百年四月一日以前ニ發生シタルモノナルトキハ千八百九十九年十二月十八日地租條例ニ從ヒテ千九百年四月一日ノ法定地價ヲ以テ取得價格ト看做ス若シ法定地價ノ決定無キ場合ニハ千九百年四月一日ノ時價ヲ以テ取得價格ニ充用ス但納税義務者カ確實ナル證據ヲ提出シテ事實上ノ取得價格ヲ申告スルトキハ市廳ハ之レヲ採用ス

土地ノ交換ハ兩者各別ニ課税セラル、第六條第二ノ場合ヲ例外トス

土地カ數個ノ連續シテ發生セル讓渡契約ニ本キテ第一次ノ讓渡人ヨリ最後ノ取得者ニ移轉セル場合

ニハ差増税ノ額ハ各個ノ契約毎ニ各別ニ計算シタル取得價格ヲ合計シテ之レヲ定ム

第三條 第二條ニ所謂最前取得價格ニ加算スヘキモノ左ノ如シ

一、非宅地ニアリテハ最前取得價格ノ四分ニ相當スル利子(單利)

茲ニ非宅地トハ全然建物ナキカ又ハ一時ノ利用ニ過キサル假小舎ノ存在スルニ過キサル土地ヲ云フ二十五「アル」ヲ超過セサル庭園ハ宅地ノ一部分ト看做シ二十五「アル」以上ノ庭園ハ非宅地ト看做ス、最後取得ノ期間内ニ於テ建物ノ存セル場合ト然ラサル場合トノ區別アルトキハ四分ノ利子ヲ加算スル期間ハ建物ノ存在セサル期間ニ限り、土地ノ一部分カ非宅地ナルトキハ此ノ部分ニ限リテ四分ノ利子ノ計算アルノミ(「アル」ハ百平方メートルニ當ル)

二、土地ノ價格ヲ増加シタル改良費用特ニ新築改築ノ費用(保險ヲ付セサル限りハ)街道建設費運河(カナル)修築ノ特別負擔等

三、最前ノ取得ノ際ニ支出シタル賣買税、印紙税、仲立手数料等ノ費用ニ對スル賠償トシテ最前取得價格ノ四分、但第二條ニヨリテ最前取得價格ノ代リニ時價ヲ標準トシタル場合ハ如上ノ賠償無シ讓渡人カ前ニ強制競賣ニヨリテ土地ヲ取得シタル場合ニ於テ讓渡人カ當該土地ニ對シテ有シタル抵當權ノ價格カ取得價格ヲ超過セルトキハ此ノ超過額ハ差増額ニ算入セラル、モノトス街道又ハ公園ノ爲メニ無償ニ土地ノ一部ヲ割讓セルトキハ最前取得價格ハ割讓後ノ殘地ノミニ付

キ之レヲ定ムルモノトス

第四條 一割及一割以下ノ差増額ハ免税セラル、且ツ從來非宅地タリシ土地ノ上ニ建物ヲ設ケタルトキ又ハ從來既ニ宅地タリシ土地ノ上ニ建増ヲ爲シタルトキハ當該土地ノ第一次ノ讓渡カ建物利用後五箇年以内ニ起リタル場合ニハ更ニ差増額ノ一割ヲ免税ス(蓋シ屋舎ノ建築ヲ獎勵スルノ政策タリ)

第五條 差増税率左ノ如シ

差増額(則最前取得價格+ 第三條ノ加算事項)	稅率
一割乃至二割	五分
二割乃至三割	六分
三割乃至四割	七分
四割乃至五割	八分
五割乃至六割	九分
六割乃至七割	一割
七割乃至八割	一割一分
八割乃至九割	一割二分

九割乃至十割	一割三分
十割乃至十一割	一割五分
十一割乃至十二割五分	一割七分
十二割五分乃至十五割	二割一分
十五割以上	二割五分

以上ノ稅率ハ新舊移轉ノ間カ五年以下ヲ經過セルトキニ限り全額ヲ徵收シ五年以上ナルトキハ左ノ如シ

六年以下	稅率ノ七割五分
七年以下	稅率ノ七割
八年以下	稅率ノ六割五分
九年以下	稅率ノ六割
十年以下	稅率ノ五割五分
十一年以下	稅率ノ五割
十二年以下	稅率ノ四割五分
十三年以下	稅率ノ四割

十四年以下	稅率ノ三割五分
十五年以下	稅率ノ三割

稅率ノ高ハ全差増額ヲ標準トス換言スレハ免稅セラレタル部分ヲ控除スルコト無し

第六條 免稅ノ事由左ノ如シ

- 一、強制競賣
 - 二、土地ノ交換ニシテ一方カ五百マルク以上ノ特別支出ヲ爲サ、ルトキ
 - 三、相續
 - 四、贈與
 - 五、昇親屬カ土地ヲ讓受ケタル場合竝ニ共同相續人及寡婦カ相續財產ノ分配ヲ爲シタル場合
 - 六、公用徵收
 - 七、國王、皇后、國庫、公法人、營造物、慈善寺附行爲ノ財產
- 共有所有權者カ所有權ノ分割ヲ行ヒタルトキハ獨立ノ所有ニ歸シタル土地ノ價格カ從來ノ持分ノ價格ヲ超過セルトキハ此ノ超過額ハ課稅セラレ
- 第一項ノ三、四、五ノ規定ニ從ヒ免稅アリタルトキハ爾後ノ土地移轉ニ關シテハ移轉價格及移轉時期共ニ規定ノ事項ノ發生シタル時ニ遡及スルモノトス

第七條 第一條ノ納稅義務者ハ讓渡人ナリ第二條數個ノ連續セル移轉契約アル場合ニハ第一次ノ讓渡人納稅義務者タリ但爾後ノ讓渡人モ各自ノ移轉契約締結ノ際ニ生シタル差増額ニ付テハ連帶義務ヲ有ス、讓受契約ヨリ生スル債權ノ移轉ヲ契約スル場合竝ニ第三者ノ爲メニ權利ヲ取得シ義務ヲ負フ旨ヲ後ニ至リテ宣明スル場合ニハ右契約ヲ爲シタル者及宣明ヲ爲シタル者モ亦納稅ニ關シ讓渡人ト共ニ連帶義務ヲ有ス

第八條 地方的又ハ經濟的理由ニヨリテ土地カ數個ニ分割讓渡セラル、トキハ收稅署即チ市役所ハ第一次ノ分割讓渡ノ行ハル、際ニ土地全部ノ最前取得價格ヲ各部分ニ配當ス而シテ此際ニハ時價ヲ標準トシ且ツ讓渡人トノ協議ニヨリテ決定ス但市役所ハ土地ノ分割讓渡ノ發生セサル以前ニ於テ豫メ最前取得價格ヲ各部分ニ配當シ置クモ妨ケナシ所有者ノ請求アル場合ノ如キ特ニ然リトス爾餘ノ規定ハ「フランクフルト、アム、マイン」ノ規定ト同一ナルヲ以テ之ヲ省略ス

要之獨ノ諸市ニ於テハ何レモ數年來初メテ差増稅ヲ施行セシニ止マルヲ以テ財政的成績ニ付テハ何等統計ノ徵スヘキモノナシ又各市共ニ收入豫算ヲ内輪ニ見積ルヲ常トス蓋シ本稅ハ土地ノ投機買賣ヲ稅スルヲ主タル眼目トスルモノニシテ從テ景氣不景氣ニ左右セラル、コト多キヲ慮リ且ツ人爲的ニ土地ノ價格ヲ騰貴セシメサラシカ爲メナリ

第三項 差増稅施行上ノ注意

一、國稅タルヘキヤ地方稅タルヘキヤ

多クノ人ハ本稅ハ地方稅タルヘシト主張スツノ理由ニ曰ク本稅ハ地方ノ狀況ニ應シテ制度ヲ適當ニ定ムヘキモノナリ國家カ統一的ニ定ムルトキハ不公正ナル結果ヲ生スルヲ免レス現ニ千九百七年普國ヤ會ニ於テ國稅案カ一議員ヨリ提出セラレタルトキ時ノ大藏大臣ハ此ノ理由ヲ以テ反對ヲ試ミ結局議會モ國稅案ヲ否決セリ然レトモ土地差増價格ノ生スル所以ハ必スシモ地方團體ノ施設ニノミ因ルニ非スレテ國家全般ノ施設乃至一般文明ノ餘澤ニ因ルコトハ否定スヘカラサル事實ナリ故ニ本稅施行ノ便宜トシテハ之レヲ地方稅トシテノ代リニ租稅收入ノ一部分ヲ地方團體ヨリシテ國家ニ割讓セシムルノ制度ヲ採ル亦一策タリ現ニ「エルサス」聯邦ニ於テハ「ミニールハウセン」市ノ差増稅ハ九割ヲ市ノ所得トシ一割ヲ國家ニ納付セシムルコト、シアリ

二、免稅ノ事由

皇室財産、國有財産、公法人公益法人等ノ財産ハ免稅スルヲ至當トス
相續モ免除スルヲ實例トス之レ一方ニ既ニ國稅トシテノ相續稅アルニ慮リタルモノナラン然レトモ

純理トシテハ徵收スヘキモノナリ現ニブルンフーパー氏ノ如キ此稅ヲ唱フ只普通ノ先例ニ習ヒテ相續ヲ免稅スルトセハ相續財產ノ分割ヲモ免稅スルハ制度トシテ理論ノ一貫セルモノナラン然レトモ相續分ノ讓渡ハ勿論免稅ノ限リニ非ス

贈與及公用徵收モ免稅スル立法例多シ然レトモ苟クモ差増額ノ存在スルアランカ之レヲ免除スルノ理由ナシト信ス強制競賣亦然リ(ブルンフーパー説)

三、國家カ地方團體ニ本稅ノ採用ヲ認許スルニ當リ人口ノ多少ニヨリテ區別ヲ立テ例ハ人口一萬ニ充テサル地方ニハ之レヲ許可セストスル如キ(ザクセン草案)ハ杓子定規ナリ現ニ人口ハ少數ナルモ豫想外ニ迅速ニ發達ヲ來シテ地價ノ騰貴ヲ見ル地方團體無キニ非ルヲ以テ本稅ノ採用如何ハ全然各地方團體ノ自由ニ放任スヘシ(ブルンフーパー説)

四、稅率

獨ニ於ケル實例ハ一割以下ノ差増額ヲ免除スルモノ多シブルンフーパーハ五分以下ヲ免除セハ足ルト主張ス稅額ハ差増額ノ二割五分ヲ最高度トスルモノ多シブルンフーパーハ少クトモ三割五分ヲ最高度トスル迄累進セシムヘク且ツ十割以上ノ差増アル場合ニハ五割迄累進セシメテ可ナリト主張ス

五、本稅施行區域

ヘッケルハ都市ニ限ルヘシト説ク然レトモ苟クモ急激ニ繁昌ニ赴ク趨勢アル所ハ郡村ト雖モ施行セ

サルヘカラス而シテ繁昌ニ赴クヤ否ヤヲ知ルノ標準ハ人口ノ急激ニ増加スルヤ否ヤヲ檢スレハ足ルト説クモノハポルトナリ

六、期限

「ハンブルヒ」法ノ如クニ一定ノ期限ヲ限ルハ不得策ナリ繼續セントスル際ニ利害關係者タル地主ノ反對ヲ引起スヘケレハナリ無期ニ創設スルコトヲ要ス(ポルト)

七、宅地ト非宅地

獨ノ實例ハ宅地ハ一般ニ非宅地ヨリ輕ク稅スルノ傾向アリ之レ住居問題ト密接ノ關係ヲ有ス社會政策ノ一端タリ

八、脫稅ヲ防クノ方法トシテ採用スヘキモノ左ノ如シ(ツムローノ説)

- 一、登記所ヲ直ニ收稅署ニ向テ課稅事實ノ發生即チ登記アリタルコトヲ通告スルノ義務ヲ負ハシメサルヘカラス
- 二、所謂中間賣買間ノ差増ヲモ計算ニ入ルヘキコト
- 三、減稅又ハ脫稅ノ目的ヲ以テ不當ニ低キ價格ヲ以テスル賣買ヲ防止スルカ爲メニ地方團體ニ先買權ヲ有セシムルコト
- 四、脫稅ト認ムヘキ行爲例ハ地主カ相連合シテ株式會社又ハ組合ヲ組織シ爾後株式又ハ持分ノ賣却

ニヨリテ脱税ヲ企ツル如キ又ハ法ノ施行ヲ豫想シ法ノ施行前豫メ名義上高價ヲ以テ子孫ニ土地ヲ賣却シ之レニヨリテ法ノ施行後ノ差増額ヲ減センコトヲ計ル如キハ嚴重ニ法ヲ以テ禁止シ制裁ヲ付スルコト

九、財政上ノ目的ヲ以テ遡及效ヲ認ムル必スシモ不當ニ非ス即チ法ノ施行前ノ差増ヲモ課税スルコト遡及ノ程度ハ十年以上ニ超ユヘカラサル程度ニ於テ定ムヘシトハ普國內務當局者ノ意見ナリ

第二節 失業状態ノ救済

労働者カ労働口ヲ得サルコト即チ無職業ノ状態ニ在ルヲ救済スルハ實ニ亦労働問題解決ノ一助タリ無職業状態ヲ救済スル方法ハ分テ三トス自助方法救済制度及地方團體ノ施設之レナリ

自助ノ手段トハ労働組合カ失業状態ニ陥レル労働者ニ對シ就職スル迄ノ間一時衣食住ヲ給シ且ツ出來得ル限り早ク労働口ヲ媒介スルヲ云フ英國ノ労働組合ハ此點ニ於テ最モ能ク發達シ此方法ニヨリテ救済セラル、労働者ノ數少カラズ歐洲大陸ニ於テハ此方法未タ充分ニ發達セス然ルニ自助ノ手段如何ニ發達スト雖モ此手段ノミヲ以テ失業状態ヲ醫治シ了ルコトハ不可能ナルヲ以テ救済行政ノ必要是レ顯ハル然レトモ救済行政ヲ以テシテモ亦決シテ貧民ノ種子ヲ根絶シ得サルハ明ニシテ歐洲諸國ニ於テハ此制度ノ爲メニ却テ貧民ノ數ヲ増加スルノ虞ナキニ非ス貧民中労働ニ堪ユルモノヲ驅ツテ苛酷ナル

労働場ニ收容シ之レニヨリテ貧民救助ヲ受クルノ念ヲ絶タセメントシツ、アリト雖モ此制度ヲ以テレテモ未タ充分ナル效果ヲ見ル能ハス是ニ於テカ更ニ積極的社會政策ノ一端トシテ地方團體ノ施設ヲ舉ゲサルヘカラス即チ *Notarbeiten* 及 *Arbeitsnachweis* 之レナリ

甲、*Notarbeiten* トハ世間一般ニ事業起ラス從テ労働ノ需要無キ爲メ失業者ヲ生シタル場合ニ市カ自己ノ事業ヲ企テ労働者ヲ收容スルヲ云フ

普國內務省ハ千八百九十四年郡及ヒ市町村ニ省令ヲ發布シ地方團體ハ宜シク管内ニ於ケル失業状態ノ防止ニ務ムヘク之レカ方法トシテハ地方團體ノ起ス事業ニ付テハ適當ニ労働ノ時期ヲ分配スヘク殊ニ必スシモ一定ノ季節ニ經營スルコトヲ要セサル事業ノ如キハ世間一般ニ労働ノ需要少キ時季例ハ冬季ニ企テ之レニヨリテ失業状態ヲ減少スヘキ様計畫スヘキヲ命令セリ此省令ノ結果トシテ普國ハ勿論ツノ他聯邦内ノ多クノ都市ハ此點ニ注意シテ事業ヲ企ツルコト、ナレリ千九百三年帝國統計局カ五十七箇ノ都市ニ向テ此制度ヲ採用シ居レルヤヲ質シタルニ四十六箇ノ都市ハツノ然ル旨ヲ答ヘタリ事業ノ種類ノ重ナルモノハ土地ニ關スル事業即チ灌溉、道路改修、道路掃除、運河水道ノ開通、井戸堀、砂利ノ採掘、石割り、雪掻キ、鑛坑採掘等ナリキ一日ノ労働時間ハ八時間、八時間半、九時間ノモノ最モ多シ而シテ賃銀ハ各市共ニ普通私人ノ事業ニ於ケルヨリモ低廉ニシテ只ニ生活資料ヲ與フルニ足ルノ程度ニ限レリツノ然ル所以ハ他ノ普通ノ事業ヲ去リテ市ノ事業ニ移リ

來ルモノアラシテ防止スルナリ而シテ賃銀ハ猶各労働者ノ家族ノ有無多少ニ應シテ階級ヲ設ケタリ例ハ「フランクフルトアママイン」ニ於テハ獨身者ハ「時間二十」ペンニヒ「妻帯者ハ二十五」ペンニヒ「バーメン」ニ於テハ未婚者ハ土地ニ關スル事業ニ付一日「マルク」七十五「ペンニヒ」結婚者ハ二「マルク」五十「ペンニヒ」トセリ賃銀支拂ノ形式ハ時間給ヲ普通トシ出來高拂ハ例外ナリ即チ石割リ事業ニ限レリ且ツ多クノ市ニ在リテハ一日中ニ爲スヘキ仕事高ノ最少限度ヲ確定シ労働者ヲシテ之レヲ完了セシムルコトヲ強制セリソノ他又多クノ市ニ於テハ市ハ勞銀ノ外ニ労働者ノ爲メニ保險料ノ支拂ヲ負擔シ實費ヲ以テ晝食ヲ給シ或ハ無料ニテ珈琲ヲ與フルモノアリ

乙 Arbeitsnachweis 労働口入

瑞西人 Adler 氏ノ考案ニ本キ市町村立労働口入所ヲ設ケタルハ氏ノ生國タル瑞西ヲ以テ初メトス即チ先ツ Bern 市ニ於テ千八百八十八年市立労働口入所ノ設置アリ千八百八十九年「Bess」之レニ次ク「ベルン」ニアルモノハ市カ市費ヲ以テ之ヲ維持スト雖モ内部ノ行政ハ労働組合カ之レヲ綜理ス、口入所ニ申込ヲ爲シタル都度並ニ労働契約ノ締結アリタル都度雇主及ヒ労働者ノ兩者ヨリ少額ノ口入手數料ヲ徴ス定款ノ規定ニヨレハ「ストライキ」ノ起レルトキハ口入所ハ當該労働事業ニ付テノ口入ハ「ストライキ」ヲ終了スル迄中止シ「ストライキ」ノ早ク終了スル様盡カスヘキ定メナリ「バーゼル」ノ設備ハ全然市ノ設備ニシテ市費ヲ以テ之レヲ維持シ内部ノ行政ハ監督委員會之レ

ヲ司ル委員ハ五名ノ市ノ吏員ノ外ニ企業家労働者ノ兩者ヨリ各三名宛選出セラル

瑞西ニ於ケル口入所ノ制度ハ先ツ南方獨逸ニ波及セリ即チ千八百九十四年「ハッスリッゲン」及「エルフルト」ニ於テ市立口入所起リ間モナク「スチユットカルト」ニモ生シタリ加之「ユルテンベルヒ」「バイエルン」「普魯西諸國」ハ全國ニ命令シ人口一萬以上ヲ有スル都市ハ須ラク市立口入所ヲ設クヘク口入手數料ハ皆無又ハ僅少ナルヘキ旨ヲ傳ヘタリ左ナキタニ瑞西ノ嚮ニ倣ハントシツ、アリシ諸市ハ政府ノ命ニ應シテ市立口入所ヲ設置スルコト、ナリ既ニ千九百三年ニ於テハ普國內ニアルモノ二百六十三、「バイエルン」國ノモノ五十四、「ユルテンベルヒ」ニハ十五、「バーデン」ニハ二箇設立セラレタリ

現今伯林郊外「レヤロットテンブルヒ」市ノ労働口入所ハ無報酬ニテ労働口入ヲ爲シ費用ハ全然市ノ負擔ニ歸ス且無職業者ノ爲メニ市ノ土木事業、道路掃除等ノ労働ヲ賦與シ且ツ筆耕室ヲ設ケ無職業者ヲシテ一般公衆ノ需ニ應シテ筆耕ノ事ニ從ハシムルヲ見ル

第三節 市立市場

市立市場トハ生活必需品ノ需要ト供給トヲ一箇所ニ集中レテ之レヲ調節平均セシムル所ノ設備ニシテ市ノ經營ニ成レルモノナリ

供給者即チ商人ハ市ノ定メタル市場使用料ヲ納付スルコトヲ條件トシテ市場ヲ使用スルコトヲ得
 獨逸ニ於ケル市立市場ハ佛國巴里ノ例ニ倣ヒテ千八百七十九年「フランクフルト、アム、マイン」市カ設
 置シタルモノヲ初メトス伯林市ニ於テハ千八百八十六年以來設立セラレ十四箇所アリテ之レカ設備ニ
 要シタル費用二千八百萬「マルク」ニ上レリト云フ今伯林市場ノ現行使用料ヲ掲クレハ左ノ如シ

- 一、販賣所一日間使用料
月極メト日極メトニヨリ且物品ノ種類ニヨリ一平方メートル
 毎二十「ベンニヒ」乃至五十「ベンニヒ」ノ間ヲ昇降ス
- 二、物品貯藏場使用料
一平方メートル 一箇月極使用料 五十「ベンニヒ」
 一平方メートル 日極使用料 五又八十「ベンニヒ」
- 三、涼冷室使用料(一日間)
一平方メートル 一箇月極使用料 五十「ベンニヒ」
 一平方メートル 日極使用料 百「ベンニヒ」
- 四、手車持込料
 蓋ヒ付室 一箇月使用料 三「マルク」
 無蓋室 (一箇月使用料 二「マルク」
 一日使用料 十「ベンニヒ」)

千九百七年度決算ノ示ス所ニヨレハ使用料中ノ重ナル収入タル販賣所使用料收入二百七十六萬九千三
 百六十「マルク」ニシテ事務費ハ三十六萬九千六十「マルク」ニ達シ純益ノ内ニテ伯林市ノ收入ニ歸シタル
 モノ五十六萬八千五百六十六「マルク」アリト云フ以テ市ノ財源トシテ有力ノモノタルヲ知ルニ足ラン

第四節 貯蓄金庫(Sparkasse)

獨ニ於テハ歐洲ノ他ノ諸國又ハ我國ト異リ郵便貯金ノ制度無ク又貯蓄銀行ノ設ケナシ貯蓄機關ハ郡又

ハ市ノ經營ニ成ル所ノ貯蓄金庫(間々州又ハ私人ノ經營ニ成ル貯蓄金庫アレトモ活動ノ見ルヘキモノ
 少シ)之レニ任ズ、千八百八十四年ノ帝國議會ニ於テ郵便局ヲシテ「マルク」乃至八百「マルク」ノ貯金ヲ
 吸收スルコトヲ得セシムルノ法案討論ニ付セラレタルモ國家カ貯金業務ヲ營ムハ既ニ發達シ來レル郡
 市ノ貯蓄金庫ノ業務ヲ奪フモノニシテ不當ナリトノ理由ノ下ニ否決セラレタリト云フ
 貯蓄金庫ハ云フ迄モナク細民ノ零細ナル貯金ヲ吸收シテ確實ナル利殖ヲ行ヒ且ツ細民ニ金融ヲ與フル
 所ノ社會政策的設備ナリ

信用ヲ與フルノ點ヨリ云ヘハ貯蓄金庫ハ普通ノ銀行ニ類スツノ異ル所ハ信用ヲ與フルハ目的ツノモノ
 ニ非スシテ貯蓄ヲ獎勵スルノ手段タルニアリ、信用ノ受授ヲ爲スノ點ニ於テハ産業組合特ニ信用組合
 ニ似ル所アリ又養老保險ニ類スル所アリ

貯金利子ノ高歩ナルコトヨリモ貯金ノ確實ニ利殖セラレ、コトカ貯蓄金庫ノ本來ノ目的タリ故ニ貯蓄
 金庫ノ眼目トスル所ハ細民ノ貯蓄心ヲ獎勵スルニアリ謂ハ、公益上ノ目的ニ出ツ此點ニ於テ營利法人
 タル普通ノ銀行ト異ル

貯蓄金庫ノ運用上注意スヘキ事項ノ第一ハ貯金者ヲシテ可成容易ニ貯金スルノ便宜ヲ有セシムルニア
 リ此目的ノ爲メニ「フランクフルト、アム、マイン」市ツノ他獨内ノ二三ノ市ニ於テハ貯金收受所ヲ設ケ
 商店ヲ以テ之ニ充テ商店ハ貯金取扱高ニ應シテ貯蓄金庫ヨリ報酬ヲ受ク、ツノ他金庫カ毎週貯金者ノ

各戸ニ集金人ヲ派遣シテ貯金ヲ收受スルハ何レノ金庫モ採用スル制度ナリ又伯林ニ於テハ貯蓄ヲ獎勵スルノ一方法トシテ富強制度ヲ設ケントノ考案アリシモ射倖心ヲ增長スルノ弊害アルモノトシテ決行セラレス

貯蓄金庫ノ運用上注意スヘキ事項ノ第二ハ貯金高ノ大小ニアリ蓋シ貯蓄ヲ獎勵スルノ主旨ヨリ云ヘハ如何ナル些少ノ金額ノ貯蓄ニモ應スヘキ筈ナレトモ此クテハ金庫ニ取リテ莫大ナル費用ヲ要スルコトトナルカ故ニ獨逸ノ貯蓄金庫ニアリテハ普通五千「ペンニヒ」(我約二十五錢)又ハ一「マルク」(我カ五十錢)ヲ每週貯金高ノ最少限度トス即チ金庫ノ集金人ハ每週貯金者ノ各戸ニ就キテ之ヲ收受スルナリ然ルニ一時ニ五十「ペンニヒ」以上ノ額ヲ預金スルコトハ細民ニ取リテハ困難ナルヲ以テ例ヘハ一個「ペンニヒ」(我約五錢)ヲ價ヒスル貯金切手賣下ノ制度ヲ採リ細民ハ之ヲ買求メ一定ノ券紙(金庫ヨリ無償ニテ交付ス)ニ貼付シ其ノ全額カ貯金最少額ニ達スルニ至ラハ貯蓄金庫ニ送付シテ預金ニ代用スルノ制度ヲ採ル金庫多シ貯金ノ最少額ヲ定ムルト同時ニ獨逸諸國ニ於テハ法律又ハ金庫ノ定款ヲ以テ貯金ノ最高限度ヲ定ムルヲ常トス且ツ一人又ハ一家族ヲシテ一個以上ノ貯金帖ヲ得ルコト能ハサラシム之レ大口ノ金額ノ預金引出ニヨリテ金庫ノ財政的基礎ヲ危クスルコト無カラシメンカ爲ナリ

貯蓄金庫ノ運用上注意スヘキ事項ノ第三ハ貯金ノ利殖方法ノ確實ナルコトニアリ獨逸ノ貯蓄金庫ハ抵當貸ニ貯金ヲ投資スル金額最モ多ク確實ナル有價證券、國債證券ニ放下スルモノ之レニ次ク曾テ普國

ニ於テハ法律ヲ以テ貯蓄金庫ノ貯金ノ幾部分ハ必ス普國「コンツル」公債ニ投資スヘキ旨ヲ定メントノ考案アリシモ實施セラレスレテ已ミヌ

以下市立貯蓄金庫ノ一例トシテ伯林市郊外「シェーネベルヒ」市立金庫ノ組織ヲ概述スヘシ(以下單ニ金庫ト云フハ貯蓄金庫ノ略ナリ)

金庫ハ市ノ特別施設ニシテ細民ノ貯金ヲ確實ニ利殖スルヲ目的トス市ノ保證及監視ノ下ニ立ツ總テ金庫ノ債務ハ市之レカ無限ノ責任ヲ負擔スルモノトス

金庫ハ市役所内ニ之レヲ置ク、午前八時ニ開キ午後一時半之レヲ閉ク

金庫ハ市ノ名ニ於テ監事「Kuratorium」之レヲ掌理ス監事ハ二人ノ市參事會員(内一人ハ監事長トナル)三人ノ市會議員及二人ノ市民代表者ヨリ組成ス市會議員及市民ハ三年ノ期限ヲ以テ市會議員之レヲ選出ス但再選ヲ妨ケス監事ハ金庫ヲ外部ニ對シテ代表スル機關ナリ監事會ノ決議ハ多數決ニ依ル可否同數ナルトキハ議長之レヲ決ス議事ニ利害關係ヲ有スル監事ハ當該事項ノ議決ニ與カルコトヲ得ス

金庫ノ事務員ハ市參事會カ市會ノ意見ヲ聞キテ之レヲ任命ス報酬任命ノ要件等モ亦然リ

監事ハ毎月一定ノ日ニ於テ金庫ノ現狀ヲ検査シ且每年少クトモ一回臨時検査ヲ行フ検査ニハ市參事會員、市會議員各一名之レニ參加スルモノトス

貯金高ハ最少限度ヲ一「マルク」トシ最高限度ヲ二千「マルク」トス但最高度ハ監事ノ認定ニヨリテ引出ノ

急速ナラサルモノト認ムルトキハ例外トシテ三千マルク以上ニ上ルコトヲ得又二「マルク」以下ノ貯金モ收受セサルニ非サルモ之レニ對シテハ貯金利子ヲ付スルコトナシ拂込後二週間内ニ引出サレタル凡テノ貯金ニモ亦利子ヲ付セス

貯金利子ハ年三分トス一年ハ三百六十日ヲ以テ計算ス但監事ハ市場金利ノ狀況ニ應シテ市ノ許可ヲ經テ貯金利子ヲ五分迄ニ高ムルコトヲ得若ハ三分以下ニ下スコトヲ妨ケス

貯金利子ハ會計年度ノ終リニ於テ貯金高ニ繰入ル、モノトス貯金高カ二千「マルク」ヲ超過セルトキハ最早利子ヲ付セス

最後ノ貯金拂込後三十箇年ヲ經過スルモ新ナル拂込ヲ爲サス又ハ引出ヲモ爲サ、ルトキハ債權ノ拋棄ト看做シ貯金ニ對スル債權ハ消滅スルモノトシ貯金ハ公益事業ニ使用セラル

貯金ノ引出ハ預金高カ百「マルク」以下ニ過キサルトキハ豫告ヲ要セス之レヲ爲スコトヲ得百「マルク」以上ニ達スルトキハ金額ノ大小ニ應シテ二週間乃至三箇月前ノ豫告ヲ必要トス

貯金帖ハ貯金者一人ニ付一個ニ限ルモノトス若シ一時ニ大口ノ引出無カラシム爲ナリ貯金利殖方法ハ左ノ如シ

- 一、抵當貸付總額ハ地租純收益ノ二十倍、家屋稅純收益ノ十二倍半以內ト定ム且ツ農地及山林ニアリテハ鑑定價格ノ三分ノ二宅地ニアリテハ鑑定價格ノ二分ノ一ヲ貸付總高トス

二、獨帝國、普國普國內ノ地方團體、公共組合ノ發行又ハ保證スル有價證券ノ取得

三、年金銀行 Rentenbank ノ發行スル債券ノ取得

四、地主組合ノ發行スル債券ノ取得

五、地方團體公共組合ノ債券ヲ擔保トスル貸付(但貯金額高ノ二割五分以內)

六、抵當權ヲ有スル債權又ハ確實ナル有價證券ヲ擔保トスル債權ニ對スル貸付

七、普國中央產業組合金庫 (Preussische Zentralgenossenschaftskasse 其ノ何ナルハ第二款產業組合ノ章ニ明ナリ) 又ハ確實ナル銀行ニ預ケ入レヲ爲スコト(但貯金總高ノ一割以內)

八、貯金及準備金ノ合計額ノ二割五分以上ハ伯林取引所ニ於テ取引セラル、有價證券ノ取得ニ放資スルコト

金庫ハ損失ノ填補ニ供フルカ爲メニ所有有價證券價格變動準備金及一般損失準備金ヲ設置ス前者ハ有價證券ノ賣却又ハ當籤ヨリ生スル差増額(取得價格ト時價トノ)ヲ以テ之ニ充ツルモノトス後者ハ決算ヨリ生スル收支剩餘金ヲ以テ之ニ充ツ一般準備金ヨリ生スル利子ハ一般準備金カ貯金元利合計額ノ一割ニ達スル迄ハ一般準備金ニ繰入ル、コトヲ要シ決算剩餘金ニ繰入ル、コトヲ許サス
一般準備金カ貯金元利合計高ノ五分ニ達シタルトキハ決算剩餘金ハ其ノ半額ヲ市ノ公益事業ニ使用スルコトヲ得一割ニ達シタルトキハ其ノ全部ヲ市ノ公益事業ニ充ツルコトヲ得

貯蓄獎勵ノ一方法トシテ五年間間斷ナク貯金ヲ爲シタル貯金者ニ對シテハ監事ノ認定ニヨリ貯蓄獎勵金トシテ三十「マルク」以下ヲ當事者ノ貯金高ニ加算スルモノトス

貯金收受所ハ市内ニ十七箇所アリ商店ヲ以テ之レニ充ツ金庫ヨリ商店ニ與フル報酬ハ取扱高ノ一分五厘トス

當金庫ハ貯金切手ノ制ヲ採用セス

集金制度ニ依ル貯金高ハ每週五十「ペンニヒ」一「マルク」ニ「マルク」三「マルク」四「マルク」五「マルク」七「マルク」二十「マルク」ノ八種ナリ集金費用ハ金庫自ラ之ヲ負擔ス

附 錄

第五節 市立銀行

市立銀行ノ一例トシテ茲ニ「プレスラウ」市銀行ノ組織運用ヲ紹介スヘシ

一、目的及特色、當銀行ハ中等以下ノ階級ニ屬スル商工業者ニ向テ獨逸帝國銀行ノ利子歩合ヲ微シテ資金ヲ供給スルヲ目的トシ投機的業務ヨリ全然遠サカルヲ特色トス

二、住所ハ「プレスラウ」市ニ之ヲ置ク

三、資本ハ「プレスラウ」市ヨリ供給セル三百萬「マルク」ニシテ準備金ハ六十萬「マルク」ニ達ス而シテ銀

行ノ債務ニ關シテハ市之レカ無限ノ責任ヲ有ス

四、營業ノ種類

1、金銀貨幣及金銀塊ノ賣買

2、獨逸帝國內ヲ支拂地トシ三箇月以内ニ支拂期限ノ到達スヘキ手形ニシテ二人以上ノ支拂保證人ヲ有スルモノヲ割引シ賣買スルコト

3、左ノ物件ヲ擔保トシテ三箇月以内ノ貸付ヲ爲スコト

甲、金銀貨幣及金銀塊

乙、獨逸帝國又ハ聯邦ノ發行スル利付無記名債券若クハ一箇年以内ニ支拂期限ノ到達スヘキ無記名債券又ハ帝國若クハ聯邦ノ利子支拂保證アル各種ノ利付無記名債券「プレスラウ」市又ハ地主組合ノ發行スル債券及普國州立年金銀行ノ年金證券
(時價ノ八割五分ヲ限度トシテ貸付ヲ行フ)

丙、普國ノ地方團體ノ發行スル利付債券
(時價ノ八割ヲ限度トシテ貸付ヲ行フ)

丁、獨逸帝國又ハ聯邦ノ監視ノ下ニ在ル土地信用機關ノ債券、獨逸帝國內ノ鐵道會社ノ拂込濟株券及優先社債券

(時價ノ七割五分ヲ限度トシテ貸付ヲ行フ)

戊、外國ノ鐵道會社ノ利付無記名優先債券ニシテ當該國家ノ保證アルモノ

(時價ノ六割ヲ限度トシテ貸付ヲ行フ)

乙以下戊ニ至ル迄ノ物件ヲ擔保トスル貸付ハ假ヒ物件ノ時價カ額面ヲ超過スル場合ト雖モ額面以上ニ上ルコトヲ許サス尙銀行監事(Curatorium)カ必要ト認ムルトキハ是等ノ物件ヲ擔保トスル貸付ヲ拒ミ又ハ前掲ノ擔保價格以下ニ貸付ヲ爲スコトアルヘシ

己、連帶債務者ノ附帶セル手形

(時價ヨリ五分以上ヲ控除シタルモノヲ貸付高トス)

庚、獨逸國內ニ貯藏セラレ且ツ腐敗ノ虞無キ商品

(價格ノ三分二ヲ限度トシテ貸付ヲ行フ)

4、3ノ乙、丙、丁ニ掲クル有價證券ヲ賣買スルコト但買入高ハ常ニ銀行ノ資本ノ半額即チ百五十萬「マルク」ヲ超ユルコトヲ得ス

5、官廳、營造物又ハ私人ノ計算ニ於テ現金ノ取立ヲ爲シ且之等ノ者カ銀行ニ預金ヲ爲シ居ルトキハ是等ノ者ニ代リテ現金ノ仕拂ヲ行フコト

6、他人ノ計算ニ於テ各種ノ有價證券、貴金屬ノ賣買ヲ爲スコト但ソノ他人カ銀行ニ預金ヲ有スル

トキニ限ル

7、有利又ハ無利ノ預金業但有利預金ノ預カリ高ハ銀行ノ資本及準備金ノ合計高ノ二倍ヲ超ユル

コトヲ得ス

8、有價證券ノ保管供託

9、債券ノ履行又ハ保全ニ必要ナル限度ニ於テ土地若クハ抵當權ヲ取得スルコト

銀行ノ營ムヘカラサルモノ即チ消極的營業トシテ記スヘキコトハ銀行ハ如上ノ營業以外ニ互リテハ何等ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス遊金アラハ第一乃至第四ニ掲ケタル業務ニ放下スルコトヲ得ルノミ手形ノ引受、商品有價證券ノ定期賣買並ニ之レカ保證ノ他位ニ立ツコトハ絕對ニ禁止セララル

五、銀行ノ公告ハ市内ノ二個ノ新聞紙ニ之レヲ掲載ス

六、監事

銀行ノ業務ハ監事之レヲ綜理ス監事ハ市長又ハソノ代理者及十二名ノ監事ヨリ成ル市長又ハソノ代理者ハ即チ監事長トナル

十二名ノ監事中四名ハ市參事會員之ニ當ル八名ハ市會議員中ヨリ互選セラレ任期ヲ六箇年トス

七、監事ノ集會

監事會ハ必要ノ都度監事長之レヲ召集ス三名以上ノ監事ノ請求アルトキ又ハ理事(Vorstand)ノ請

求アルトキハ監事長ハ之レヲ召集セサルヘカラス
監事會ノ決議ハ七名以上ノ出席者アルニ非レハ效力無シ且ツ過半数ニ依リ之レヲ決シ可否同數ナ
ルトキハ監事長之レヲ決ス

八、監事ノ權利義務

監事ハ銀行ノ大小凡テノ事件ニ關與ス特ニ左ノ事項ハ監事ノ權限ニ屬ス

- 1、前掲營業種類中3ノ乙以下戊ニ至ル迄ノ擔保、貸付ニ關スル事項ノ議決
- 2、銀行内部ノ規程ヲ定メ理事ヲシテ自己ノ議決シタル事項ヲ執行セシムルコト
- 3、監事會ノ開會ニ際シテ理事ヨリ呈示スル現金、手形、貸付現在高ノ一覽表ヲ檢閱スルコト
- 4、事務員使用人ニ對シテ訓令ヲ下スコト
- 5、毎月現金、手形、貸付現在高ヲ記入スル帳簿ノ檢閱ヲ爲スコト
- 6、必要ト認ムル都度臨時ニ現金檢査ヲ爲スコト
- 7、理事ヨリ提出スル貸借對照表ヲ檢査確認シ各營業年度末ニ於ケル純益ヲ確定スルコト
- 8、理事中故障アルトキハ之レカ代理者ヲ任命スルコト
- 9、監事ノ關製セル書類ハ監事長又ハツノ代理者及他ノ一人ノ監事之レニ署名スルコトヲ要ス
- 10、市廳ト監事トノ關係

監事ハ市廳ノ代表委員タル資格ヲ有ス

十一、理事

理事ハ銀行ノ第一事務員即チ主事(Director)第二事務員即チ會計係及監事中ヨリ互選セラレタル
二人ノ理事ヨリ成ル

十二、理事ノ權限

理事ハ外部ニ對シテ銀行ヲ代表シ銀行業務ヲ執行シ銀行ノ財産ヲ管理ス只之等ノ行爲ヲ爲スニ當
リテハ監事ノ訓令ニ遵ハサルヘカラス但訓令ヲ遵守セシテ爲シタル行爲ニ付第三者ニ對抗スル
コトヲ得ス

十三、理事ノ署名

銀行ヨリ發スル諸種ノ受取書ツノ他凡テノ書類ハ理事ノ署名ヲ要ス理事ノ署名セル書類ニ關シテ
ハ銀行ハ責任ヲ免ル、コトヲ得ス

十四、理事ノ報告

理事ハ毎月、前月末日ニ於ケル銀行ノ貸借勘定毎年、前年度間ニ於ケル營業実績ヲ市廳ニ報告スル
ノ義務ヲ有ス且ツ年度末ニ於テ貸借對照表ヲ監事ニ提出シテ承認ヲ經サルヘカラス月別貸借對照
表、年度別貸借對照表及損益計算表ヲ公告セサルヘカラス

公告スヘキ貸借対照表ノ科目左ノ如シ

1、貸方勘定

資本

準備金

支拂期限ノ到達セル債務

支拂期限ノ到達セサル債務

其ノ他

2、借方勘定

金銀塊

金銀貨幣

手形

貸付金

有價證券

其ノ他

十五、決算準備金及純益

營業年度ハ四月一日ニ初マリ翌年三月三十一日ニ了ル、理事ハ年度末日現在ニ於ケル貸借勘定ノ決算ヲ爲シ貸借対照表ヲ編製シ監事ノ承認ヲ請ハサルヘカラス貸借勘定ノ差額ハ即チ純益トナル
決算ノ結果資本カ三百萬「マルク」以下ニ下レルトキハ準備金ハ先ツ資本ノ不足額ヲ補充スヘシ準備金カ資本不足額ヲ補充スルニ不充分ナルトキハ殘餘ハ純益ヲ以テ之レヲ補充スヘシ
準備金カ資本ノ補充ニ使用セラレタル結果トシテ六十萬「マルク」以下ニ下レルトキハソノ不足額ハ純益ヲ以テ補充スヘシ但純益ハ先ツ理事會計係ノ賞與ニ之レヲ使用シ殘餘アル場合ニ於テ初メテ準備金不足額ノ補充ニ用ユルモノトシテソノ額ハ純益殘餘額ノ二分ノ一トス而シテ他ノ二分ノ一ハ之レヲ市金庫ニ納付ス

準備金ハ資本ノ不足額補充以外ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

十六、決算ノ審査確定

監事ノ承認ヲ經タル決算ハ翌年七月一日迄ニ市ノ決算審査委員ノ審査ニ附ス審査委員ハ市金庫ノ會計官及四名ノ市會議員ヨリ成ル理事ノ決算ニ關スル責任解除ハ市廳之レヲ決定スルモノトス

第六節 市立典舖

市立典舖ノ一例トシテ「ドレステン」市市立典舖ノ組織運用ヲ紹介スヘシ

第一、成立及發達

千七百六十四年一月十八日「ドレスデン」市ノ住民ニシテ金細工業者タルグラントナーナル者市廳ニ
向テ典舖設立ノ建議ヲ爲シ典物トシテハ金銀細工、寶石、時計、衣服、銅、錫細工品ヲ收受シ貸付利子トシ
テハ一週間一「ターレル」(約我一圓五十錢)毎ニ半「ペン」ニヒ(約我一錢五厘)即チ一箇年約九分ヲ徵收
スヘク若シ質入人カ典物ノ種類ニ應シテ定マレル期限内ニ典物ノ受戻ヲ爲サ、ルトキハ競賣ニ附ス
ヘキ旨ヲ案セリ之レカ動機トナリテ千七百六十八年十一月十七日市ハ新市「ドレスデン」市ハ新舊
二市ニ分ル所在ノ市廳ノ二階ニ典舖ヲ設立センコトヲ決定シ同時ニ一定ノ借室料ヲ市金庫ニ納付
シ典舖ノ會計ト市ノ普通會計トヲ計算上獨立セシムルノ計畫ヲ爲セリ

市ハ政府ノ許可ヲ得テ千七百六十九年一月二日愈、典舖ヲ開始セリ同年末決算ノ示ス所ニヨレハ同
年ニ要シタル運轉資金ハ(私人ヨリノ借入金ヨリ成ル)五萬一千五百「ターレル」ニ達シ貸付高ニシテ
翌年度ニ繰越サレタルモノ四萬四千三百九十五「ターレル」純益四百二「ターレル」ヲ示シタリ第二年度
末ニ於テハ貸付高ノ殘高七萬三千九百九十六「ターレル」純益ハ千八百五十三「ターレル」ニ上リ千七百七十
一年ニ於テハ既ニ八千八百十八「ターレル」餘ノ純益ヲ生シ千七百七十五年ニ於テハ純益ハ一萬二千七
百五十二「ターレル」ニ達セリ

千七百九十二年ノ實況ニ徴スレハ貸付殘高ニシテ翌年度ニ繰越サルヘキモノ年々八萬「ターレル」ニ上

ルヘク成立當初ヨリ定メタル年利八分ヲ今後尙繼續スルトセハ歳入ハ七千五十「ターレル」ニシテ經
費五千五百三十五「ターレル」ヲ控除シ差引純益千五百十五「ターレル」ニ上ルヘク年利七分ヲ徵收スル
トセハ七百十五「ターレル」ノ純益ヲ生スヘキ見込ナリ而シテ政府ハ七百十五「ターレル」ノ純益ヲ以テ
已ニ充分ナル高ナリト認メ利子徵收歩合ハ七分ニテ足レリトノ見解ヲ有セシカハ市ハ政府ノ命ニ應
シテ利子歩合ヲ七分ニ減少セリ而シテ從來運轉資金ハ凡テ借入金ニテ支辨シ來リタリシカ千七百九十
四年ニ於テハ借入金ハ二萬「ターレル」ニ減少スルノ好況ヲ呈セシカハ爾後利子ハ更ニ六分ニ減少セ
リ然レトモツノ後經濟界ノ變動ニ應シテ利子歩合ハ時々變動アリ大體ニ於テハ漸次高歩ヲ示シ現今
ニ於テハ有價證券ヲ擔保トスル貸付ハ別トシ普通ノ貸付ハ一割ヲ原則トスルニ至レリ

千七百六十九年一月ヨリ一千八百二年四月ニ至ル三十三年間ノ成績ヲ一言セハ純益ハ總計六萬八千、
三百三十四「ターレル」ニ達シ利子ハ八分乃至七分ヲ示シ借入金ハ一萬七千九百二十五「ターレル」ニ
減シ此借入金ニ對シテハ年四分ノ利子ヲ拂ヘリ
内部ノ行政ハ設立以來著々改良ヲ加ヘタル點多シ營業時期ハ設立ノ當初ニアリテハ一週間只二日
ニ過キサリシカ千七百六十九年一月以降ハ三日ニ増加シ九十年後ノ千八百六十年八月以降ハ日曜祭
日ヲ除キテ毎日午前午後共々開店スルノ必要ヲ見ルニ至レリ以テ漸次市立典舖ノ營業カ擴張セラ
ルヲ知ルニ足ルヘシテ一方私立典舖ハ市立典舖ノ營業ノ爲メニ漸次勢力範圍ヲ蠶食セラレ千八

百八十四年ニ三十三個ナリシモノ現今ニ於テハ七個ニ減少セリ蓋シ現時ニ於テ市立典舖ノ徵收スル
利子ハ平均一割ニ過キサレト前述ノ如クナルニ引代ヘ私立典舖ニアリテハ實ニ一割八分乃至二割
四分(即チ三十「マルク」以下ノ貸付ハ二割四分三十一「マルク」以上ノ貸付ハ一割八分ノ利子)ノ利子ヲ
徵收スルノ大差アルニ由ルナリ

千八百五十四年ニ於テハ從來ノ新市ニ在ル本所ノ外ニ新ニ舊市ニモ支所ヲ設置スルノ必要ニ際會セ
リ支所ニ於ケル營業振リヲ見ルニ千八百八十二年ニ於ケル貸付高二十七萬九千二百八十二「マル
ク」典物個數三萬二千五百二十八、受戻金二十二萬八千七百九十一「マルク」受戻個數一萬九千三百二十七
ニシテ而モ一方本所ニ於ケル營業ハ支所ノ設立ニヨリテ何等ノ影響ヲ受クルコトナク益盛トナレリ
近時ニ於ケル營業實績ハ最後ニ掲クル統計ニテ明ナリ

第二、純益ノ處分

純益ハ先ツ營業資金ノ充實ニ使用スヘク營業資金カ必要額丈ケニ充實セラレテ借入金カ皆無トナリタ
ル曉ニ於テ初メテ公益事業ニ使用スルコトハ典舖設立ノ當時ニ確定セラレタル方針ナリシカ千八百
三十四年ニ於テハ借入金ハ僅ニ五百「ターレル」ニ過キサレト、ナリ千八百三十六年ニハ全部償還
シ盡センカハ爾後年々純益ノ一部分タル八百「ターレル」丈ヲ救貧事業ニ投スルコト、ナリ以テ千八
百七十二年ニ及ヘリ

千八百九十三年末ニ於テ資産ハ五十九萬七千六百七「マルク」ニ達セシカハ爾後純益ハ如何ニ處分ス
ヘキヤ尙資産ノ増殖ニ充ツヘキヤ若クハ貸付利子ノ低下ニ利用スヘキヤ或ハ公益事業ニ使用スヘキ
ヤハ研究ノ題目トナリタリ千八百九十四年ニ於テ市參事會及市會ノ一致議決ニヨリテ爾後純益ハ左
ノ如ク處分スヘキコトニ定マレリ

一、典舖ノ資産ハ市ノ資産ノ一部ニ繰入ル、コト而シテツノ高ハ六十萬「マルク」ヲ以テ必要且充分ナ
ル額トシ此額ハ永久ニ維持スヘキコト

二、年々ノ純益ハツノ四分ノ一ハ損失準備金ノ蓄積ニ充用シ四分ノ三ハ救貧事業ニ充ツルコト

三、損失準備金ハ資産ト共ニ運轉資金ニ利用スルコト

損失準備金ハ千八百九十四年末ニハ二千三百五十六「マルク」ニ止マリシモノカ漸次増加シ千九百年
ニハ四萬八千七百五十六「マルク」ニ及ヒ千九百二年ニハ三萬「マルク」ニ達シタリシカハ市會及市參事
會ハ此ノ三萬「マルク」以上ニ準備金ヲ増加スルノ必要ヲ認メストレ爾後年々ノ純益ハ四分ノ三ハ
救貧費ニ四分ノ一ハ市ニ使用スル勞働者ノ疾病災害等ノ場合ニ要スル救恤費ニ充ツルコト、定メ
タリ

更ニ千九百四年ニ至リテ準備金ヲハ六萬「マルク」ニ上スノ必要アリト認メ純益ハ先ツ準備金ノ充實
ニ用ヒ準備金カ六萬「マルク」ニ達シタル曉ニ於テ初メテ純益ノ半分宛ヲ各救貧事業及救恤費ニ充

ツヘキコトニ變更セリ而シテ一昨年即チ千九百七年以來準備金ハ所要額タル六萬「マルク」ニ達スルノ好況ヲ呈シタリ

第三、最近即チ昨年度(千九百八年)ノ財政成績

收入	一八八、五三四「マルク」九五「ペンニヒ」
支出	一四七、五二二「マルク」七六「ペンニヒ」
純益	四一、〇一二「マルク」一九「ペンニヒ」
資産	六〇〇、〇〇〇「マルク」
準備金	六〇、〇〇〇「マルク」
市立貯蓄金庫ヨリノ一時借入金	一、〇八五、〇〇〇「マルク」(年利三分五厘)

第四、組織及運用

一、目的

勸産ノ質入ニ對シテ定期ノ有利貸付ヲ行フニアリ

二、市ノ責任

典舖ハ市ノ營造物ニシテ典舖ノ債務ニ關シテハ市ハ無限ノ責任ヲ負フ

三、行政及代表

典舖ニハ理事アリテ行政ヲ司リ且ツ外部ニ對シテ典舖ヲ代表ス理事ハ一名ノ市參事會員及主事ヨリ成ル理事ハ市廳ノ代表者ニシテ常置機關タリ理事ノ一員タル市參事會員ノ代理者ハ爾餘ノ市參事會員中ヨリ任命シ主事ハ市立貯蓄金庫長、主事ノ代理者ハ市立勸業銀行頭取之レニ任セラル

四、監督

典舖ノ監督ハ市廳之レヲ行フ監督ノ實行ハ四名ノ市參事會員及同數ノ市會議員ヨリ組織セル市廳ノ代表委員之レニ當ル

五、事務員及使用人

事務員及使用人ハ質入人ノ身元其他典質ニ關スル事項ニ付秘密ヲ守ルノ義務ヲ負ヒ自己及ツノ家族ハ自己ノ計算ニ於テ質業ヲ營ムコトヲ得ス現今事務員及使用人ノ員數ハ本所ニ十五人支所ニ十三人合計二十八人アリテ養老年金ヲ享クルノ權利アリ但毎年俸給又ハ給與ノ四分乃至六分ヲ養老保険料トシテ市金庫ニ納付スルノ義務ヲ有ス養老年金支給總額ハ現時年々約一萬五千「マルク」ニシテ保険料拂込額ハ約二千「マルク」ナリ

六、開店時刻及場所

開店時刻ハ典舖監督委員之レヲ定ム現今ハ日曜祭日ヲ除キ毎日午前九時ヨリ午後三時迄トス場所ハ典舖内ノ一定ノ室ヲ以テ之レニ充ツ

七、資産、準備金及純益

運轉資金ハ左ノ二種ヨリ成ル

- 1、六十萬「マルク」ノ固有資産
- 2、六萬「マルク」ノ準備金

ツノ他尙必要ナル資金ハ市立貯蓄金庫 (Sparkasse) ヨリ借入レヲ爲ス

純益ハ時々定ムル所ノ規定ニヨリテ處分セララルル現今ノ處分方法ハ前ニ既ニ之レヲ述ヘタリ

八、營業報告

典舖ハ毎年度末ニ於テ營業報告ヲ發表ス營業報告ニ掲クル事項ハ典物ノ個數、典質契約ノ更新、受戻、典物ノ種類、競賣ノ結果、倉庫内ニ於ケル蟲害ツノ他ノ損害、競賣ノ際生スル損失、典物ノ自由賣却ノ結果ツノ他業務ニ關スル重要事項ナリ

九、典質媒介人

典質媒介ノ營業ヲ爲サントスルモノハ典舖ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス典舖ノ監督ノ下ニ營業ヲ爲スモノトシ典質依頼人ノ姓名、身分、住居、媒介ヲ約束セル場所、貸付高質入證券ノ番號、貸付金及質入證券ヲ典質依頼人ニ交付セル時日ヲ記入スヘキ帳簿ヲ作成セサルヘカラス媒介人ハ正當ナル質入人及正當ナル典物(如何ナル人又ハ物カ典質ニ付正當ナルヤニ關スルコトハ次ニ述フヘシ)ニ付

テ營業ヲ營ムコトヲ得

媒介人ハ自ラ質業ヲ營ムコトヲ得ス

媒介人ハ質入人ヨリ一定ノ媒介手数料ヲ收受ス手数料ハ貸付金中ヨリ控除セラルル手数料ノ額ハ貸付金ノ多少ニ應シテ高低アリ即チ左ノ如シ

- 一「マルク」乃至三十「マルク」ノ貸付 七「ペニヒ」
- 三十一「マルク」乃至五十「マルク」ノ貸付 十五「ペニヒ」
- 五十一「マルク」以上 二十七「ペニヒ」

十、質入人ニ關スルコト

典舖ハ質入人カ典質ニ關スル正當ナル權限ヲ有スルヤ否ヤヲ調査スル權利ヲ有スレトモ義務ヲ有セス然レトモ典舖ハ質入人ノ身分ニ關シテ疑ハシキ廉アリト認ムルトキハ質入人ノ身分ヲ糺シ場合ニヨリテハ典物ヲ保留シテ警察官署ニ申告ヲ爲スコトヲ得

典質媒介人ヨリ受ケタル典質ニ關シテハ典舖ハ當該媒介人ノ姓名ヲ帳簿ニ記入スルコトヲ要ス

十一、典物ニ關スルコト

典物トシテ收受スヘキモノハ

- 1、國債證券、ツノ他ノ有價證券、利札ニシテ支拂期限ノ到達セサルモノ「ザクセン」國內ノ公立貯

蓄金庫ノ發スル貯金帳

2、金、銀、時計、賞牌、銅、具、鍮、錫、寶玉、眞珠ツノ他ノ貴重品

3、織物、絹、麻、羊毛、棉毛ノ織物、衣服、毛皮、寢具、洗布類、書物ツノ他動産ニシテ價格ヲ有シ而モ貯藏ニ特別ナル弘大ノ場所ヲ必要トセサルモノ

手形、勳章、獨逸軍服既ニ使用セル書物、聖書、液體、鐵又ハ銅製ノ刺繡、寫眞、既ニ使用セルモノニシテ破碎腐敗ノ虞アルモノ又ハ火災ノ危險多キモノ並ニ救貧所、慈善團體ヨリ交付ヲ受ケタル物品ハ典質ノ目的タルコトヲ得スツノ他盜品タル疑ヒアル物品、競賣ニ適當セサル物品、日常用ユヘキ衣服、寢具ニシテ不潔ナルトキ又市及附近ニ傳染病流行シテ是等ノ物品ハ傳染ノ種子ヲ有スト推測セラル、如キ場合ハ典物トシテ收受スルコトヲ拒ムコトアルヘシ加之典舖ハ概シテ何等ノ理由ヲ示スコトナクシテ典物ノ收受ヲ拒ムコトヲ得

典物ハ凡テ清潔ニシテ堅固ナル包裝例ハ籃、布、匣ノ儘ニテ典舖之レヲ收受ス包裝ハ典物ノ附屬品ト見做ス

十二、貸付金額

貸付金額ノ最少限度ハ二「マルク」トス且ツ一「マルク」以下ノ端數ヲ附セス

三千「マルク」以上ノ價值ヲ有スル寶玉類ツノ他ノ貴重品ハ只理事ノ許可ヲ得タル場合ニ限り取扱

事務員ハ典物トシテ收受スルコトヲ得

貸付金額ノ最高限度ハ國債證券ツノ他ノ有價證券ハ時價ノ五割乃至八割五分利札ハ利子額ノ八割五分貯蓄金庫ノ貯金帳ハ貯金高ノ九割、金、銀、時計、銅及類似ノ金屬類ハ典舖ノ鑑定スル價格ノ七割五分寶玉眞珠ツノ他貴重品並ニ第十一段ニ掲ケタルツノ他ノ物品ハ鑑定價格ノ五割トス

十三、利息

國債證券ツノ他ノ有價證券、利札及貯金帳ヲ目的トスル典質ノ利子ハ獨帝國銀行ノ利子歩合ニ同シ但四分以下ナルコトヲ得ス他ノ物品ヲ目的トスル典質ノ利子ハ一割トス

利子ハ市廳ノ意見ニヨリテ如上ノ歩合ヨリモ増減スルコトアリ但豫メ公告スルコトヲ要ス

利子ハ國債證券ツノ他有價證券、利札、貯金帳ニアリテハ日割計算ニ依ル但十日ヲ最少限度トス他ノ物品ニアリテハ半箇月計算ニ依ル但一箇月ヲ最少限度トス何レノ場合ニ於テモ二十一「ペン」ニヒ「以下」ニ下ルコトナシ端數ノ日數ハ半箇月ニ切上ケ「ペン」ニヒ「一」ハ「マルク」ニ切上ク

十四、償還期限

貸付ノ償還期限ハ金、銀、時計、寶玉、眞珠ツノ他ノ貴重品ヲ目的トスル典質ニアリテハ十二箇月トシ他ノ物品ハ六箇月トス但質入人ハ期限ノ利益ヲ拋棄スルコトヲ得

賦拂ハツノ額カ、一「マルク」ヲ下ルコトナク賦拂ノ結果貸付殘額カニ「マルク」以下ニ下ルコトナク且

ツ典物ノ價格カ減少スルコトナキカ若クハ貸付殘額ヲ擔保スル丈ノ價格ヲ留保スルコトヲ確メ得ル場合ニ限リテ之レヲ許スモノトス典物ノ一部分ヲ返還スルコトヲ許スモ亦如上ノ條件ヲ具備スル場合ニ限ル、賦拂及典物ノ一部ノ返還ヲ行ヒタルトキハ舊質入證券ニ代ヘテ新ナル質入證券ヲ交付シ償還期限ハ更ニ此ノ時ヨリ起算セラル

十五、質入契約ノ締結

典物ノ收受ヲ拒ムヘキ故障無キ場合ニハ當該事務員ハ典物ノ價格ヲ鑑定シ之レニ相當スル貸付金額ヲ質入人ニ通知シ質入人カ即時ニ貸付額ノ不當ニ低キ故ヲ以テ契約ノ締結ヲ拒ムトキハ典舖ハ何等ノ手數料ヲ徴スルコトナクシテ典物ヲ質入人ニ返還ス反之典質人カ即時ニ契約ノ締結ヲ拒ムコトナキトキハ契約ハ茲ニ成立シ質入人ハ貸付金額及質入證券ヲ交付セラル

十六、質入證券

質入證券ニ記載スル事項左ノ如シ

- 1、番號及順序數字
- 2、發行日
- 3、貸付金額及償還期限
- 4、典物

5、典物ノ鑑定價格、有價證券ニアリテハ時價、貯金帳ニアリテハ貯金高

6、毎月分利息額、國債證券ツノ他ノ有價證券利札及貯金帳ニアリテハ利子歩合

7、本所又ハ支所ノ區別(典物ヲ收受セル)

8、國債證券ツノ他ノ有價證券利札及貯金帳ニアリテハ現金出納係及記帳係又ハツノ代理者ノ署名、ツノ他ノ物品ニアリテハ鑑定人現金出納係又ハツノ代理者ノ署名

十七、質入契約ヨリ生スル典舖ノ權利

典舖ハ質入人ヨリ貸付金ノ元利、質入證券ノ交付ヲ受ケタルトキニ限り典物ヲ返還スルコトヲ得典物カ盜難ニ罹リツノ他紛失スルトキモ質權ヲ失フコトナシ

十八、質入契約ヨリ生スル典舖ノ義務

典舖ハ典物ノ汚損火災盜難ニ對シ及フ丈ケノ保護ヲ爲サ、ルヘカラス毛皮ハ特別ナル注意ヲ拂フヲ要シ之ニ對シ典舖ハ特別ノ手數料ヲ徴スルコトヲ得火災ニ對シ特別ノ保護設備ヲ爲セル有價證券利札及貯金帳ヲ除キツノ他ノ典物ハ凡テ火災保險ニ付ス保險料ハ典舖之レヲ負擔ス火災保險金ハ典舖ノ債權額ヲ引去リテ質入人ニ交付スルモノトス

典物保管事務員ノ不注意ニ因ラスシテ不可抗力、典物ノ性状貯藏上ノ自然ノ結果、蟲害等ニ因ル典物ノ損害ニ對シテハ典舖ハ賠償ノ義務ヲ負フコトナシ事務員ノ不注意ニ原因スル紛失又ハ損害ニ

對シテハ鑑定價格ヲ限度トシテ賠償ノ義務ヲ有ス

十九、質入契約ノ更新

契約期限ノ到來スル迄ニ質入人ハ質入證券ヲ提供シテ契約ノ更新ヲ請求スルコトヲ得質入人ノ身分、典物ノ性状ニ關シテ何等危惧スヘキ點ナク且契約締結當時以來ノ利息及手数料ノ全部支拂ヲ受ケタルトキハ典舖ハ契約ノ更新ヲ承諾ス、新契約ノ期限ハ舊契約ノ期限ニ等シ、交付ヲ受ケタル舊質入證券ニ代ヘテ典舖ハ新質入證券ヲ交付ス

二十、質入契約ノ消滅

典物ノ受戻ハ原則トシテ質入證券持參人之レヲ爲シ得ルモノトス典舖カ持參人ニ典物ヲ交付セルトキハ質入契約ヨリ生スル凡テノ義務ヲ免除セラル、モノトス典舖ハ質入證券持參人ノ正當ナルヤ否ヤヲ調査スル權利ヲ有スレトモ義務ヲ負ハス但持參人カ正當ナル權限ヲ有スルヤ否ヤニ付疑ヒアルトキハ持參人ヲシテ正當ナル權限ヲ有スルコトヲ證明セシムルコトヲ得

二十一、質入證券紛失ノ場合

質入人カ質入證券ヲ紛失セルトキハ直ニ典舖ニ申告スルコトヲ要シ申告ニハ質入證券ノ番號ソノ他重要ナル事項ヲ明ニセサルヘカラス申告者ハ申告セルコトノ證明書ノ下附ヲ請求スルコトヲ得

但證明書下付手数料トシテ五十「マルク」以上ノ貸付ニアリテハ五十「ペンニヒ」五十「マルク」以下ノ貸付ニアリテハ二十五「ペンニヒ」ヲ納付スルコトヲ要ス

二十二、質入證券ノ提供無クシテ典物ノ返還ヲ請ヒ得ル場合質入證券紛失ノ申告ヲ爲シタル者ハ質入證券占有者カ現出セス且ツ何等ノ異議ヲ申出ツル者ナキ場合ニ限り典物ノ交付ヲ受クルコトヲ得但典物及質入證券ニ對シテ正當ナル權限ヲ有スル旨ヲ證明セサルヘカラス

典物ノ價格カ五十「マルク」以上ナルトキハ申告者ハ典舖ノ既ニ行ヒタル公告ニ對シ手数料ヲ納付スルコトヲ要ス但貯金帳ヲ典質ノ目的トスル場合ハ此ノ必要ナシ公告トハ質入證券占有者ハ八日間ニツノ旨申告スヘキ旨ヲ公ニセルモノヲ云フ

質入證券ヲ提供セスシテ典物ノ交付ヲ請求スル者ハ典舖ニ對シテ貸付金ノ元利ツノ他ノ手数料ヲ支拂ヒ且ツ典物ノ鑑定價格ニツノ二割五分ヲ加ヘタルモノト貸付元金トノ差額ニ相當スル擔保ヲ供託スルコトヲ要ス只貯金帳ヲ目的トスル典質ニアリテハ右相當額ヲ貯蓄金庫ニ就キ貯金現在高ノ内ヨリ控除シテ典舖ノ債權ニ移記セシムルコトヲ以テ足ル擔保ハ第三者ヨリ提出スルコトアルヘキ異議ニ對シテ要セラル、モノニシテ異議カ終了ヲ告ケタル時初メテ當事者ニ返還セラル若シ全然異議ノ起ラザリシ場合ニハ質入契約終了期限ノ到達ニ次テ起ルヘキ競賣處分又ハ賣却處分ニ次ケル年度ノ經過スルヲ俟ツテ初メテ當事者ニ返還セラル

二十三、紛失申告者ニ競賣又ハ賣却ニヨリ生スル剩餘金ヲ交付スルコト

申告者カ典物ノ返還ヲ請求セス且第三者ヨリモ異議ノ提供無キ限りハ典物ハ契約期限ノ到來ニヨリテ競賣又ハ賣却ニ付テ競賣又ハ賣却ニヨリテ得タル賣得金ヨリ典舖ノ債權ツノ他競賣賣却ニ要シタル費用ヲ控除シテ尙剩餘金ヲ生シタルトキハ申告者ハ先キニ受ケタル申告證明書ノ返納ニ代ヘテ剩餘金ノ下付ヲ受クルコトヲ得但第三者カ競賣又ハ賣却ニ次ケル年度ノ經過スル迄ニ異議ヲ提供スルコトナキ場合ニ限ル若シ申告者カ競賣又ハ賣却ニ次ケル年度ノ經過後四週間内ニ剩餘金ヲ請求セサルトキハ剩餘金ハ典舖ニ歸屬スルモノトス

二十四、質入證券ノ呈示ニ關スルコト

紛失ノ申告アリタル後ヨリ申告者ニ典物ノ交付ヲ爲サ、ル迄ノ間ニ第三者カ質入證券ヲ呈示シタルトキハ典舖ハ一方ニ於テハ呈示者ノ身分ヲ調査シ呈示者ニ對シテ質入證券領收書ヲ交付シ他方ニ於テハ紛失申告者ニ對シテ呈示者ノ身分、呈示ノ事實ヲ通告ス呈示以外ノ方法ニヨリテ典舖カ質入證券占有者ヲ知り得タル場合ニモ亦申告者ニ對シテ占有者ノ身分ヲ通告スルモノトス

典舖ヨリ申告者ニ對シテ右ノ通告ヲ爲シタル後六週間内ニ占有者ト申告者トノ間ニ和解ノ調ハサルトキ、何レカ正當ノ權利者ナルヤニ付キ裁判所ノ決定ナキトキ、ツノ他典舖ノ身分處分ヲ阻害ス

ヘキ裁判行爲ナキトキハ典舖ハ占有者ヲ以テ正當ナル權利者ト看做ス、申告者ニ通告ヲ爲シタル後六週間内ニ占有者カ典物ノ受戻ヲ爲サ、ルトキハ典舖ハ典物ヲ競賣ニ附ス

二十五、和解ノ調停

占有者ト紛失申告者トノ間ノ和解ハ市參事會又ハ市廳ノ公吏之レヲ試ムルモノトス

二十六、違法ナル典物ニ附テノ申告

第二十一段乃至二十五段ニ述ヘタル事項ハ質入證券ノ占有ヲ失ヒタル所有者ツノ他正當ナル權利者カ不法ナル質入人ニ對シテ典舖ノ違法ナル旨ヲ典舖ニ申告セル場合ニモ適用アリ

二十七、流質

質入人カ質入證券ニ記載セル償還期限迄ニ典物ノ受戻ヲ爲サ、ルトキハ典物ハ流質トナル此ノ場合ニハ國債證券ツノ他ノ有價證券利札及貯金帖ヲ典舖トスル場合ノ外ハ典舖ハ貸付金ノ各「マルク」毎ニ五「ベンニヒ」ニ相當スル流質手数料ヲ徴收スル債權ヲ取得ス

流質トナリタル典物ハ質入人カ凡テノ債務ヲ履行セルトキハ競賣期ノ到來ニ先チテ尙受戻ヲ爲スコトヲ得ヘク又ハ契約ノ更新ヲ請フコトヲ得競賣ノ日ニ於テモ競賣價格申出ノ起ラサル前ニ於テハ亦然リ

二十八、典物ノ賣却、競賣

償還期限ノ到達迄ニ質入人カ典物ノ受戻ヲ爲サス又ハ契約ノ更新ヲ爲サ、ルトキハ國債證券ソノ他ノ有價證券利札及貯金帳ヲ除クノ外凡テノ典物ハ競賣ニ附ス競賣ノ場所時日ハ四週間以前ニ市ノ公報ヲ取扱フ「ドレズドナト、アンツアイガー」ツノ他ノ新聞紙ニ公告シ且典舖ニ揭示ス
 競賣ニ附スヘキ典物ノ目録ハ四日前ニ公示シ典物ハ競賣ノ初マル二時間以前ニ公衆ノ閱覽ニ供ス

事務員、使用人ハ競買人タルコトヲ得ス競買價格申出カ一ツトシテ典舖ノ債權ヲ掩フニ足ラサル場合ニハ典舖ハ競賣ヲ中止ス、何等競買價格申出ナキ場合亦然リ、此ノ如キ典物ハ自由賣却ニ附ス但典舖ノ債權ヲ掩フニ足ル程度ヲ以テ賣價ノ最少限度トス自由賣却ノ成立セサル場合ニハ典舖ハ再ヒ之レヲ競賣ニ附ス此場合ニハ最高競買價格申出カ典舖ノ債權ヲ掩フニ足ルト否トヲ問ハス最高競買價格ヲ申出テメル者ハ即チ競買人トナル

二十九、有價證券、利札及貯金帳ノ賣却

質入人カ流質トナリタル有價證券利札又ハ貯金帳ノ受戻若クハ契約ノ更新ヲ爲サ、ルトキハ典舖ハ之レヲ銀行ニ賣却シ競賣ニ附スルトコトナシ只例外ノ場合即チ普通賣却ノ方法ニ依ラントスルトキハ時日ノ遷延スルカ爲メニ典舖ニ損失ノ生スヘキ虞アルトキニ限り即時競賣ニ附スルモノトス

典物ノ時價カ貸付金ノ元利合計額ノ九割五分以下ニ低落スルトキハ典舖ハ償還期限ノ到達ニ先チテ典物ヲ賣却スルコトヲ得

三十、典物ノ瑕疵ニ對スル典舖ノ責任

典舖ハ競賣又ハ賣却セラレタル典物ノ瑕疵ニ對シテ擔保ノ責ニ任スルコトナシ

三十一、剩餘金

競賣又ハ賣却セラレタル典物ノ對價カ典舖ノ債權(貸付元利、手数料)及競賣賣却ニ要シタル費用ヲ控除シテ尙剩餘ヲ生シタルトキハ剩餘ノ額カ十「ペンニヒ」以上ニ達スル場合ニハ質入證券持參人ニ之レヲ交付ス、質入證券持參人ハ競賣又ハ賣却ニ次ケル年度ノ終リ迄ニ剩餘金ノ請求ヲ爲スヘキモノトスソノ他第二十段ニ述ヘタル事項ハ此場合ニモ適用セララル

剩餘額カ十「ペンニヒ」以下ニ止マルトキ若クハ第二十八段ニ從ヒテ自由賣却ニ附セラレ又ハ第二次ノ競賣ニ付セラレタル場合ニハ剩餘金ハ全然常ニ典舖ニ歸屬ス

典舖ハ剩餘金ノ支拂ヲ爲スヘキ旨ヲ競賣又ハ賣却ニ次ケル年度ノ終リ迄ニ公告ス年度ノ終リ迄ニ支拂ヲ請求セラレサル剩餘金ハ第二十三段ノ場合ノ制限アル外ハ即時典舖ニ歸屬ス

第五、統計

(「マルク」單位)

年度	貸付		収入	支出	資産	準備金
	有價証券貯金帖	他ノ物品				
1900	3,018,202	1,663,913	181,270. ³⁵	136,326. ³⁰	600,000	48,756. ¹⁴
1901	2,820,462	1,656,323	172,081. ³⁸	147,830. ⁷	600,000	30,000
1902	2,574,236	1,560,376	171,021. ³²	152,474. ⁶⁸	600,000	30,000
1903	2,554,290	1,401,912	158,144. ³³	89,170. ³⁰	600,000	30,000
1904	2,454,214	1,409,106	148,696. ³⁰	148,223. ⁶¹	600,000	30,000
1905	2,340,127	1,482,014	150,029. ³⁵	143,598. ³⁵	600,000	34,464. ³⁵
1906	2,264,834	1,515,404	163,034. ³⁰	144,569. ³¹	600,000	46,669. ³⁵
1907	1,968,828	1,571,726	171,209. ³⁰	141,962. ³⁰	600,000	60,000
1908	2,455,543	1,791,262	188,534. ³⁵	147,522. ⁷⁰	600,000	60,000

典舖ノ設立以來貸付ケタル金額ハ一億五千六百五十一萬五千四百九十一「マルク」典物個數ハ八百六十八萬三千二十一ニシテ貸付利子收入五百六十五萬九千八百六十二「マルク」事務員及使用人ニ與ヘタル俸給諸給ハ三百五萬六千七百五十六「マルク」ヲ計上ス

第三款 私人ノ側ヨリスル社會政策

私人ノ側ヨリスル社會政策モ亦積極的方面ニ於テモ將タ消極的方面ニ於テモ少カラズ今左ニ重ナルモノヲ紹介スヘシ

第一章 産業組合

第一節 概説

第一項 觀念

千八百八十九年五月一日産業組合法ニ認ムル産業組合トハ區裁判所ニ登記ヲ爲セル社團法人ニシテ組合員ノ産業又ハ經濟ノ進捗ヲ企圖スルコトヲ目的トスルモノナリ
故ニ法律上ノ觀察トシテ登記ヲ爲スコトカ要件ナリ登記ナキ産業組合ハ産業組合法ノ認ムル所ニ非ラス産業組合トシテノ權利義務ノ主體タルコトヲ得ス普通ノ民法ノ支配ヲ受クル組合タルニ止マル又産業組合ハ組合員ノ團體ニシテ資本ノ團體ニ非ラス組合ノ基本ハ株式會社ノ如キモノト異リ人ニ在リ資本ニ在ラス各組合員カ平等ニ一個ノ議決權ヲ有スルハ此ノ結果タリ
經濟上ノ觀察トシテハ専ラ組合員間ノ經濟的利益ヲ進捗スルヲ目的トス經濟的利益ノ進捗ヲ企圖スル

以上ハ其ノ目的ニ於テ間然スル所ナキカ如ク從テ産業組合ノ行ハルヘキ産業ノ範圍ハ限定セラルヘキ理由ナキニ似メリ然レトモ觀テ考フルニ産業組合ノ活動ハ經濟理法ノ大原則タル分業ヲ破壞スルノ作用ヲ有ス例ヘハ消費組合ニアリテハ生活必需品ニ關スル中間商業ヲ排除シ原料購買組合ニアリテハ手工業者ヲシテ中間商業者トノ交通ヲ無用ニ歸セシム蓋シ是等ノ場合ニハ分業ノ理法ノ無限ニ行ハル、コトハ經濟上弊害ヲ醸スニ由ルナリ産業組合カ分業ノ作用ヲ牽制麻痺セシムルハ分業カ經濟上ノ必要以上ニ擴張セラル、カ故ナリ此ノ見地ヨリスレハ産業組合ノ行ハル、ハ分業ノ行ハル、コトカ經濟上ノ進歩ニ害アル場合ニ限ル從テ産業組合ハ寧ロ例外トシテ行ハルヘキモノナリ原則ハ分業ニ在リ例外ハ産業組合ニアリ而シテ果シテ如何ナル場合ニ産業組合カ適用セラルヘキヤハ實驗ニヨリテ決スル外ナシ例ハハ、Tiers 氏ノ說ニヨレハ信用組合及購買組合ハ村落ニ發達スルモパン焼キ組合乃至屠肉組合ハ村落ニ適當セサルハ從來獨ノ實例ノ證スル所ナリ社會上ノ觀察トシテハ資本本位主義ノ跋扈ニ對シテ貧者ヲ保護スルノ手段タリ從テ社會政策ノ目的ヲ有ス又組合内部ノ行政ハ組合員ノ自治ニ依ルヲ組合存續ノ要件トス從テ産業組合ハ又組合員ノ精神的倫理的修養ノ一助タリ

第二項 獨逸國家ノ産業組合ニ對スル態度

産業組合ノ一方ノ創設者タルシユルチエ、デリッテ、及之ニ屬スル一派ハ産業組合ノ發達ハ徹頭徹尾組

合員ノ自治ノ精神ニアリトシテ國家ノ保護乃至干涉ハ組合ノ發達ヲ妨害スルモノナリトノ見地ニ在ルニ拘ハラズ事實ニ於テ獨逸諸國ノ聯邦ハ何レモ社會政策見地ヨリシテ産業組合ノ發達ヲ獎勵シ運轉資金ノ供給ヲ與フルニ躊躇セズ只シユルチエ、デリッテ、ノ主義ヲ抱持スル産業組合ハ專ラ組合員ノ貯金ニヨリテ資本ノ充實ヲ爲シ絶ヘテ國家ノ補助ヲ仰カサルヲ實況トス

普國國家ノ産業組合ニ對スル保護ハ實ニ普國中央産業組合金庫ノ活動ニ在リ左ニ之ヲ述フヘシ

一、金庫成立ノ歴史

普國ニ於ケル都市ノ産業組合特ニシユルチエ、デリッテ、主義ニ屬スル産業組合ハ活動ノ資力充分ニシテ國家ノ保護ヲ受クルコトヲ要セサルニ反シ發達ノ順序ニ於テ比較的幼稚ナルモノ特ニ田舎ノ産業組合ニ對シテハ國家ハ宜シク相當ノ補助ヲ與フルノ必要アリトノ輿論ニ鑑ミ千八百九十五年四月八日時ノ普國大藏大臣 Miquel 氏ハ金庫案ヲ議會ニ提出シ七月三十日確定法律トナリ九月一日ヲ以テ金庫ノ成立ヲ告グルニ至レリ而シテ國家ヨリ貸與セル資本高ハ金庫創立當初ハ五百萬「マルク」ナリレカ千八百九十六年四月八日ニ至リテ二千「マルク」ニ増加シ千八百九十八年四月二十日ニハ五千萬「マルク」ニ上リ以テ今日ニ及ヘリ而シテ金庫ノ得ヘキ純益ノ分配ニ付キ法ハ規定シテ曰ク純益ノ五分ノ一ハ之レヲ準備金ニ五分ノ四ハ政府ヨリ借入資金ノ利子トシテ三分ヲ限度トシテ政府ニ納入シ猶殘餘アラハ更ニ準備金ニ編入スヘシト

二、金庫ノ作用

金庫成立ノ目的ハ産業組合ノ金融調和ノ中央機關タリ資本ノ缺乏セル組合ニ資本ノ貸付ヲ爲シ又ハ組合ノ一方ニ資金ノ餘裕アリテ他方ニ缺乏ヲ感セル場合ニ兩者ノ需要供給ヲ調和シ且ツ組合ヨリ金庫ヘノ預金ヲハ有利ニ利殖スルニ在リ但金庫ハ個々ノ産業組合ト直接相關渉スルニ非スシテ組合連合會(組合ノ連合タリ)ト交渉シ組合連合會ハ亦獨立ノ財政ヲ有シ特別ノ金庫ヲ有シテ管下ノ各個組合間ノ金融ノ調節ヲ司ル普國中央産業組合金庫カ個々ノ組合ト直接ニ關渉スルコトヲ避クル所以ハ個々ノ組合ノ事情、資力等ヲ普ク知ルコトハ事實不可能ナレハナリ而シテ金庫ノ資金貸付ノ範圍ハ主トシテ村落ニ在ル組合ニアリ即チ農業的産業組合ニ多クシテ都市的又ハ工業的ニハ少シ之レ必要ノ有無ヨリ來ル結果ニ外ナラス

三、金庫ノ法律上ノ資格

金庫ハ獨立ノ一法人タリ國家ヨリ資金ノ供給ヲ受クルヲ以テ國家ノ監視ヲ受ク即チ主トシテ大藏大臣ノ支配ニ屬ス但國家ノ營造物ニハ非ス獨立ノ法人ナリツノ金庫ハ獨立ノ法人ノ金庫ニシテ普國國家ノ金庫ニ非ス
銀行業務ヲ營ムヲ以テ商法ノ支配ヲ受ク國庫トノ關係密接ナルカ故ニ收入支出ノ豫算ハ年々議會ニ提出セラレ會計ニ付テハ會計検査院ノ検査監督ヲ受ク

法ノ規定ニ依リテ供託所タル地位ヲ有シ被後見人財産ノ預金所タリ又役員ハ凡テ國家ノ官吏タル資格ト義務ヲ有ス

四、金庫内部ノ行政

行政ノ首腦ハ理事ニシテ理事長之レカ長タリ理事ノ諮問機關トシテ産業組合ニ關係アル人々ヨリ成レル顧問アリ行政ハ銀行部ト統計部トニ分ル銀行部ハ金庫本來ノ任務タル金融事務ヲ取扱ヒ統計部ハ産業組合ノ統計ヲ蒐録シテ之レヲ公ニス

五、利息政策

組合連合會ニ供給スル資金ノ利息ハ少クトモ一營業年度間ハ一定不動ナラシメ且ツ出來得ル限り一般金利ヨリモ低歩ヲ以テ貸出スノ方針ヲ取り組合連合會ノ手形割引歩合及有價證券擔保貸付歩合ハ主トシテ獨帝國銀行ノ歩合ニ準シテ之レヲ定ム

六、統計

千九百八年ノ調査ニヨレハ金庫ヨリ金融ヲ請ヒタル連合組合ノ數ハ五十四個ニシテ之レニ屬スル組合數一萬五千三百五十三組合員數百五十一萬九千九百九アリ貸付ケタル金額ハ二千八百三十一萬二千三百五十「マルク」手形割引高ハ六千九百三十萬六千八百「マルク」ニシテ貸付利子ハ平均三分六厘九毛ニシテ割引歩合ハ五分四厘七毛ナリ

第三項 種類

産業組合ハ觀察點ノ異ナルヨリシテ種々ニ分類スルコトヲ得

一、産業組合法ノ分類

産業組合法ハ例示的ニ左ノ七種ヲ掲グ

- 甲 信用組合
- 乙 原料組合
- 丙 販賣組合及倉庫組合
- 丁 生産組合
- 戊 消費組合
- 己 購買組合
- 庚 建築組合

二、産業組合ト經濟組合

三、都市ノ組合ト村落ノ組合(Nieder氏分類)

四、配分的組合ト生産的組合トニ分チ前者ニ屬スルモノヲ信用組合、原料組合、消費組合、企業場組合、建

築組合、倉庫組合トシ後者ニ屬スルモノヲ生産組合トス

五、購買者組合ト販賣者組合(Oppenheimer氏)

六、購買組合、加工組合及販賣組合(Kaufmann氏)

七、企業者組合、販賣組合、勞働者組合、購買組合、消費者組合

第四項 産業組合ノ機關組織及財政

産業組合ノ行政機關トシテハ議決機關タル組合員總會、業務執行機關タル理事、理事ノ監督機關タル監事アリ、組合ノ定款及理事ノ氏名ハ登記スルコトヲ要シ定款ノ變更ハ組合員總會ノ議決ニ依リテ成立ス組合連合會ハ管下組合ノ實況ヲ少クトモ一年毎ニ一回検査スルコトヲ要シ組合連合會カ検査ヲ實行セサルトキハ裁判所之ヲ行フ

産業組合ノ責任組織ハ無限責任、有限責任及保證責任ノ三種タルコト我國ノ産業組合ト同シ但責任ノ體様ハ彼我相異レリ後ニ述ヘン

組合ノ財政ハ原則トシテ組合員ノ出資拂込高及貯金ヨリ成ル然レトモ大ナル信用組合特ニシユルチエ、デリッチュノ信用組合ハ「ドレスデン」銀行ヨリ資金ノ融通ヲ仰キ發達幼稚ナル田舎ノ産業組合又ハ建築組合ノ如キハ普國中央産業組合金庫ヨリ資金ノ借入ヲ爲シ或ハ不動産信用機關殊ニ州立救助金庫ヨ

リ資金ノ融通ヲ請フモノ多シ

第二節 各論

以下項ヲ追フテ獨内ノ重ナル産業組合ノ實況ヲ述ヘン(Class)ノ分類ニ從フ)

第一項 信用組合

一、任務

信用組合ハ組合員ニ信用ヲ與フルヲ目的トスル産業組合ナリソノ任務ハ主トシテ中産者社會ニ生産資本ヲ供給シ以テ生産手段ノ購買、生産乃至販賣ヲ容易ナラシメ之レニヨリテ大資本家ト競争スルコトヲ得セシムルニアリ之レヲ獨ノ信用組合ノ活動ニ照ラスニ信用組合アルカ爲メニ中産社會ハ便利ナル資金ノ供給ヲ得之レアルカ爲メニ高利貸ノ苦手ヲ脱スルヲ得ル手工業者、小工業者、小商人、小農業者ノ數頗ル多シ蓋シ近世經濟現象ノ變轉、經濟技術ノ進歩、交通状態ノ發展ハ大資本家ニ對抗セントスル中産業者ノ爲メニ特別ノ信用機關ヲ必要トスルニ至リ此ノ必要ニ應シテ起リタルモノ即チ信用組合トス

信用組合カ金錢信用ノ外ニ物品信用ヲ組合員ニ與フルコトハ産業組合法ノ禁止スル所ニ非スト雖モ

ソノ結果ノ良好ナラサルヲ虞レ既ニ千八百九十年「ダラムスマット」市ニ於ケル産業組合大會ニ於テハ「爲サ、ルコトヲ勸ム」ノ決議ヲ爲シ何レノ信用組合モ物品信用ノ供給ヲ爲スモノナシ

二、歴史

信用組合ハソノ萌芽ヲ獨逸ニ發シ迅速ニ他ノ文明諸國ニ波及セリ信用組合ノ創設者ヲシユルチエ、デリツチエ及ライフアイゼンノ二氏トス二氏殆ント同時ニ信用組合ヲ創立セリ時ニ千八百五十年代ナリキ前者ノ信用組合ハ主トシテ都市ニ行ハル、ヲ目的トシ後者ハ村落ニ行ハル、ヲ目的トス組合ノ數及組合員ノ數ニ於テハ前者ハ後者ニ優ル

信用組合カ獨逸ニ於テ年ヲ追フテ盛大ニ赴ク所以ハ千八百六十七年ノ法律ニヨリテ之ニ法人ノ資格ヲ認メタルト千八百八十九年ノ法律ニヨリテ從來認メサリシ有限責任ノ組織ヲ許シタルト千八百九十年代ノ半頃ヨリ國家カ之ニ保護ヲ與フルトニヨリテソノ發達ヲ容易ナラシメタルニアリ

三、組織及財政

信用組合ノ機關ハ産業組合法ノ命スル所ニ從ヒ組合員總會、理事及監事ナルコト他ノ産業組合ト異ル所ナシ理事ハ業務ヲ執行シ且外部ニ對シテ組合ヲ代表ス監事ハ理事ヲ監督シ組合員總會ハ理事ノ權限ニ屬セサル凡テノ事項特ニ貸借對照表、損益計算表ノ檢閲、定款ノ變更等ヲ決議ス而シテ總會ニ於テ有スル組合員ノ議決權ハ出資ノ多少ニ拘ハラズ各員一個ニ限ル

産業組合法ハ信用組合カ信用ヲ與フル相手方ハ只組合員ノミニ限ルヘキコトヲ規定ス

組合員ハ一個又ハ數個ノ出資ヲ爲スコトヲ得但數個ノ出資ヲ有スルコトヲ得ルハ有限責任組織ノ組合ニ限ル

出資ノ拂込ハ組合員ノ分割拂込及拂込タル高ニ應シテ組合員ニ歸屬スヘキ利益配當分ノ振替ニヨリテ行ハル

組合員ノ責任ハ組合ノ組織ニヨリテ異ル無限責任及無限保證責任ニアリテハ組合ノ債務ニ付組合員カ無限ノ責任ヲ有スルコトハ彼是相同シ只前者ニアリテハ組合ノ債權者ハ直接ニ組合員ニ債務ノ履行ヲ迫リ得ルニ反シテ後者ニアリテハ間接ニ若ハ第二次ニ組合員ニ履行ヲ迫リ得ルノ差アルノミ有
限責任ニアリテハ組合員ハ出資額又ハ以上ノ額(定款ニ規定ス)ヲ限度トシテ責任ヲ負フコト凡テノ他ノ産業組合ニ於ケルト同シ無限責任、有限責任ノ何レカ優レルヤハ一概ニ斷定スルコトヲ得ス發達ノ既ニ充分ナル組合ニアリテハ有限責任ニ變更スルモ妨ケナシト雖モ幼稚ナルモノニアリテハ無限組織ヲ採用スルコト必要ナリ然ラズンハ組合カ他人ヨリ資金ノ借入ヲ爲ス場合ニ際シ信用ノ厚薄ヲ來セハナリ但信用ノ厚薄ヲ來スハ單ニ責任組織ノ如何ニノミ由ルニ非ス理事監事ノ人物資産信用ノ如何ニアルヤ論ヲ俟タス(産業組合實際家 Crüger 氏說)資本供給ノ方法ハ組合ノ財産ト他人ヨリノ借入金トニアリ組合ノ財産ニ屬スルモノハ準備金及組合員ノ組合ニ對シテ有スル債權トシテ準備

金ハ組合員ノ入會金及純益ノ繰入レトヨリ成リ組合員ノ債權トハ出資ニ對スル拂込高及組合員ニ歸屬スヘキ利益配當分ノ蓄積トヨリ成ル他人ヨリノ借入金ハ組合員竝ニ第三者ノ貯金ノ外「シユルチエ」デリツチユ「信用組合ニアリテハ」ドレスデン「銀行ヨリノ借入」「ライフアイゼン」信用組合ニアリテハ主トシテ普國中央産業組合金庫ヨリノ借入ヨリ成ル

普國中央産業組合金庫役員 Petersilie 氏調査ニヨレハ千九百五年度ニ於テ獨逸全國ノ凡テノ産業組合ニ在ル組合員ノ貯金高ハ十二億「マルク」ニ及ヘリト云フ

信用組合ノ業務ハ組合員ニ信用ヲ與フルコト組合員カ他人ニ販賣セル物品ノ代價ニ對スル債權ノ割引及他ノ銀行的業務ニアリテ只普通ノ銀行ト異ル所ハツノ取引先カ單ニ組合員ニ限局セラルル點ニアリ
信用組合ハ多クハ組合連合會ヲ組織ス組合連合會ハ之ニ屬スル組合全般ノ利益ヲ計リ定款ノ作成帖簿ノ記入ニ關シテ配下組合ニ模範的雛形ヲ指示シ自己又ハ部下ノ更ニ小ナル組合連合會ヲ通シテ各個ノ組合ノ財産狀況ヲ檢閲シ且各個組合間ノ金融遇不及ヲ調節スル爲ニ連合會金庫ヲ組織ス連合會金庫ハ亦一個ノ獨立セル組合ニシテ登記スルコトヲ要シツノ組合員ハ即チ之ニ配屬セル組合ヨリ成ルモノトス

信用組合ノ利息政策ハ如何ト云フニ組合員及組合員以外ノ第三者ノ貯金ニ對シテ組合ヨリ與フル利

息ハ大抵常ニ一定不動ノ歩合ヲ示シ且市立貯蓄金庫(SparKasse)ノ利子(普通一般ノ金利ヨリ稍低シ)ニ準シツノ他ノ借入金ニ與フル利子ハ主トシテ普通一般ノ金利ニ從フ組合員ニ對スル貸付利子ハ保證債務ト然ラサルモノト又期限ノ長キト短キトニヨリ種々ニ分ル唯概言セハ普通ノ金利ニ準スト云フヲ當レリトス現ニ千九百四年「プレスラウ」市ニ開カレタル産業組合大會ニ於テモ貸付利子ハ普通ノ金利ニ準スヘキ旨ヲ決議セリト云フ

茲ニ特ニ記スヘキハ獨ニ於ケル信用組合ノ將來ノ運命ナリ獨逸内ノ大銀行ハ漸次相互ニ合併スルノ方針ヲ取り各所ニ支店ヲ設ケテ信用組合ニ對抗シツ、アリ加之機械工業ノ發達ト共ニ手工業者ハ漸クツノ職ヲ失ヒツノ當然ノ結果トシテ從來自己ノ屬シタリシ信用組合ヲ去リツ、アリ信用組合ノ前途蓋シ寒心ニ堪ヘサルモノアリトハ當局者ノ談ナリ

四、「シユルチエ、デリッチユ」信用組合ト「ライフアイゼン」信用組合トノ異同

兩派ハ從前ニハ互ニ相反抗シ各自爭フテ自己ノ組合ヲ普及センコトニ務メタリシカ近時ニ於テハ兩者ノ反目漸次相薄ラキ寧ロ兩者ハ相提携シテ組合ノ發達ニ力ヲ盡スコト、ナレリ從テ實際ニ付テ見ルモ兩者ノ性質上ノ差異ハ漸クツノ跡ヲ收メントスルノ傾向アリ

兩者共ニ自治ノ精神ニ本キ組合員ニ對人信用ヲ與フルヲ主眼トシ組合員竝ニ第三者ノ貯金ヲ收容シ共ニ連帶債務ノ基礎ヲ有スルノ組合タル點ニ於テハ相同シツノ異ル所ハ「シユルチエ、デリッチユ」式

ニアリテハ主トシテ經濟的ニ業務ヲ經營スルニ反シ「ライフアイゼン」ニアリテハ經濟的以外ニ寧ロ倫理的宗教的ノ臭味ヲ帶ヒ從テ事實上教會ノ經營ニ成ル所ノ信用組合頗ル多シ「ライフアイゼン」式ニアリテハツノ組合ノ區域ハ一個ノ教會區又ハ一村ト云フ如ク狹隘ナル部分ニ限局セラレ「シユルチエ、デリッチユ」式ニアリテハ區域ヲ一定セス可成弘ク組合員ヲ收容スルヲ理想トス「ライフアイゼン」ニアリテハ組合員ニ利益ノ配當ヲ爲サス利益アルトキハ之ヲ公益事業ニ投スルカ又ハ組合ノ準備金ニ編入スルニ反シ「シユルチエ、デリッチユ」ニアリテハ組合員ニ可成多クノ利益ノ配當ヲ行ヒ之ヲ以テ組合員ノ加入ヲ誘導スルノ武器トス「ライフアイゼン」ニアリテハ「シユルチエ、デリッチユ」ト異リ理事ハツノ職務ヲ無報酬ニテ掌理ス唯會計事務ニ從事スルモノニ些少ナル報酬ヲ給スルノミ從テ經費ノ點ニ於テハ「シユルチエ、デリッチユ」ヨリモ少クシテ足ルノ利アリ又「シユルチエ、デリッチユ」式ト異リ出資ノ制度無ク唯貯金ニヨリテ資本ノ充實ヲ計ルヲ本位トス「ライフアイゼン」ニアリテハ十年ニ亘ル如キ長期ノ信用ヲ與ヘ「シユルチエ、デリッチユ」ニアリテハ三箇月乃至六箇月ヲ最長期トスルノ差異アリ

以上ハ成立當時ニ於ケル兩者ノ差異ヲ掲ケタルモノナルカ千八百八十九年産業組合法ノ發布アリテ信用組合ニ對シ統一の制度ヲ強ヒタル以來兩者ノ差異ハ漸次融和シ來リ今日ニ於テハ事實上兩者間ニ著シキ差異ヲ見出し得サルノ實況ヲ呈セリ

兩者ノ制度組織ノ優劣ニ關シテハGibson氏ノ比較論評ハ公平ト認ム左ニ之ヲ紹介スヘシ
 「シユルチエ、デリッチュ」派ハ「ライファイゼン」派ノ信用組合ヲ批難シテツカ與フル所ノ信用ハ長期
 ナルニ反シツノ借入レタル資金ハ短期ノ回收ヲ爲スヲ必要トス從テ此點ニ於テ既ニ財政ノ基礎薄弱
 ナルヲ示スノミナラス出資ノ皆無ナルコト又ハ僅少ニ止マルコトハ組合ノ存續ヲ危クスルモノナリ
 ト云フト雖モ信用組合ノ成立即チ千八百五十年代以來今日迄ノ實績ニ徴スレハ「ライファイゼン」ノ
 信用組合ニシテ破産ニ陥リタルモノハ極メテ少キニ反シ「シユルチエ、デリッチュ」ノ信用組合ニアリテ
 ハ此ノ運命ニ遭遇シタルモノ却テ多數ナルノ事實アリツノ然ル所以ノモノハ「ライファイゼン」ニア
 リテハ組合ノ區域狹隘ナル範圍ニ限局セラレ組合員ノ經濟狀態ハ悉皆組合ニ知レ渡レルニ反シ「シ
 ュルチエ、デリッチュ」ニアリテハ區域弘ク且ツ種々ノ職業ヲ有スルモノヲ組合員トスルカ爲メニ信
 用ヲ與フル點ニ於テ精粗ノ差異アルノミナラス「シユルチエ、デリッチュ」ニアリテハ可成多クノ純益
 ヲ得シコトヲ理想トスルヲ以テ全然銀行的營業ヲ營ミ理事ツノ他當局者ニシテ往々投機事業ニ手ヲ
 出シ之レカ累ヲ組合ノ基礎ニ及ホスニ至レルナリ要スルニ「ライファイゼン」ノ基本ハ倫理的ニ在リ
 テ「シユルチエ、デリッチュ」ノ基本ハ經濟的ニ在ルノ差異アリ而シテツノ結果トシテ「ライファイゼン」
 式ハ主トシテ村落ニ行ハレ都市ニ適當セス「シユルチエ、デリッチュ」式ハ村落ヨリモ寧ロ都市ヲ適當
 トスルノ實況ヲ呈スルニ至ル

五、統計

普國中央產業組合金庫ノ調査ニヨレハ千九百八年獨逸全國内ニ存在セル信用組合ハ總數一萬六千九
 十二内ニ付無限責任組織ノモノ一萬四千九十二、無限保證責任組織ノモノ五十一、有限責任組織ノモ
 ノ千九百四十九アリ

第二項 消費組合

一、觀念及任務

消費組合トハ生活必需品ヲ多大ニ買入レ之ヲ組合員ニ個々ニ賣却スル所ノ產業組合タリツノ目的ト
 スル所ハ組合員ニ低廉ニシテ而モ品質ノ善良ナル生活品ヲ供給スルニ在リ

消費組合ノ效用ハ低廉ニシテ而モ品質良好ナル物品ノ供給テウ經濟上ノ利益以外ニ組合員ヲシテ物
 品買取ノ際ニ爲スヘキ現金拂ニヨリテ貯蓄ノ觀念及規律ノ氣風ヲ養成セシムルノ倫理的效能ニ在リ

二、歴史

消費組合ノ萌芽ハ十八世紀ニ於テ英國ニ發生セリツノ初メハ慈善家ノ團體ニシテ貧民ノ爲メニ穀物
 ヲ一手ニ買入レ「パン」ヲ製造シテ之レヲ貧民ニ安ク賣捌クコトヲ目的トセシカ何等特別ノ制度トシ
 テ見ルヘキ價值無カリキ

第二期ノ消費組合ハ即チ社會主義者 Owen ノ設立ニ係リタルモノニシテ既ニ組合的組織成リ組合員ヲシテ出資トシテ毎週一定ノ金額ヲ組合ニ拂込マレメ組合ハ純益ヲ組合員ノ出資拂込高ニ應シテ之レヲ組合員ニ分配セリ

第三期ノ消費組合ハ Rochdale ノ設立ニ係ルモノニシテ組合ハ物品供給者ヨリ物品ヲ買入ル、際並ニ之レヲ組合員ニ販賣スル際ニハ何レモ必ス現金取引ナルコト且組合員ヘノ販賣ハ時價ヲ以テスルコト組合員ヘノ純益配當ハ出資拂込高ニ依ラスシテ物品買入高ニ應スルコトヲ以テ制度ノ骨子トス此第三期ノ制度ハ實ニ獨逸カ英國ヨリ輸入シタルモノニシテ今日獨逸ニ存在セル消費組合ハ皆 Rochdale ノ主義ニ倣ヘルモノナリ獨逸ニ於ケル消費組合員ハツノ初メハ専ラ中産社會ノ市民ナリシカ労働者モ漸次消費組合ニ加入スル利益ヲ認メテ組合員タルモノ漸次増加シ今日ニ於テハ労働者ヨリ成ル消費組合ノ數最も多キヲ示スニ至レリ

獨逸ニ於ケル消費組合ノ發達ハ年ヲ追フテ盛ナリツノ然ル所以ハ消費組合ノ組織行政ハ他ノ産業組合ニ比シテ割合ニ簡單ナルコトモ一原因ナルカ特ニ最近ノ動機トシテハ千八百八十九年ノ法律ニ於テ有限責任ノ組合ヲ設立スルヲ許シ以テ消費組合ノ設立ヲ容易ナラシメタルコトニアリ實ニ今日ニ於ケル消費組合ノ九割強ハ有限責任組織ヲ有ス

三、組織、財政

消費組合ハ出來得ル限り一時ニ多量ニ物品ヲ仕入レ從テ時價ヨリモ安ク物品ヲ買入レ時價(但最低ノ時價)ヲ以テ組合員ニ販賣シ之レヨリ生スル差額ノ内ヨリ組合ニ要スル諸般ノ經營費用ヲ引去リ之レカ利益ヲ組合員ニ配當ス

消費組合ニ向テ物品ノ供給ヲ爲ス者ハ大商人アリ生産者アリテ一定セサレトモ最も多量ノ供給ヲ爲シ居ルモノハ千八百九十四年「ハンブルヒ」市ニ設立セラレタル Grosseinkaufsgesellschaft deutscher Konsumverein ニシテ之レカ供給高ハ千九百四年度ニ於テ約二千四百萬「マルク」ニ達セリト云フ

産業組合ノ實際家タル Kaufmann Crüger 等ハ獨逸ニ於ケル消費組合ノ基礎強固ナル所以ノ大原因ヲ以テ組合ノ當局者カ専ラ消費者ノ經濟的利益ヲ増進スルコトニ留意シ組合ヲシテ絶エテ政黨派ノ機關ヲラシメサルコト且物品ノ賣買ハ凡テ現金取引ニ在ルノ制度ニ歸セリ蓋シ消費組合ヲシテ政黨ノ機關ヲラシメメンカ經濟的利益ノ増進ヲ計ルテウ組合ノ大眼目ハ自ラ疎略ニ附セラル、ニ至ルヘク非現金取引ノ制度ヲ交ユルコトアラシカ組合ハ一方ニ於テハ物品ノ供給者ニ從屬セサルヘカラサルノ地位ニ陥リ他方ニ於テハ資金ノ運轉敏捷ナラサルノ不利益ヲ醸スニ至レハナリ消費組合ノ資本ハ組合ノ財産ト他ヨリノ借入金トヨリ成立ス組合ノ財産ハ組合員ノ出資拂込高ト純益金ノ繰入レ及組合員ノ入會金(通常五「ペンニヒ」我約二十五錢)トニヨリテ生スヘキ準備金トヨリ成ル 出資拂込高ノ法定最少限度ハ出資ノ一割ニシテ準備金ノ額ハ普通ノ定款ニ於テハ總出資高ノ五分ナリト定ム他

ヨリノ借入金ハ創立當初ニ於ケル物品什器等ノ買入ノ爲メニ要シテ債券ノ發行ニヨリテ充實ヲ計ル所ノ巨額ナル借入ノ外ニハ只組合員ノ貯金アルノミ千八百七十八年 Eisenachニ於ケル組合大會ハ議決シテ曰ク消費組合ハ少クトモ年々五回ハ資金ノ運轉アルコトヲ要シ販賣方ノ迅速ナル物品ヲ買入ル、コトヲ要ス販賣不活潑ナル物又ハ生肉ノ如キ腐敗ノ恐レアルモノハ資金ノ回收ヲ困難ナラシムルヲ以テ買入ル、コトヲ避ケサルヘカラスト、統計ニ徴スルニ獨逸ニ於ケル消費組合ノ一年間組合員一人ヘノ賣捌高ハ平均二百四十二マルクニシテ資本運轉ノ度數ハ一年平均八回ナリト云フ從テ一個出資ノ相當ナル額ハ三十マルクナリト云フコトヲ得而シテ産業組合法ノ規定スル所ニ依レハ法定ノ出資拂込高ハ出資ノ一割ナルヲ以テ消費組合ニアリテハ組合員ヲシテ先ツ入會ノ際ニ直ニ一「マルク」次ニ向フ三箇月間ニ一「マルク」合計三「マルク」即チ3/30(一割)ヲ拂込マシムルコトヲ強制シ爾餘ノ拂込ハ組合員各個ノ自由ニ放任シテ可ナリトハ當局者ノ意見ナリ

消費組合ノ機關トシテハ組合總會、理事、監事アルコト他ノ産業組合ト異ル所ナシ此外消費組合ノ特色トシテ販賣主任及販賣ニ従事スル店女(ウリコ)アリ何レモ報酬ヲ得テ勞務ニ服ス

消費組合ハ亦多クハ組合連合會ヲ組織ス連合會ノ作動ハ信用組合ノ連合會ニ關シテ述ヘタルモノト同シ

本來産業組合ノ理想ヨリ云ヘハ一ツノ産業組合カ同時ニ他ノ種類ノ産業組合ノ事業ヲ兼營スルコト

ハ不可ナリ消費組合ニアリテハ例ハ信用組合ノ事業ヲ兼營スル如キハ全ク性質ノ相異レル二個ノ産業組合ヲ結合スルモノニシテ不得策ナリ唯消費組合ト最モ縁故ノ近キ生産組合トノ合體ハ必スシモ不可ナリトセス現ニ實例モアリ例ハ漬物類又ハ鑛水ノ製造ノ如キ之レナリ又獨逸ノ村落ニ於テハ往往消費組合ニシテ原料購買組合ト合體スルモノアリ之レ亦實驗上不可ナシ然レトモ經營ニ特別ノ技能ト特別ノ資本ヲ要スル事業例ハ「パン」焼業、屠肉業ノ如キモノ、兼營ハ獨ニ於テハ何レモ失敗ノ歴史ヲ遺セリ

四、消費組合ニ對スル反抗

消費組合ノ反抗者ハ中小商人ニシテ消費組合ノ活動ノ爲メニ自己ノ營業範圍ヲ縮少セラル、ヲ以テ中小商人ハ種々ノ手段ヲ以テ消費組合ノ發達ヲ阻害シツ、アリ是等商人ノ反抗ハ政府ヲ動カシ先ツ第一ニ組合員以外ニ販賣ヲ爲ス組合ニハ制裁ヲ加フルノ法律ヲ發布セシメタルノミナラス獨逸ノ多數ノ聯邦ニ於テハ消費組合ニ對シテ營業稅、所得稅及賣買稅ヲ賦課シツ、アリ固ヨリ消費組合ハ商行爲ヲ營ムモノナリ然レトモソノ營業振リノ主眼トスル所ハ利益ノ獲得ニハ非スシテ細民タル組合員ヲシテ低廉ニ物品ヲ買入レシムルニアリ換言スレハ支出ノ節約ヲ期スルニアリ細民特ニ勞働者カ之レニヨリテ支出ノ節減ヲ得ルハ實ニ社會政策ノ一端ナルヲ以テ國家カ消費組合ニ對シテ如上ノ租稅ヲ徵課スルハ頗ル不當ニシテ特ニ賣買稅ノ如キハ不合理ノ甚シキモノナリトハ社會政策家ノ非難

攻撃スル所タリ

五、普國中央産業組合金庫ノ統計年報(千九百八年度)ニヨレハ獨逸ニ於ケル消費組合ノ統計ハ左ノ如

組合數 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、一百〇一、一百〇二、一百〇三、一百〇四、一百〇五、一百〇六、一百〇七、一百〇八、一百〇九、一百一〇、一千九百八年一月現在

六、伯林郊外 Schöneberg 市ニアル官吏消費組合ノ實況

有限責任組織ニシテ「フライリヒ」街五十四番地ニ事務所及中央金庫ヲ設ク組合員ハ主トシテ官吏ヨリ成ル官吏ノ數ハ總組合員ノ九割五分ヲ占ム總組合員數ハ目下約五千人アリ尙消費組合ノ制度ハ細別スレハ左ノ三種トナル

- 一、組合員ニ物品ヲ販賣スルコト(消費組合トシテノ本來ノ目的)
 - 二、組合カ伯林所在ノ「チーツ」勸工場ト特別ノ契約ヲ爲シ組合員ニ對シテ平均六分ノ割引ヲ與ヘシム即チ組合員ハ組合ヨリ交付セラレタル組合員證明券ヲ持參スルトキハ當該勸工場ハ普通ノ顧客ニ對スルヨリモ六分ノ割引ヲ行フ
 - 三、組合員及ツノ家族ノ爲メニ Notsee 村ニ二個ノ建物ヲ設ケ暑中休暇ノ際等ニ避暑セシムルノ便宜ヲ供ス即チ實費ニテ衣食ヲ給ス
- 組合ノ事務ニ従事スルモノハ何レモ官吏ニシテ無報酬ナリ只理事ノ内一人ノ商人アリテ年々五千

「マルク」ヲ俸給ヲ得ルアルノミ又販賣主任及店女カ相當ノ報酬ヲ(年々千二百マルク乃至千五百マルク)得ルハ勿論ナリ

販賣支所ハ伯林市及郊外ヲ合シテ十一箇所アリ物品供給者ヨリ來レル物品ハ一旦組合ノ中央倉庫ニ受入レ然ル後ニ販賣支所ニ配達ス組合員ハ各自最寄りノ中央倉庫又ハ支所ニ就キテ物品ヲ受取ラサルヘカラス

物品ハ食料品ノ凡テニ互ル唯生肉ハ腐敗ノ恐レアルヲ以テ取扱ハス

組合ノ資金ハ組合員ノ出資拂込高ト準備金(純益ノ五分ヲ積立ツ)トヨリ成ル遊金アラハ「獨逸銀行」ニ預入レヲ爲ス現時資金ハ豊富ニシテ借入金更ニ無シ

組合員ヘノ販賣價格ハ最低市價ニシテ組合員ハ決算期ニ至リ組合ヨリ購入高ニ應シ純益ノ配當ヲ享ク配當率ハ普通五分乃至六分ナリ

組合員ニシテ各官省ニ在ル官吏ハ當該官省ニ在ル被信託人(消費組合ト各個ノ組合員トノ連絡ヲ計ル所ノ媒介機關ニシテ勿論官吏タリ)ヲ通シテ一時ニ「マルク」以上ノ買入ヲ求ムルトキハ消費組合ハ中央倉庫ヨリ直接ニ物品ヲ當消費者ニ配達ス販賣支所ヲ經由スルノ必要ナク從テ費用ヲ節約シ得ルヲ以テ普通ノ販賣價格ヨリ一割ノ割引ヲ與フ之ヲ優先販賣價格ト云フ

組合カ供給元ヨリ買入ル、價格ト組合カ組合員ヘ販賣スル價格(普通販賣ノ場合ニシテ割引ノ場

合ニ非ス)トノ差異ハ如何ト云フニ後者ハ前者ニ對シ平均二割乃至二割五分高シ更ニ市價並ニ優先販賣價格トノ關係如何ト云フニ大要左ノ如ク表示スルコトヲ得(普通販賣價格ヲ標準トシテ)

買入價格	優先販賣價格	普通販賣價格 (農産品)	市價
80%	90%	100%	110%

第三項 生産組合

一、觀念及種類

生産組合トハ物品ノ生産及販賣ヲ目的トスル所ノ産業組合ナリ從テ農業上ノ生産組合ト工業上ノ生産組合トニ分ル

農業上ノ生産組合ニシテ獨逸ニ存在スル重ナルモノハ内地殖民組合、牛乳類生産組合、果實販賣組合、葡萄耕作組合、麥酒釀造組合、「パン」焼組合、屠肉組合等ニシテ最後ノ「パン」焼組合及屠肉組合ハ資本ヲ要スルコト大ナルト特別ノ技能ヲ有スルトニヨリテ何レモ失敗ノ歴史ヲ有ス工業上ノ生産組合トシテ重ナルモノハ印刷業組合、裁縫組合、製靴組合、「シガー」組合、煉瓦組合、石灰製造組合、美術工藝組合、炭酸製造組合、馬車製造組合等ナリ

農業上ノ生産組合ハ獨逸ニ於テハ最近ノ産物タルニ拘ラスソノ發達ハ佳良ナリ殊ニ牛乳類生産組合

ヲ然リトス之レ必スレモ農業上ノ生産事業カ生産組合ノ組織ヲ絶對ニ必要トスルノ理由アルニ非ラズシテ有限責任ノ株式會社組織ニヨリテモ亦能ク同一ノ目的ヲ達シ得ヘキニヨリ此レヲ以テ生産組合ノ效績トシテ稱揚スルハ早計ナリトハ Ober ノ説ク所ナリ

生産組合ノ本來ノ意ニ從ヘハ手工業者又ハ労働者ノ生産組合コソ眞個ノ生産組合ナリ何トナレハ此種ノモノハ眞ニ産業組合ノ骨子タル所謂人ノ結合ニシテ各組合員ハ自治ノ精神ヲ以テ事實上組合ノ事ニ從ヘハナリ然ルニ人ニヨリテハ工業上ノ生産組合中ニ右二種ノ生産組合ノ外ニ猶企業家生産組合並ニ消費者生産組合ノ二種ヲ數フルモノアリ消費者生産組合トハ消費者カ生活必需品ヲ廉價ニ取得センカ爲メニ組織セルモノ又ハ消費組合ヲ通シテ同一ノ目的ヲ達スル制度ニシテ本來ノ意義ニ於ケル生産組合ニ非ス企業家生産組合トハ資本ノ結合ニシテ人ノ結合ニ非ス從テ之レ亦其ノ生産組合ニ非ス

二、生産組合特ニ工業上ノ生産組合ニ伴フ缺點乃至困難

生産組合特ニ工業上ノ生産組合ノ獨逸ニ於ケル成績ハ他ノ産業組合ニ比較スレハ頗ル不良ニシテ彼ノ産業組合ヲ以テ自治的社會的政策中ノ理想的制度ナリトシテ稱揚スル人々ト雖モ生産組合ノ將來ニ就テハ頗ル悲觀的ノ觀察ヲ爲スモノ多シ何カ故ニ生産組合ノ發達不良ナルヤニ付テハ實ニ左ニ述フル所ノ制度ツノモノニ附隨スト見ルヘキ困難乃至缺點ヲ以テ答フルコトヲ得

- (一) 他ノ産業組合ニアリテハ組合員ハ組合ノ事業以外ノ獨立ノ生活資源ヲ有ス從テ組合ノ破産ハ同時ニ組合員ノ破産ヲ意味スルモノニ非ス然ルニ生産組合ニアリテハ事情此ノ如クナラスレテ組合員ノ生命ハ實ニ組合ノ事業ノ盛衰ニアリテ存ス
- (二) 大ナル資金ヲ要ス特ニ創立ノ當初ニ於テ然リ從テ國家ノ多大ナル補助ヲ享クルカ然ラズンハ組合員中ニ唯資本ノミヲ提供シテ組合ノ事業ツノモノニハ何等ノ勞力ヲ給セサル所謂大資本家ヲ加フルコトヲ必要トスルニ至リツノ當然ノ結果トシテ手工業者勞働者ノ如キ資本無キ輩ハ全然資本家ニ從屬セサルヘカラサルノ結果トナリ組合ノ純益ノ配當分ハ資本ニ屬スル部分カ勢ヒ勞力ニ屬スル部分ヨリモ多キニ上ルノ結果ヲ來シ組合本來ノ目的タル勞働者又ハ手工業者ノ獨立ヲ期待スル如キハ結局一片ノ夢想タルニ止マルコト、ナル
- (三) 手工業者ハ獨立不羈ノ氣象ニ富ム從テ組合ノ指揮者タル理事ノ如キ機關ハ手工業者ヲ統御スルニハ特別ノ技能ト德望ヲ有セサルヘカラス然レトモ此ノ如キ適材ヲ得ルコトハ實際上非常ニ困難ナリ
- (四) 生産セル物品ノ適當ナル販路ヲ見出スニハ亦組合指揮者ノ特別ナル手腕ヲ要ス特ニ普通ノ獨立營業者(組合ニ加入セサル)トノ競争ヲ覺悟セサルヘカラス
- (五) 新ニ加入ヲ望ム者ヲ歡迎セシメテ之ヲ排斥スルノ事實アリ何トナレハ生産組合ノ事業カ利益配當ヲ獲ルニ至ル迄ニハ長キ年月ト組合員ノ大ナル奮勵トヲ要ス從テ舊來組合員タリシモノハ自己

ノ辛キ勞苦ニヨリテ漸ク生スルニ至リタル利益配當額カ新入者ノ爲メニ幾部分減殺セラル、コトヲ思メハナリ

以上ノ困難乃至缺點ニヨリ生産組合ノ發達ハ不良ナリ從テ亦生産組合ノ前途ハ寧ロ悲觀スヘキノ實況ナリト雖而モ生産組合ニ適恰セル工業ノ種類ナキニ非ス即チ如上ノ缺點乃至困難ノ伴フコト少キニ止マル所ノ美術工業又ハ家庭工業ノ如キ然リ (Petersilie 氏ノ説)

三、統計

Petersilie 氏ノ調査ニヨレハ千八百九十三年ニ獨逸ニ存在シタル生産組合ノ總數ハ三百二十二ナリシカ千九百四年ニハ一百九ニ減少セリ即チ此期間内ニ於テ二十二ノ組合ハ組織ヲ變更シ百九十ノ組合ハ全然解散ノ不幸ニ逢ヘリ更ニ消費者生産組合竝ニ企業家生産組合ヲ除ケル真正ノ意義ニ從ヘル生産組合即チ勞働者、手工業者ノ組合ニ付テ云ヘハ先キ千八百九十三年ニ存在セシモノ百九十九ナリシカ千九百四年ニハ三十四ニ減少セリ即チ殘存セル數ハ唯二十七プロセントニ止マルノ有様ナリ營業ノ狀況ニ付テハ生産組合ノ多クハ成績ヲ秘密ニ附スルヲ以テ全班ヲ知ルコトヲ得サレトモ千九百四年度ニ於ケル十個ノ生産組合(六百八十三ノ組合員ト百二萬六千六百三十七「マルク」ノ販賣高トヲ有セル)ノ成績ハ純益合計九萬三千四百四十九「マルク」ニ止マレリ即チ平均一組合員ノ純益年額ハ百三十七「マルク」ヲ過キス

獨逸以外ノ諸國ニ於テハ先ツ埃國ニ於テハ同國官衙ノ年報ニヨレハ工業上ノ生産組合ハ同國ニ於ケル産業組合ノ病兒トモ云フヘク何等ノ進歩發達ヲ見スト云ヘリ佛國ニ於テハ千八百九十八年ニ百十一个ノ組合アリシモノカ千九百二年ニハ二百五十二増加セリ之レ畢竟國家及巴里市カ大ニ生産組合ノ發達ニ扶助シタルノ結果ナリト云フ英國ニ於テモ手工業家労働者ノ生産組合ハ消費者生産組合ニ比スレハ販賣高ニ於テモ純益ニ於テモ數歩ヲ讓ルノ實況ナリト云フ

第四項 建築組合

一、觀念

建築組合トハ主トシテ労働者又ハ官吏カ自己ノ爲メニ家屋ヲ賃借スル目的ヲ以テ又ハ家屋ヲ所有ニ歸スルカ爲メニ家屋ヲ建築スルコトヲ目的トスル所ノ産業組合ナリ故ニ建築組合ハ分テ三種トナル所有ニ歸スヘキ家屋ヲ建築スルモノ、賃貸家屋ヲ建築スルモノ及兩者ヲ兼ヌルモノ之レナリ

二、歴史

獨逸ニ於ケル建築組合ノ發達ハ千八百六十年代ニ初マル蓋シ工業ノ進歩發達ハ労働者ヲシテ工業ノ中心點ニ集中セシムルノ結果此ノ地方ニ於ケル家屋賃貸料ノ騰貴ヲ引起シ細民ヲシテ無慈悲ナル家主ノ下ニ不當ニ高キ屋賃ヲ支拂ヒ不健康ナル家屋ニ住スルノ已ムヲ得サルニ至ラシム此ノ苦境ヨ

リ労働者ヲ救ヒ出サンカ爲メニ生シタルモノハ即チ建築組合ニシテ實ニシニルチユ、デリツチユ元祖トス然ルニ千八百七十年代ニ起リタル經濟界ノ恐慌ハ從來成立シタリシ建築組合ノ大部分ヲシテ破産ノ不幸ニ陥ラシメタリシカ更ニ千八百八十九年ノ産業組合法カ有限責任組織ノ産業組合ヲ認ムルニ至リテ建築組合ノ設立ハ爾來年ヲ追フテ盛トナレリ Crügerノ調査ニヨレハ千八百七十一年ニハ二十三個、千八百九十年ニハ三十八個、千九百年ニハ三十二個、千九百一年ニハ三百八十五個、千九百二年ニハ四百六十六個、千九百三年ニハ四百九十八個、千九百四年ニハ五百五十個、千九百五年ニハ六百十七個トナリ千九百七年ニ於テハ七百四十七個ニ上リ内ニ付七百二十六ハ有限責任組織ノモノナリ以テ如何ニ千八百八十九年ノ産業組合法ニヨリテ建築組合ノ發達カ容易ニ且ツ多數ニ上レルヤヲ知ルニ足ルヘレ

三、財政

建築組合カ家屋ヲ建築スルニ當リテハ差當リ先ツ土地ヲ購入セサルヘカラス材木ヲ仕入レサルヘカラス從テ他ノ産業組合ニ見サル程ノ多大ナル資本ヲ要スルハ論ナシ故ニ徐々ニ蓄積セラレヘキ組合員ノ出資拂込高及組合ノ準備金ノミヲ以テシテハ到底資金ノ不足ヲ訴ヘサルヲ得ス是ニ於テカ他ヨリノ借入金カ建築組合ニ於テハ主要ナル資本トナル借入ノ形式ハ多クハ債券ヲ發行スルカ又ハ不動產抵當銀行ヨリ土地及建築サルヘキ家屋ヲ抵當トシテ資金ノ融通ヲ請フニアリ例ハ伯林市ニアル「官吏

住宅建築組合「ハ千九百年ノ設立ニ係リ官吏ノ爲メニ賃貸家屋ノ建築ヲ目的トスル官吏ヨリ成ル産業組合ナルカツノ資本ノ充實方法ハ官吏タル組合員ノ出資額(三百「マルク」)拂込高ト組合員竝ニ第三者ノ貯金高及債券ノ發行トニヨリテ之レヲ行フ出資拂込高ハ現今三百五十萬「マルク」、貯金高ハ五十萬「マルク」、債券發行高ハ五百二十五萬「マルク」ニ達セリ債券額ハ即チ土地買入ノ爲メニ要シタル金ニシテ年賦償還ノ方法ニヨリテ償還スヘキ筈ナリ債券ノ引受人ハ組合員ノ外ニ土地ヲ組合ニ賣却シタル當該地主タリ家屋建築資金ハ普國中央産業組合金庫ヨリ有價證券及土地ヲ擔保トシテ融通ヲ請ヒツ、アリツノ他猶伯林市立地主組合、ブランデンブルヒ養老保險所、二三ノ私立保險會社、二三ノ財團法人ヨリモ抵當債務ヲ負擔ス

建築組合ニシテ市町村ヨリ無擔保ノ信用ヲ受クルモノアリ或ハ市町村有ノ土地ヲ無償ニテ讓受ケ又ハ低廉ナル賃借料ヲ支拂フニ止マルモノアリ地租、土地賣買稅、道路、河川、水道等ノ手数料ヲ免除又ハ輕減セラル、ニアリ市町村ニシテ建築組合ノ債券ヲ引受クルモノアリ市立貯蓄金庫ニシテ建築組合ニ無擔保ノ信用ヲ與フルモノアリ

四、統計

Crügerノ調査ニヨレハ千九百四年ニ獨逸内ニ存在シタル百四十二ノ建築組合カ設立以來建築シタル家屋ハ組合員ノ所有ニ歸スヘキ筈ノモノ千八百四十九(住宅數四千二百二十八)貸家千七百八十四

(住宅一萬七百十六)借家料七千二百八十一萬「マルク」ニ及ヒ建築組合ノ資産ハ八千十八萬「マルク」内ニ就キ準備金及出資拂込高千三百三十一萬六千七百五十二「マルク」ヲ計上セリ更ニ出資一口ノ額ハ他ノ産業組合ニ於ケルヨリモ多キハ勿論ニシテ同レク Crügerノ調査ニヨレハ千九百三年ニ於ケル四百九十一個ノ建築組合ニ就キ一「マルク」乃至五十「マルク」ノ出資ヲ定款ニ規定セルモノ三十、百「マルク」ノ出資ノモノ九十、百二十乃至二百「マルク」ノモノ二百十六、三百「マルク」ノモノ百九、五百「マルク」乃至千「マルク」ノモノ二十四、二千「マルク」乃至五千「マルク」ノモノ三アリ

第五項 原料購買組合

一、觀念

原料購買組合トハ農業上又ハ工業上ノ原料及器具ヲ多量ニ買入レ之レヲ個別的ニ組合員ニ販賣スルコトヲ目的トスル産業組合ナリ通常販賣倉庫組合ト連結シテ存在スルコト多シ

二、財政

資本ハ組合員ノ出資拂込高、純益繰入ヨリ生スル準備金組合員竝ニ第三者ノ貯金及銀行又ハ信用組合ヨリノ借入金ヨリ成ル
利益配當ノ準則ハ消費組合ニ於ケルト同シ而シテ組合員カ組合ヨリ買受ケタル原料器具ニ對シテハ

現金取引ヲ確守スル必要アルコトモ亦消費組合ニ於ケルト同シ責任ハ有限責任ニテ充分ナリ但出資高ヲ多ク定ムルノ必要アリ (Ortigerノ説)

三、成績

工業上ノ原料購買組合ハ獨逸ニツノ端緒ヲ啓キタリ即チ千八百五十年靴工ノ間ニ結ハレタルモノヲ初メトス當時製靴ニ要スル皮革カ甚タ高價ナリシカ爲メニ中間商人ヲ除外シ低廉ニ皮革ヲ仕入ル、目的ヲ以テ起リタルモノナリツノ目的トスル所固ヨリ間然スル所ナカリキ即チ此制度ノ生シタルニヨリテ從來ノ如クニ中間商人ニ對シテ代金ヲ支拂フコトヲ得スシテ之レカ從屬ノ地位ニ陥ルノ結果ヲ見ルコトナク從テ經濟上將又社會上稱揚スヘキ制度タルニ拘ラス爾來著シキ發達ヲ見ルコトナクシテ今日ニ及ヘリツノ所以ハ種々アリト雖モ要ハ運用ツノ宜シキヲ得サルニ在リ殊ニ組合カ皮革仕入元ニ對シテ支拂フヘキ代金ノ出處ニ苦ミテ之レニ對シテ從屬ノ地位ニ陥ルニ至リ甚シキハ販賣主任タル使用人ニ請ヒテ仕入代金ノ立替ヲ求メ之レカ爲メニ販賣主任ノ爲メニ利益ヲ壟斷セラレタル如キハツノ重ナル原因トシテ擧ケサルヘカラス故ニ Ortiger ハ曰ク組合員ハ宜シク組合ニ對シテ組合ヨリ買入レタル原料ノ現金拂ヲ嚴守スヘク又組合カ金融ノ必要ニ迫レル如キ際ニハ仕入元又ハ販賣主任ニ依頼スルコトヲ爲サス宜シク信用組合ヨリ金融ヲ請フヘシト猶從來當組合ノ不成績ナリシ原因トシテ Petersilie 氏ハ組合員ノ一致和合ノ欠缺セルコト、理事ノ職ニ在ルモノカ商業的智識ヲ缺ケルコトヲ擧ゲタリ

工業上ノ原料組合ハ此ノ如ク不成績ナリシニ引換ヘ農業上ノ組合ハ經營ノ性質單純ナルカ爲メ獨逸ニ於テハ良好ナル成績ヲ擧ゲタリ例ハ肥料ノ如キニ付テ云フモ品質ノ良否ハ化學的研究ニヨリテ講別シ得ル程單純ナレハナリ

四、統計

千九百八年一月現在數

農業上ノモノ
工業上ノモノ

組合員
組合員

一、八四五
二、九九五

一六〇、二四二
一一、二二二

第六項 販賣倉庫組合

一、觀念

販賣倉庫組合トハ中小階級ニ屬スル農業者又ハ工業者カツノ生産セル物品ヲ自己ノ計算ニ於テ販賣センカ爲メニ共同的ノ販賣倉庫組合ヲ設立シ維持スル目的ヲ以テ成レル產業組合ナリ蓋シ各自別々ニ生産品ノ貯藏販賣ニ必要ナル倉庫ヲ獨力ニテ設立維持スルコトハ多大ノ費用ヲ要シ中小階級ニ在ル者ニ取リテハ不可能ナレハナリ

販賣倉庫組合ハ亦分テ農業上及工業上ノ二種トス

二、組織、財政

資金ハ組合員ノ出資拂込高及純益ノ繰入レヨリ生スヘキ準備金、組合員竝ニ第三者ノ貯金ヨリ成ル